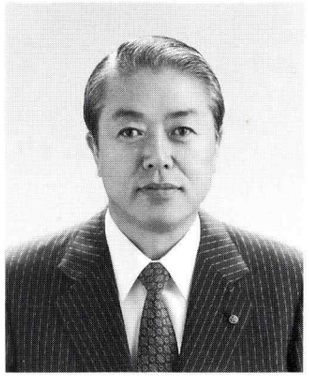
島原市の環境カルテ

島原の道祖神・石垣

昭和62年３月

島原市企画課・建設課

環境カルテの発行にあたって



島原市は，昭和59年度に建設省の「地域住宅計画（ホープ計画）」のモデル都市として選ばれ，引き続いて，昭和60年度には環境庁による「快適環境整備都市」に選定されました。両計画は，いずれも温暖な気候と豊かな水と緑などの自然環境に恵まれた本市について伝統の良さを保ちながら，より快適な活力ある地域として整備していこうとするものであります。

この「環境カルテ」は，両計画策定の資料として本市の環境の現況を調査し取りまとめたもので，その作成にあたって長崎県建築士会島原支部青年部及び県立島原工業高等学校の方々に道祖神・湧水・石垣・住宅等についての綿密な調査をしていただきました。この機会に，そのご尽力とご協力に対して深甚なる謝意を表するものでございます。

また，このカルテの作成の過程で，島原地方特有の道祖神についての考察を本市の文化財保護審議会委員である吉田安弘先生にご執筆いただけたことも，幸甚に存じているところでございます。先生には，ご執筆の傍ら，自らカメラを持って特徴のある道祖神を数多く撮影していただいておりますが，本誌に掲載できたのはその一部に過ぎません。

本誌は，このように多くの人々のご協力によってまとまった結果を記録として留どめ，より多くの人々に環元することを目指して発行するものであります。市民の方々には現在住んでいる地域の状況を知るものとして，また行政に携わる人にも地域を知る資料としてご利用いただければ幸いに存じます。

なお，湧水につきましても１項を設けることを考慮しましたが，今回は紙面と時間の都合により見合わせております。いずれかの機会に実現するよう努力したいと考えております。同じ理由から，地域のカルテ部分の印刷については，総数52枚の内，その大半を割愛せざるを得ないことになりましたが，各町内毎のカルテの原本は市役所企画課で保存しておりますので，詳細を調査したい方はご連絡下さい。

また，資料に誤りや不明確な点がございましたら，ご指摘下されば幸いに存じます。

昭和62年３月

島原市長　鐘ケ江　管　一

目　　次

島原の道祖神
1．道祖神としての猿田彦……3
2．猿田彦と猿石の源流について……3
3．猿田彦石像の造像的様式……6
4．庚申猿田彦……7
5．異型の道祖神……8
6．道祖神としての道祖御前……11
7．石　　畳……12

島原市の石垣について……14

島原の道祖神

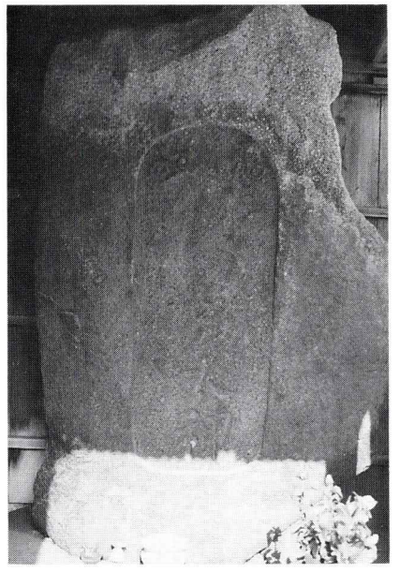
島原市文化財保護審議会委員　吉田安弘

1．道祖神としての猿田彦

島原半島における道祖神は，なんと言っても猿田彦の石像であろう。猿田彦は，島原市内から島原半島の郡部地域にくまなく散在している。

猿田彦の大神は，天孫降臨の時に天孫瓊瓊杵尊（ニニギノミコト）を御先導申し上げたという故事にちなみ，神々を先導する嚮（ミサキ）導神として，道の八衢（ヤチマタ）に立ち，旅の安穏と交通の無事を祈る神として，庶民の信仰を集めてきたが，古代史研究家・吉田大洋氏は，「猿田彦が天孫を案内したのは日向の高千穂であり，その信仰が盛んなのは長崎県の南部から熊本県にかけてである。島原では街角という街角に猿田彦大明神を祭っている。伊勢神宮に猿田彦神社があるが，これは，猿田彦が伊勢の海で死んだという伝承に基づくからである。嘗て猿田彦は九州の土豪であった……」と説いているし，他にも猿田彦は，東南アジア系の航海民土豪であったという古代史研究家もいるほどである。

現在，島原市の道祖神には猿田彦のほかに地蔵（六地蔵を含む），庚申，水神，竜神（蛭子を含む），不動尊，観音，稲荷等多様にみられる。他に猿田彦系として猿石，青面金剛等もある。道祖御前（ダヨゴゼ）の石像は旧中木場村下村名に祭られている。旧三会村下町にもその伝承は残っているが，現在は消失している。寛政の地変で不明になったのではなかろうか。道祖神はなんと言っても猿田彦の石像が圧倒的に多い。又猿田彦を中心に水神，地蔵，稲荷，竜神等の石像は，二体，三体併設して祭られているものもある。



湊町　島原で一番大きな猿田彦

島原市内における猿田彦の石造物を年代的に考察すると，三会，杉谷，萩原地区が古く，湊，船津，安中地区は比較的新しい。恐らく寛政の地変後，新しい町造りの意図のもと，町の辻々に配置されたものと思われるが，造像は変化に富み多彩である。これらの石像こそ，後記する「庚申猿田彦」の石像であろうと思料される。「庚申猿田彦」の石像は，松平氏入府後招来されたものであろう。藩主松平忠房によって招聘された伊藤栄治は伊勢派渡合道の神道学者である。

白土湖の猿田彦

島原半島の神社は伊藤栄治によって整備，改変されているが，彼はこの地に古くから猿田彦信仰が存続していることに基づいて，伊勢神宮と関係のある猿田彦大神を勧請したのではなかろうか。そして松平氏は譜代であるため，徳川幕府と最も関係のある「山王社」を萩原の地に招来したものであろうと推察する。松平氏の藩日記によると，「山王社」の祭礼は島原住民の町の行事の一つとして賑ったことが記されている。

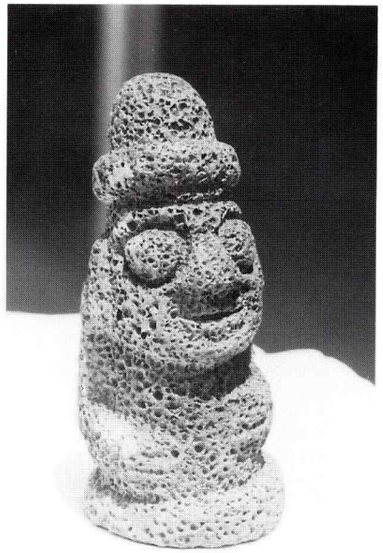
さきに猿田彦の石造物は三会地区が年代的に遡ると記したが，特に三会寺中名の猿田彦は，陰陽型の性神石系で，石像に記された文字の刻印も後世において彫りこまれたことが明確である。片町新田氏宅の猿石は無銘で異色の石造物であるが，造像の時期ははっきりしていない。

昭和60年10月30日発行の島原市建設課の調査書によれば，道祖神猿田彦系の石造物は合計437基と記録されている。昭和50年初頭に一度「島原半島の古代中世を解明する会」（古田正隆，柚木伸一，吉田安弘）が調査をしたが，再度調査書に基づいて現地を巡回してみると，中には往時の石造物がいくらか消失しているのも見受けられた。建設課の調査の数字はほぼ正確であろうと思われるが，個人の住家に祭られているのも見られるので，それらを推定すると500基内外ではなかろうか。そして，調査書には「道祖神は街中を歩けば必ず道路の交差点に祭ってある。四差路のときは登って左角，三叉路では登って左角，登って突きあたるときはその正面で，ほとんど東向きに祭られている……」と細かい観察がでている。

猿田彦やその他の道祖神に使用された石材は，大抵地元の雲仙石，安山岩が多く，中には（主として仏像）南有馬方面の菖蒲田石もある。水蝕石や穿穴岩もみられるが，その数は少ない。水蝕石の猿田彦はその姿が呪的でひときわ異彩を放っている。

2．猿田彦と猿石の源流について

猿田彦について最近民族学者や人類学者の間では，江南大平洋圏の海人族，又は古代印度からの渡来神ではなかろうかという説がでている。神戸大学教授橋本峰雄氏によると，「インドの各地では，村の入口に道祖神として「猿型」の石像が立って



済州島の猿石

いて，その石像に不妊の女が全裸になって妊娠を祈るとか，又インドネシア方面の回教が侵入しなかった唯一の地であるバリー島では，男女の巨大な性器を強調した石像を愛の神「マスラ」として祭っている。ポリネシアの道祖神テイキーの石神も又，猿の姿で祭られている。マスラは即ちマシラ＝猿に通じ，猿の源流とも思われる……」と述べている。

猿田彦と並んで類型的な石造物に「猿石」がある。猿石は猿田彦よりも始原的で，猿の形をして両手を胸に置いている。大和飛鳥地方の猿石は著名であるが，未だ種々の説があってその意味は明確でない。島原半島における猿石の発見は昭和54年である。有家町の依嘱を受けて，古田正隆，吉田安弘（島原市文化財保護審議委員）が町の古代中世の遺跡調査に当たり，四面宮山手の妙香古墳の台上に異型の石像物２基を発見したことに始まる。面相は人の顔にも思えるし，獅子の面にも見える。１基の石像には巨大な男根が屹立し，両手で抱いている。飛鳥の「猿石」の３基の１基にも男根がついている。有家町ではその後引き続き同系統の石像が発見された。その石像は有家の港から山手にかけて残存し，地元ではそれらを「盲地蔵」または「聾地蔵」と呼称しているが，一見して仏教の痕跡は全くない。そして有家港の入口には巨大な猿の石像が祭られている。これらの石像は往時，マスコミや報道機関に話題を提供し，考古学者であり同志社大学教授の森浩一氏も来島した。森氏は「竹べらとペン」という著書の中に，「三つの猿石」と題して，「韓国猿石について「石獅子」といわれているが，全体の姿，顔，手の表現が飛鳥の猿石に酷似しているのを知って驚嘆した。有家の猿石は年代が定めにくいが，猿石の仲間として検討する価値は十分である」と記している。

この種の猿石が再び吾妻町吹ノ原の民家から発見された。この猿石は簡素な作りで，猿石の始原とも思われる。この猿石については昭和58年発行の「吾妻町史」（執筆吉田安弘）に記載している。ところが，昭和56年に引き続き，同系統の猿石が島原市片町新田潔氏宅に発見されて，関係者は驚いたのである。この石像は有家町や吾妻町の猿石に比べ，工法も精緻で飛鳥の猿石に一番似ている。比較的に頭部は小さいが，両手を胸に抱き，そして下肢には巨大な男根が屹立している。新田氏によると，昭和50年頃家屋新築の際，庭先の老松の根元から掘り出したということである。無銘で文字は何もない。

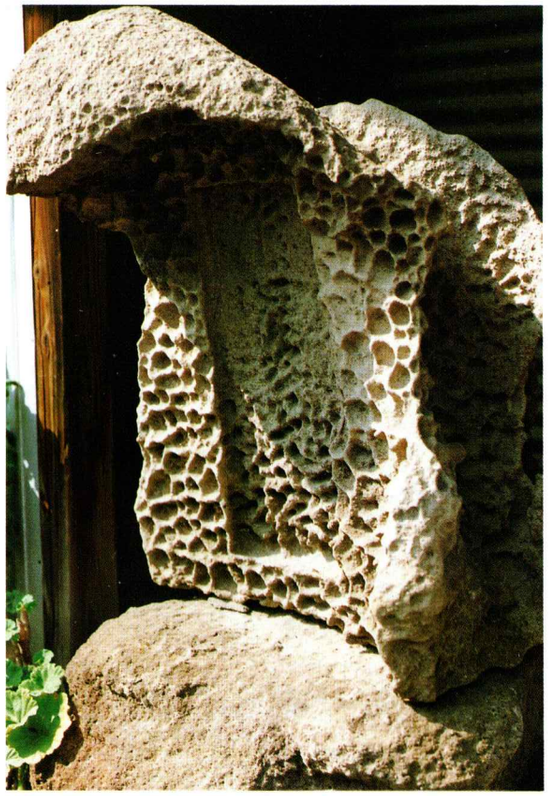
それまで，著名な猿石として韓国に２基，大和の飛鳥に３基があった。海を渡って韓国益山の弥勒寺跡を調査した仏教美術学者久野健氏は，「古代朝鮮仏と飛鳥仏」の中で両国の猿石について，「……石仏ではないが石人で韓国，日本の関係を考える上で貴重な遺品である。70～80センチメートルの自然石で両手を胸にあてがい，これらは飛鳥地方の猿石といわれる石人によく似ている。飛鳥仏がいずれも線的要素の多い彫刻であるのに対し，飛鳥の石人像は画面的要素が多く，仏教とは関係のない遺品と考えてきたが，この石像が弥勒寺跡にあることは，こうした考え方に再考を促すと共に，飛鳥石人像と，朝鮮半島の関係が暗示される……」と述べている。

千々石町男根の地蔵

久野氏が弥勒寺との関係を述べられたことから，この鋭い考察にヒントを得て，私は県内の弥勒寺と名のつく古地名を調べてみた。大村市に弥勒寺名があって，そこに弥勒寺という寺院遺跡を見出したので，早速古田正隆氏と共同調査にはいった。ところが，現地の弥勒寺跡から多くの石造物（供養碑等）が出土した。その中に「陽林」と刻んだ石碑を発見したのである。見馴れない漢語の解明に苦労したが，つまるところ，「陽林」は「弥勒仏」であることが次第に理解された。「陽林」の反対は「寒林」である。寒林は葉が散って寒々とした枯林の意で，屍体置場，即ち墓場である。東南アジアでは「墓地」「仏壇」という仏教用語に使用されている。「弥勒」は「釈迦」が入寂後56億7千万年して最終身としてこの世に下生し，庶民救済に現われる未来仏で，弥勒の出現以前は地蔵が現われるが，いずれの（弥勒，地蔵）仏も未来を託する輝かしい仏達である。地蔵は元来印度教（拝火教ゾロアスターを含む）の原仏教ともいえる大地神（地母神）で，大地より発生する生命，即ち「陽林」そして「弥勒仏」に変化すると言うことである。そして地蔵は又頭部を丸めているが，性の男根とみなして，生殖豊穣希求に通ずるという先覚もいる。「猿石」が仏教との関係を暗示するならば，島原半島の猿田彦（猿石を含む）が地蔵菩薩（六地蔵を含む）と習合して祭られても決しておかしくないのである。

韓国済州島には「猿石」に類似した「石ハルバン」がある。「石ハルバン」は猿石に実によく似ていて頭には帽子を被っている。胸に手を置いている格好といい，本体が水蝕石であることも，全く島原の猿石とそっくりである。済州島では案内人が，元寇の折，蒙古軍が帽子を被っていたので，その姿が済州島に持ちこまれたと言っているが，それは又，ギリシャの「ヘルメスの像」の帽子と同じではないか。そして石ハルバンの帽子を，日本の地蔵と同じように性の男根として見立ててもよいのではないかとも思う。又，気になることは，韓国成均館大学教授李相日氏の著書「韓

◀猿田彦にお詣りする老女



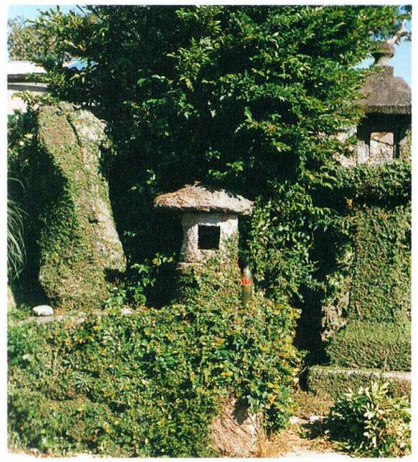
▲津町藤原氏宅の猿田彦

▶広馬場矢加部商店猿田彦

◀有家の猿石

▲寺中盃状穴石

六宝大荒神猿田彦寺町▶



▶三会高城神社の猿田彦

▲片町新田氏宅の猿石

▼剣柄神社（吾妻町）

城と共に，市内萩原に山王社を設置した。島原半島の入口（愛野町山王山）にも日枝神社（山王神社）を勧請し，この地の天台宗社僧峯氏にこの神社を祭らせている。萩原町の山王社は，夏越祓，年越祭の例祭は山車が出て，たいへん賑ったことが藩日記に記されている。市内の庚申信仰はもとより，島原半島各地に於いて「庚申」(かのえさる)の日は，たいへん賑ったようである。

萩原山王神社　神像

道祖神として祭られている猿田彦，庚申の文字は殆んど江戸期以降に刻印されたものと推察される。道の辻々の石塔を中心にして，旧藩時代は特に五人組，十人組によって「庚申」信仰が根強く引き継がれたようである。現在は部落に十戸とか，二十戸とか呼ばれる班によって庚申信仰は引き継がれている。旧市内では殆んど廃れてしまったが，三会，杉谷地区，郡部方面では今も盛んで，庚申猿田彦の石塔を間にして庚申講が営まれる。

庚申の日には，座元で赤・赤や，又赤・白の吹き流しの旗を立てる。座元は廻り番になっていて，「モトカタ」または「ヤドモト」と呼んでいる。「庚申」（かのえさる）の日は座元にみんなが集まる。座元では，御神酒，または灯明，お供物を用意して庚申様をお祭りする。絵図または掛図をかける所もあるが，この日は庚申講に集まった班の人達が風呂を沸かして，入る所もある（島原半島南部)。そして，一晩中起きている。ただ何もしないで起きているのではなく，いろいろ部落の話をしたり，昔噺や最近の話題等の話をして一晩中語り明かすのである。

今日では殆んど忘れられてしまったが，三会地区，有明町の三沢地区では，庚申信仰が高岩山信仰（牛馬の神）に変わって続けられているところもある。その習俗について「吾妻町史」の民俗編から抽出すると，庚申の日は，ひと月越しのヒシテ晩れで，通常は年６回あるが，７回目があるのは３年に１度位で，そのモトカタにあたると縁起がよいと言われている。

夜になると座元の家に米２合５勺と酒代を持って集まる。大木場のように500円持ち寄って積み立てるところもあるし，300円に定めている部落もある。座元では時分の野菜で天ぷら，煮しめ等を出す。又大根なます，じゃが煮しめ，シラアエ等も準備する。旗島部落では「ナラチャ」，布江（ぬのえ）部落では「鳥飯」等部落特有のご馳走がつくられる。皆で楽しく共食して，一晩寝ないで喋り明す。この夜にはらんだら泥棒の子が生まれるというので，男女の交りは絶対に慎しむことにしている。庚申さま（石塔）には，御神酒，はつお御飯（小豆飯等）を供える。特に正月始めの庚申祭は盛大であった。

「庚申」研究の権威者東京大学教授窪徳忠氏は，「庚申さんは疱瘡にかかってあばた面であった。それで庚申塔は海岩にある菊石（水蝕石）で作るのであろう」と山川出版社から出された「庚申信仰」に記しておられる。又，筆者は昭和54年有家町の文化財調査の折，有家町山王社の神像の猿像を見た時，あまりにも猿の神像（木彫）が欠けていたので，同行の部落の故老に尋ねると，昔，疱瘡にかかった患者が，疱瘡の薬だと言って，小刀で削ったその木片を飲んだという話を聞いて，びっくりしたことがある。

なお，山王社の神像が「猿」であることは，猿が山王神の使いであるからであろう。稲荷神が狐であるというのと同型である。稲荷も又，本体は宇迦神で，その使いが狐である。

島原市内における庚申信仰は，戦前には盛んであったが，戦後はだんだん廃れて忘れ去られようとしている。三会，杉谷，安中の一部にはその習俗が残存しているが，本来の姿から随分遠ざかっているようである。

5．異型の道祖神

島原市の道祖神は，過半数が猿田彦の石像であるが，前記したように地蔵菩薩(六地蔵を含む)，竜神，水神，稲荷，観音，不動尊等もみられる。又，これらの石像の他に，わずかではあるが，異型の道祖神が残存している。

(1) 道　別　命

白土町の三叉路に「道別命」の道祖神が立っている。猿田彦型の石造りであるが，距離を置いて眺めると，薄布（ヴェール）を被った人型である。この種の石造りは島原市内では殆んど「猿田彦大神」と印刻されているが，この石像には「道別命」として文字が彫られ，石造りに工法の秘密が深く隠されているようである。これに類似した観音の石像が市の火葬場の入口に立っていたが，現在この石像は持ち去られて行方がはっきりしない。本市出身の画家柚木伸一氏は，これらの石像について，切支丹の隠し信仰として昭和58年に所論を島原新聞

庚申猿田彦（吾妻町）

▲蛭子町中島氏宅猿田彦

▲岡本病院大地蔵

▲岡本病院隠し十字（底部）

▲大下町斉の木道祖御前（遠景）

陽根が供えられている斉の木の道祖御前▼

▶六ツ木六地蔵

▶殿様道路

▼石畳盃状穴

▲三会下町吉田氏宅青面金剛

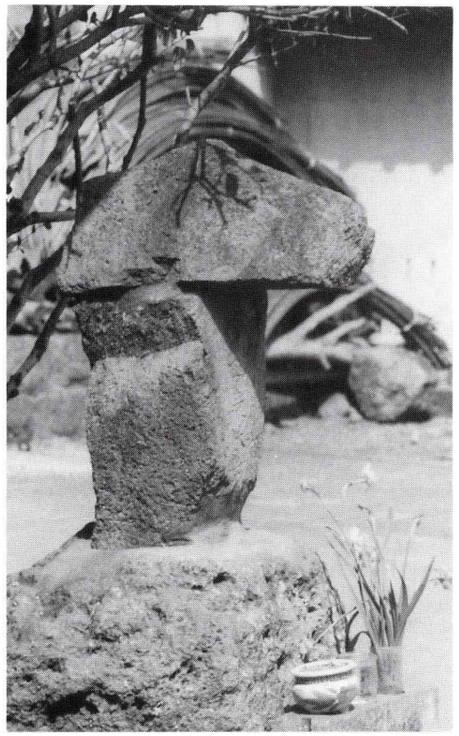
▲松田氏宅の屋敷神

に寄せている。これら切支丹類似の隠しの石造物が，その後島原半島の各地から発見されている。石像の文字「道別命」は八衢（やちまた）の神で，道の巷に立つ道祖神であろう。八衢とは漢和辞典には「ク（呉音）みち（和音）〔解字〕形声が音を表わし，わかれるの意から四方に別れた道をいう〔字義〕①みち　ちまた　よつ辻　②よこみち　分かれみち」としている。八方に分かれている辻と解してよかろう。即ち「道別命」は猿田彦大神である。造像の工法からみて，信仰の秘密が内蔵されているようである。

(2)　切支丹地蔵

切支丹の隠し信仰として明確な石像が市内湊道岡本医院の庭園に建っている。外見は地蔵型の常夜燈で，恐らく六地蔵であろう。上部に地蔵二体が彫られ，火袋が棹になっている。火袋は地蔵の背面で，常夜燈としても異型である。棹の底部には十字（クルス）が鮮明に刻まれている。地蔵にキリシタンが習合し，さしずめマリア地蔵であろう。この石像に類似した六地蔵が有家町の墓地で既に発見されている。又，同町の小島みのる氏宅の宝篋印塔の底部からも，隠しの十字が発見されて，切支丹の隠し信仰が証拠づけられた。恐らく禁教の時代に，地蔵信仰を装い火袋に灯を点して信者達が礼拝したものと推察される。

(3)　屋祖神の庚申猿田彦



三会木崎町猿田彦

江戸丁の松田明氏宅の道路端には「屋祖神」と刻印された石像が祭られているが，「屋祖神」は，もともと屋敷神であろう。この石像の側面には，片方に猿，相対する片方には鳥の絵柄が彫られている。山王修験に関係した天狗像で近くに山王神社が位置しているから，恐らく庚申信仰に習合した天台宗系の修験道につながる石像ではなかろうかと推定される。

(4)　青面金剛の猿田彦

(三)の石像に類似した青面金剛の木彫が三会下町の三叉路吉田良一氏宅前の石祠に祭られている。猿田彦は神道に習合して「庚申猿田彦」となり，更に仏教と結びついて「青面金剛」となる。本来，青面金剛は東方青帝薬叉神と言われている，病魔悪疫を流行させる鬼神である。九万の眷属を従えて寒山に住して人々の精気と血肉を食すと言われ，後に鬼大神に降伏して病気消除を本誓するようになった。我が国では，中世以後多くの庚申信仰の本尊とされ，後に山王信仰と結んで猿の形態になるのである。この地の石祠は三叉路に建っているので，猿田彦大神の道祖神として祭られているものであろう。

(5)　勝 軍 地 蔵

市内中堀町の森崎美徳氏宅の広場には，犬と並んで「豚」に座った勝軍地蔵が祭られている。勝軍地蔵は地蔵菩薩の異像で，市内ではこの一基だけである。室町期から武家の間で，この信仰が起こり，武士達はこの地蔵に戦勝を祈願したと言われている。戦国争乱の世が生み出した特殊信仰であろう。

(6)　一石五輪の塔の道祖神

三会支所前の石祠の中に「一石五輪塔」が納まっている。島原半島の一石五輪塔は平安期末から鎌倉期において造像されたものと思われる。この種の石造は有明町を中心にして分布して，他町には発見されていない。島原市内では，三会支所前に1基，三会人塚墓地に1基，そして猛島神社の境内に1基の計3基のみで，猛島神社の1基は，有明町湯江地区から運ばれたということである。有明町では，温泉山修験道が栄えた時代，麓寺院の興善寺（旧東空閑村），潮音寺（旧湯江村）の寺院跡から数基発見されている。三会支所前の石造物は，近くに金剛寺（地名は金号寺）という平安末期の大寺院の存在が認められるので，その時代に造像されたものであろう。五輪の塔は地，水，火，風，空輪というように，それぞれ独立した石が組合わせられて供養碑になるが，これらの石造物は一つの石によってそれぞれの部分を五輪の形に彫って造像されている。

供養碑を道祖神として取り扱うのはどうかと思われるが，支所前の道路端に道祖神として祭られているので，この項に組み入れることにした。

(7)　六　地　蔵

市内宮ノ町山口会計税理事務所前の道端に石幢の六地蔵が道祖神として祭られている。通常六地蔵は寺院や墓地の入口に立ち，一般に丸彫り船型光背が多く，並列式であるが，室町から江戸期にかけて石幢六地蔵が出現する。この造像様式の石幢は島原半島の郡部には極めて少ない。現在この式の石幢六地蔵の発見場所は次のとおりである。

○三会中原墓地（俗称「あんのやま」）	1基
○杉谷宇土墓土	1基
○杉谷六ツ木墓地	1基
○本光寺	4基
○安中札之元公民館酒井氏宅	1基
○小山稲荷	1基
○宮ノ町山口事務所前	1基
○寺町六宝大荒神	1基

○崩山町松本氏宅　　1基

現在は12基が確認されている。造像の様式は肥前佐賀式である。石幢の龕部に六体の地蔵が刻まれている。六地蔵は，常に悪業を犯し六道転生する衆生を済度する地蔵の本領から分身として成立するが，六道とは地獄，餓鬼，畜生，修羅，人間，天上を言って，地蔵菩薩は六道に立って，あの世への導きをすることから，道祖神としての役割を果たすことにもなる。寺町の六宝大荒神と崩山の六地蔵は並列して猿田彦と習合している。

白土道別命

6．道祖神としての道祖御前（さやんごぜ）

この項は「異型の道祖神」に組み入れるべきであるが，道祖（さやん）信仰，伝承があまりにも忘れられ風化しているために，別項を設けた次第である。

旧中木場村下村名字斉の木に，道祖御前を祭る佐用之神の石像が祭られている。「さやんごぜ」の信仰は主として佐賀県を中心に，福岡県の一部と長崎県の西南地区方面に伝播していたようである。島原半島では「道祖御前」を「さよごぜ」「さよん神」「さを御前」「さよ姫」等と言った。漢字では「佐用之神」「佐依の神」「小夜」または「竿」等があてられる。佐用之神の石像は観音か地蔵で，女性の姿である。島原半島には郡部地域の各町に散在していたと思われるが，その信仰は一部の地域を除き殆んど忘れ去られている。有明町の道祖御前の神は佐用之神として町内の各神社に合祀されている。

佐用之神の石像は大抵村境の旧道か，往来からやや引っ込んだ道路脇のやぶの木陰にひっそり立っている。座像か立像で，吾妻町の石像は松浦小夜姫と彫り込んで，更に「猿田彦大明神」と刻まれている。そんな中で，有明町と北有馬町の石像は異型であろう。有明町の石像は見事な観音の立像で，手に木の実を持ち，北有馬の石像は右肩に朷（おおて）を負い，その朷の先端には稲束が掛けられ，左手には鎌を持っている。その姿は温泉山，高岩山上(高岩神社)の保食神＝宇迦之御魂神が稲束を抱いて立っている神像によく似ている。

保食神は農耕神で，豊穣希求を具現する農耕生産の神である。島原の道祖御前の石祠の周辺に大小の木製や石製の男根が散らばっているように，大抵の佐用之神にこの種の性器が奉納されている。そして，なかには「満願成就」と書いた白布が樹の枝に掛けられている佐用之神もある。

島原半島の各地に道祖御前の信仰の痕跡がみられるが，その伝承，由来は全く風化して形骸化している。それでは島原半島の各地に残存している「道祖御前」の伝承を拾い集め，その断片をつなぎ合わせてみよう。

「昔，父娘連れの武士が旅の疲労で足腰が痛み休んでいた。休んでいるうちに，父はみだらな心を起こして，ついに自分の娘を犯してしまった。元気をとり戻した二人は，やがて出立しようとすると，今度は娘がさっきのことをもう一度と，二回目の性交を求めた。父は人倫の道に外れた己の所業を恥じて，ふびんに思ったが娘を手討ちにして，自らも死を選んだ……」世の人は，思いを果たすこともなく死んでいった娘を哀れに思い，その霊を慰めるために木や石で作った男根を供えるという。そうすれば心に秘めた願いがすべてかなえられ，子無き者には子宝が恵まれる，腰から下の病気はどんな難病も治るという。こんな民俗の信仰が「道祖御前」といわれている。娘の名を「小夜姫」と言って，何時とはなく，松浦佐用姫と言われるようになった。佐賀県の唐津には松浦佐用姫の伝説がある。古代における大伴狭手彦（さでひこ）と松浦佐用姫の悲恋物語であるが，ヒロイン松浦佐用姫の名が何時かの時代に「さやんごぜ」の名にすりかわったものであろう。伝承の物語は，地域によって脚色されるが，何時の時代か「路傍のフォークロア」になり，道の守護神猿田彦，庚申等と習合して，道祖神信仰として後世に長く伝えられたものであろう。

佐用之神は，もともと生殖再生への願いが豊穣希求の信仰となり，仏教が入って地蔵，弥勒信仰と習合して，境界神，道標（みちしるべ）と変化して「路傍のフォークロア」となる。その後に，複雑多岐に拡がっていったものと推察する。

勝軍地蔵（森崎氏宅）

「猿田彦と猿石の源流」の項に記したように，韓国には「長柱」（チャンスン）といって，我が国の「道祖御前」に似た道祖神がある。チャンスンは（長柱，長生，長承）などと訳されるが，東南アジアやアフリカ等にみられる「デーモンポスト」と呼ばれる高い木柱や石柱に似ている。昔は大抵韓国の部落や，道の守護神として信仰された。チャンスンは村の守護神と里程標に分けられるが，巫俗信仰としての祓邪，裨補の厄払いの機能から，里程標の機能へと移っていったといわれている。

古代の人達は，木や石は生成の象徴としてそれ自体を崇拝の対象とした。チャ

ンスンはかつて韓国の道傍の辻々に立っていた。本体には魁偉な人物を描いたり，「天下大将軍」「地下大将軍」と文字が彫られていた。「天下大将軍」は「天父神」で，「地下大将軍」は「地母神」であると言われている。

韓国の成均館大学李相日教授による「韓国の長柱」からチャンスンの伝承について述べると，「昔，大白山の麓ダレル峠の近くに父と娘が住んでいた。夏のある日，二人は連れだって市場に行った。その帰り途，烈しい俄雨にあって，衣服ともびっしょり雨に濡れてしまった。更紗づくりのチマ，チョゴリの着物が肌にぴったりくっついて，年頃の娘の曲線美を鮮かに浮き彫りにした。背後から歩いていた父は，その扇情的な後姿に娘であることを忘れて，一人の女として意識した。話はこれから二筋に分かれる。もともとの話は二人の男女を一組にして，一つは父と娘，もう一つは兄と妹に設定する。娘はそんなことはできないと拒む。しかし，抵抗することができないことを感じた娘は一つの提案をする。「それでは私が谷の麓まで水を飲みに行ってくるまで待って下さい。」娘が谷に下りて行った留守の間に父はようやく理性をとり戻して，自分の不倫を恥じて，石で己の男根を打ち砕いて自決した。

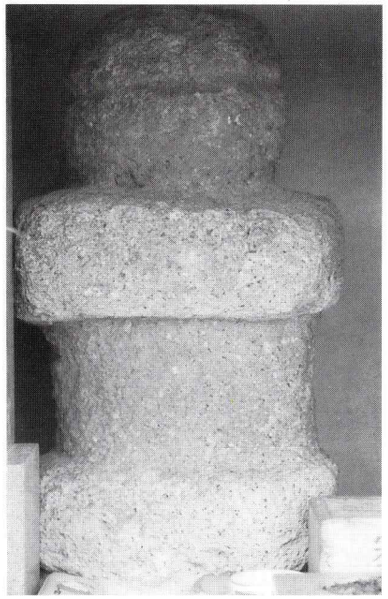
もう一組の話は，妹の成熟した肢体に兄が欲情したので，妹が提案する，即ち犬の皮を被って床板の下に入り三べん吠えて下さい，そうしたらその時に身を任せましょう。欲情をこらえきれなかった兄は，妹の言葉の意味もはかり知れず，妹に言われたとおり犬の皮を被って床下に入る。兄がそうしている間に到底救われないことを知った妹は，自ら大梁に首をくくって死んでしまう。床下からはい出た兄は，その時に初めて自分が人倫に反する恐るべき罪を犯そうとしたことを悔いて，自らも死んだという。

父と娘，兄と妹という肉親の間に起きた，不倫なできことである。そんなできごとの哀れさに，部落の人々は長柱を建てて冥福を祈ったということである。こうした説話，伝承は性的本能と人倫の争いが色濃くもつれ合っている。このような説話の底辺には韓国五百年の儒教思想が深くしみこんでおり，儒教の倫理観が伝説の背景に根づいているが，以上のような説話をもって長柱のすべての由来とみなすことはできない。儒教以前の問題を考えてみることが大事ではあるまいか……」と結んでいる。

確かに「道祖御前」にも言える問題ではなかろうか。儒教によって説話はいろいろと脚色変格されていびつになっているが，性の本能，生殖への希求が本来の姿ではあるまいか。それが後に農耕の豊穣希求の願いにつながり，そして仏教が入って境界信仰，更に再生信仰へと変遷し，そして道祖神信仰へと拡大したものではなかろうか。

道祖御前と長柱の伝承を考えるとき，日本と韓国，海をへだて国は違っていても，ダレル峠の長柱の説話と我が国の道祖御前の伝承は，その根源が全く一緒で同根同床だと言わざるを得ない。いずれにしても，渡来人によってこの地に持ち込まれ，長柱の信仰が西南九州では道祖御前として伝承されたものであろう。

ちなみに大下町の佐用之神は「斉（さい）の木」という地名になっているが，「斉」は「佐依」あるいは「佐用」であろう。有明町の佐用之神は地名が「佐依の元」である。「木」は甘木，大木，神木等の木で，韓国渡来系と関係が深いようである。



三会支所一石五輪塔

7．石　　畳

島原市における石畳は，戦後の昭和25，6年頃までは市内名方面の道路に見られたが，その後の道路拡張，舗装工事等によって殆んど姿を消してしまった。現在，二中—松ケ丘団地—安中方面の通称「殿様道路」と，小山団地に石畳の一部が残存し，萩原町には今日も尚「石畳」という古地名が残っている。

島原市における石畳の歴史は平安末期から鎌倉期頃迄遡るようである。鎌倉時代の「新撰六帖」という和歌集に次のような歌が残っている。

漕ぎ出でて　猶またしばし島原に
諸越（もろこし）舟の誰を待つらむ

作者は藤原光俊である。光俊は承久3年（1220年）後鳥羽上皇が北条義時を討たんとせられた時，その謀議に関係して死罪になった藤原光親の子である。光俊も又，父の罪に連座して承久3年7月12日，鎮西の地に流されている。遠島に配流された所が何処であるか，はっきりしないが，林銑吉氏は恐らく島原ではなかったろうかと言っている。鎮西には我が島原をおいて他には島原という地名はない。この歌は光俊が「島」と題して作った歌である。島というのは「松島」のことだと推定される。光俊のいう島原が島原市であるとすれば，「島原」という地名は，鎌倉時代には既に使用されていたことになる。諸越舟（もろこしぶね）は中国船のことである。島原の港には中国船が常時出入りしていたことになる。

なお，中堀町の三勇堂の一帯を「丹後小路（たんごしゅうじ）」，そして水頭の通りを「高麗小路」と故老は呼称している。寛政地変の報告書（執筆天野銀左衛）の中にも，「丹官小路」「高麗小路」の地名が出ている。「丹官」とは中国の官人の意味で，「高麗」は韓国である。

平安末期，太宰小式になった平清盛は，特に宋貿易に力を注ぎ，博多，瀬戸内海の航路を重視したが，一面に又，有明海に関心を示し，神崎（佐賀県）川尻（熊本県）に中国航路の港を設定したようである。九州土豪と平氏の関係はこの時代に始

まったものと思われる。

島原の港は，大手浜の砂洲が鳥の嘴のように「海路口（うじぐち）」を作り，港の東南に松島があって，その内部に港があり，島原の港は恐らく「隠しの港」としての役割を備えていたのではなかろうか。そして，それらの官人達が，当地の石工達に石造の技術や工法を教えたのではなかろうか。島原半島の石造物には，そのような異国の工法の痕跡が深く蔵されているのである。例えば石畳，眼鏡橋，その他の神社寺院の石造物等に随分それらの影響がみられる。特に中国の江南地区の痕跡が深いようである。長崎の石畳，眼鏡橋は西欧（ポルトガル等）の宣教師の指導によると言われているが，歴史的に考察するとき，長崎に比べ，島原の石造物が古く上世に遡るようである。

深江町の大木名には「紀屋敷」，地元では「幾屋敷」と呼ばれている屋敷跡があるが，この屋敷は平安末期の「長者の館」（城跡）で，館は石垣の外郭に囲まれ，城内には石畳の道が敷設されている。石垣の工法は頑丈で，寛政の地変でもいささかの狂いがなかった。この城郭の長者は古代豪族大野氏の分流で，紀大野氏であろう。（島原風土記II号　古代豪族大野氏に対する考察　吉田安弘）「紀屋敷」内の石畳を考えるとき，島原半島における石畳の歴史はかなり遡るようである。

島原市内における石畳の道は，前記したように，なんと言っても，松ケ丘団地の山手から安中に通ずる「殿様道路」であろう。延々5，6百メートル，道路の途中には表土が被っている箇所も見られるが，表土の下は石畳であろう。島原側から南へ布津坂，堂﨑坂と坂の地名が呼称されているが，これらの坂は，藩政時代における布津村，堂﨑村住民の作業担当区域のようである。藩は度々主要道路の整備，清掃を各村の庄屋達に通達している。有明町の山手千々石道については，藩主松平氏が長崎往来の度ごとに，道路の整備についての布告を通達している。そして殿様道路としての山間道路，特に河川に沿った地域，坂道等には石畳が敷かれている。石畳にする必要は，雨や水のために道路が泥道になるのを防ぎ，車馬の便をよくすることにあったのであろうが，最も大事なことは河川氾濫による被害の防止と，水の流れのさばきをよくするためであったろうと推察される。台風や地震に対する安全対策ではなかったろうか。

小山町の石畳は，小山住宅から小山墓地の南側通に数十メートルの間残存している。坂道の地域で，水はけの必要も留意されている。萩原の石畳は，戦前までは石畳の地名の如く延々と敷きつめられていたのが思い出される。すっかり姿を消したのは，昭和32年に島原半島を襲った水害後の34，5年頃であろう。これらの石畳の道路の着工は恐らく寛政地変後であろう。地変後に藩は城下町の再編成と村造りに意を注ぎ，その対策に腐心したのではなかろうか。

本光寺六地蔵

それらの石畳も，現在ではほとんど姿を消してしまったが，幸いにして松ケ丘団地の山手には石畳の一部が残存しているのである。

何とか保存の方法を講ずべきではなかろうか。

なお，堂﨑坂の坂下の左手山側には「道標」が建てられ，その前面の石畳に「盃状穴」が彫られている。

石畳に盃状穴は珍しい。道路は往来の激しい所である為，住民の足で踏まれ易い。古代に於いては，イヤ児（早産児）が死ぬと，家の戸口か，人の出入りの激しい場所にイヤ児を埋めるという民俗があった。この風習は島原半島の一部に戦前迄続いていた。人々の土足で踏まれることによって，来世は強い丈夫な子として再生をする。一種の再生信仰であろう。石畳に彫られた盃状穴を人が踏むことによって，強く頑丈であり，且つ再生を願う庶民の希求の祈りではなかろうか。そして又，殿様道路の途中には「猪囲（いのししがこい）」等の地名が残り，猪の被害を防ぐ土塁等が残存している。

島原市の石垣について

石垣は，市内全域に分布している。分布状況としては，特に安中地区が目立っている。これはこの地区が眉山よりの傾斜地で，敷地自体にこう配があることや周囲に川がないことに原因があると考えられる。地形上大雨の際には道路が川となることがあり，水が屋敷内に侵入することを防ぐために，連続した石垣が積まれたもののようである。このことは，家の配置によっても判断できる。その他，特に武家屋敷通りの石垣については，目隠しの役目が強いようである。三会地区においては，敷地保全，目隠しの両方から築かれているようである。農家では，石垣をそのまま家の基礎や外壁がわりに使って，石垣の天端の空いたスペースには薪が積んであり，島原独特の風景となっている。

各地区とも，石は地元石（安山岩）が使用されている。間知石，野面石，雑割石という違いはあっても，それは加工してあるかどうかの違いだけで，積み方についてはほとんど変わりない。一般に見られる石垣は，地元石の間知を作って積み上げたもので，若干のすき間が見られる。屋敷の広い旧家等に見られる石垣には，目地合わせがすばらしく，石工の技量の高さがうかがえるものがある。石垣は，その家の威厳を表すとともに，浸水防止，目隠し美観，また地震時の崩壊を防ぐための強度の保持などにも配慮されている。このような石垣は，伝統的技術の成果として後世に遺しておきたいものである。

最近は，車社会の中で相対的に道路が狭くなり，必要に迫られて石垣を解体するとか，住宅の建築の際に道路中心後退により解体するケースが見られる。しかし，これらの石垣群は，島原の水や緑，また美しい有明海などの環境によくマッチしたもので，風光明媚なこの地に，整備された質の高い住宅が建設されたならば，すばらしい街ができるものと思われる。住宅の質の向上は個人財産の問題であり，むずかしい面もあると考えられるが，身近な所から手をつけていくことが必要であろう。

今後，島原らしさを活かしたまちづくりを進めていくためには，石垣の保存とともに生け垣の普及などによって，通りごとに石垣通り，まきの木通り，ベニカナメ通り等の名前をつけるなど，住民に親しまれ，また，まちづくりに住民が参加できるような方式を考えていくべきであろうと考える。

なお，地区別の石垣の保存状況等は，以下のとおりである。

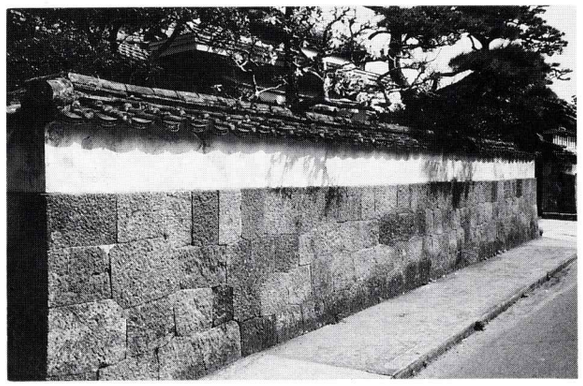
〈三会地区〉

1．地域における石垣の活用状況

・小屋の基礎を併用したものが多い。

・石垣の上に薪が積まれているが，今ではガスの普及によって積まれたままになっている。

・石垣法尻が道路の境界になっている所が多く，道路の拡張がむずかしい。



2．石垣が崩されていく現状

・敷地の拡張に伴い石垣が崩されている。

・移設するには費用がかかりすぎる。

・車の大型化によって道路が狭くなった。

3．保存すべき理由

・現在では石積みの技工の伝授が困難である。

・昔の人々の生活様式の保存。

〈杉谷地区〉

1．地域における石垣の活用状況

・石垣塀として使用

・車の普及により入り口が狭くなり，壊されてコンクリートで補修してある。

・道祖神を石垣の上に据え，祭ってある。

2．石垣が崩されていく現状

・三会地区と同様

〈森岳地区〉

1．地域における石垣の活用状況

・石垣塀として使用。

・石垣の幅が広いため（700～900㎜）邪魔もの扱いをされている。

2．石垣が崩されてくく現状

・住宅地として入り込みも多く，石垣塀への関心が薄い。

・モダンな家屋の流行により，石垣とマッチしないことがある。

3．保存すべき理由

・石垣と家並がむかしながらのたたずまいを残しており，観光地としての活用が考えられる。

〈霊丘地区〉

1．地域における石垣の活用状況

・石垣塀としてはほとんどない。

〈白山地区〉

1．地域における石垣の活用状況

・石垣塀としてはほとんどない。

〈安中地区〉

1．地域における石垣の活用状況

・小屋の基礎として石垣を使用したものが多い。

・石垣の上は，農家で使用する丸太，竹等の置き場として使われている。

・石垣法尻が道路の境界になっている所が多く，道路の拡張がむずかしい。

・木場地区の道路沿いには石垣塀が連続して築かれ，水路がその横を流れている。

・道祖神を石垣の上に据え，祭ってある。

2．石垣が崩されていく現状

・敷地の拡張に伴い石垣が崩されている。

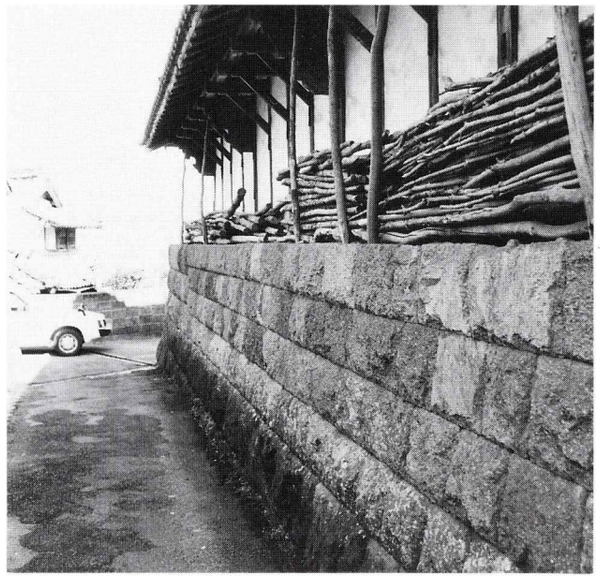
・移設するには費用がかかりすぎる。

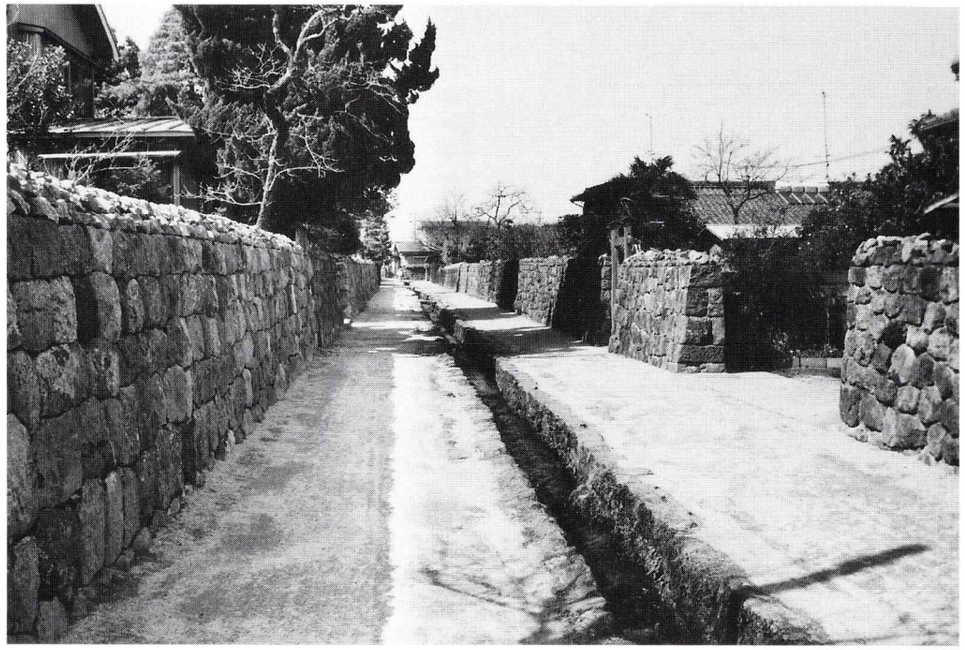
・車の大型化によって道路が狭くなった。

3．保存すべき理由

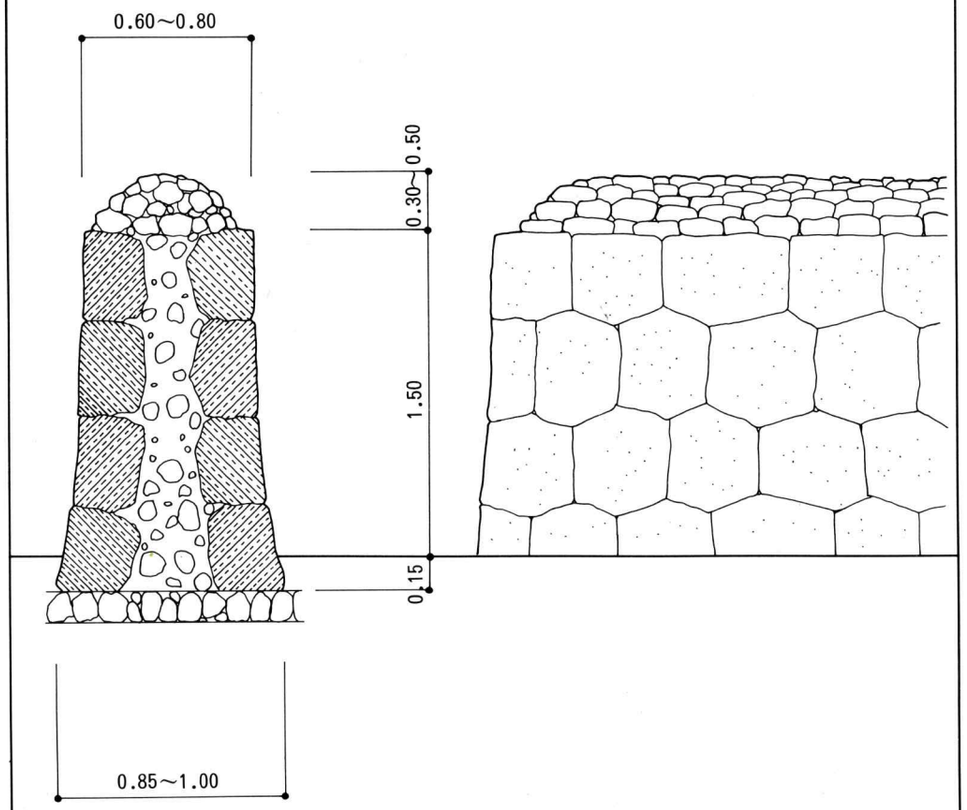
・現在では石積みの技工の伝授が困難である。

・昔の人々の生活様式の保存。



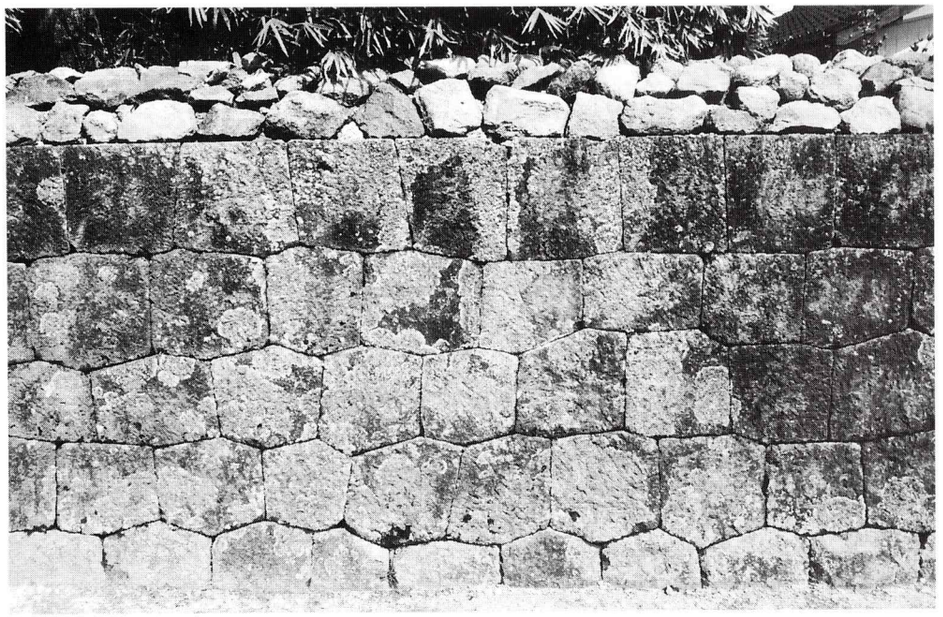


TIPE—A

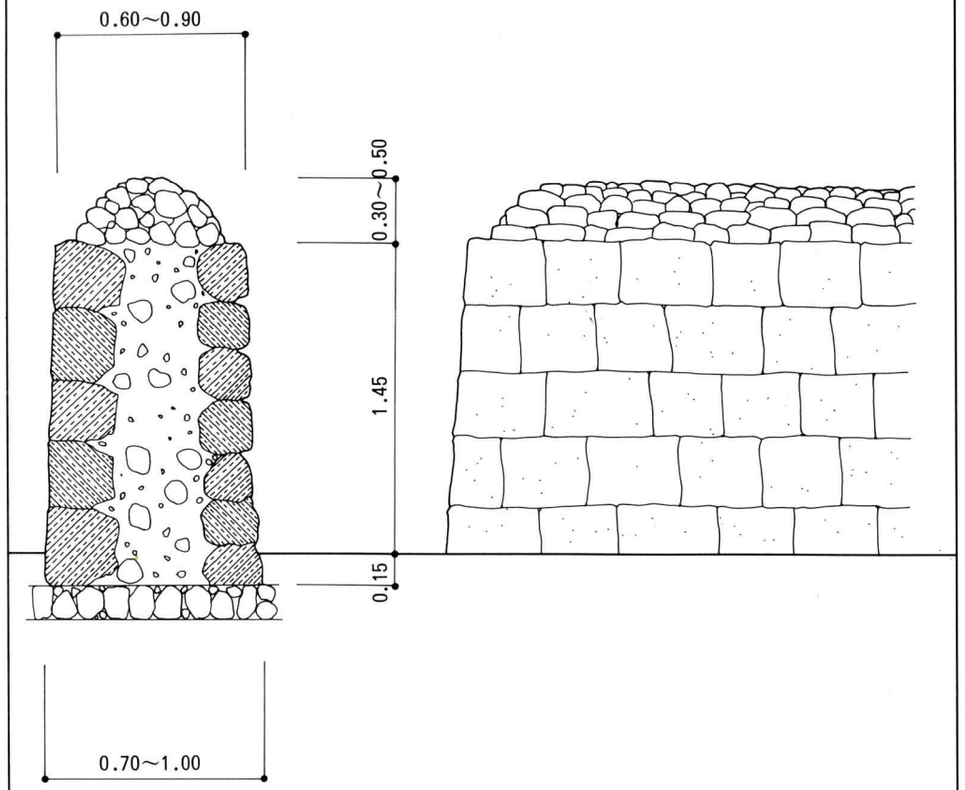


断面図　　姿図

石の積み方	構造性
道路側　亀甲積み 敷地側　野面積み	安定性大
石の種類	**石の大きさ**
黒雲母角セン石安山岩	道路側　高さ　45cm　幅　50cm 敷地側　高さ　30cm　幅　40cm

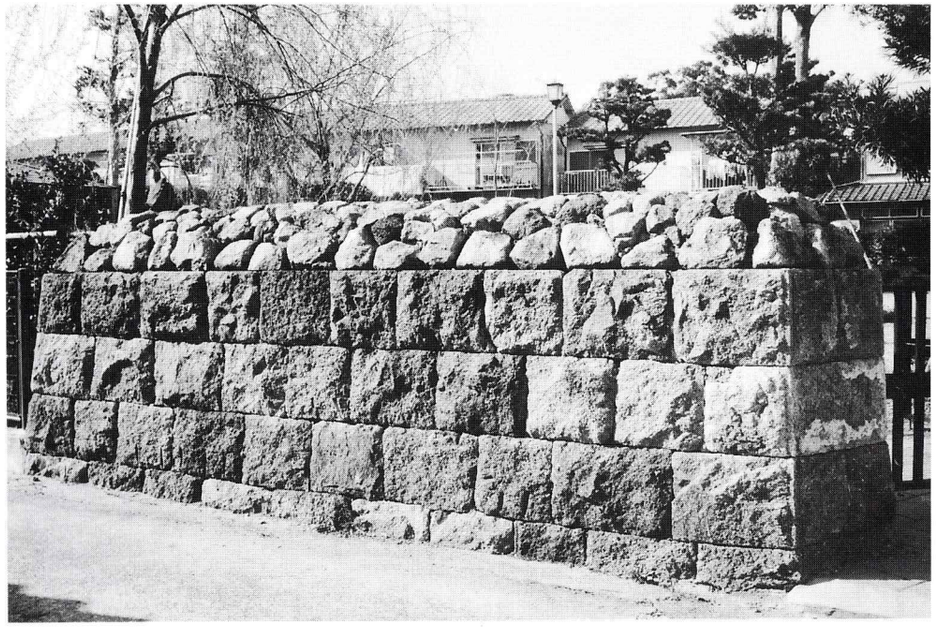


TIPE—B

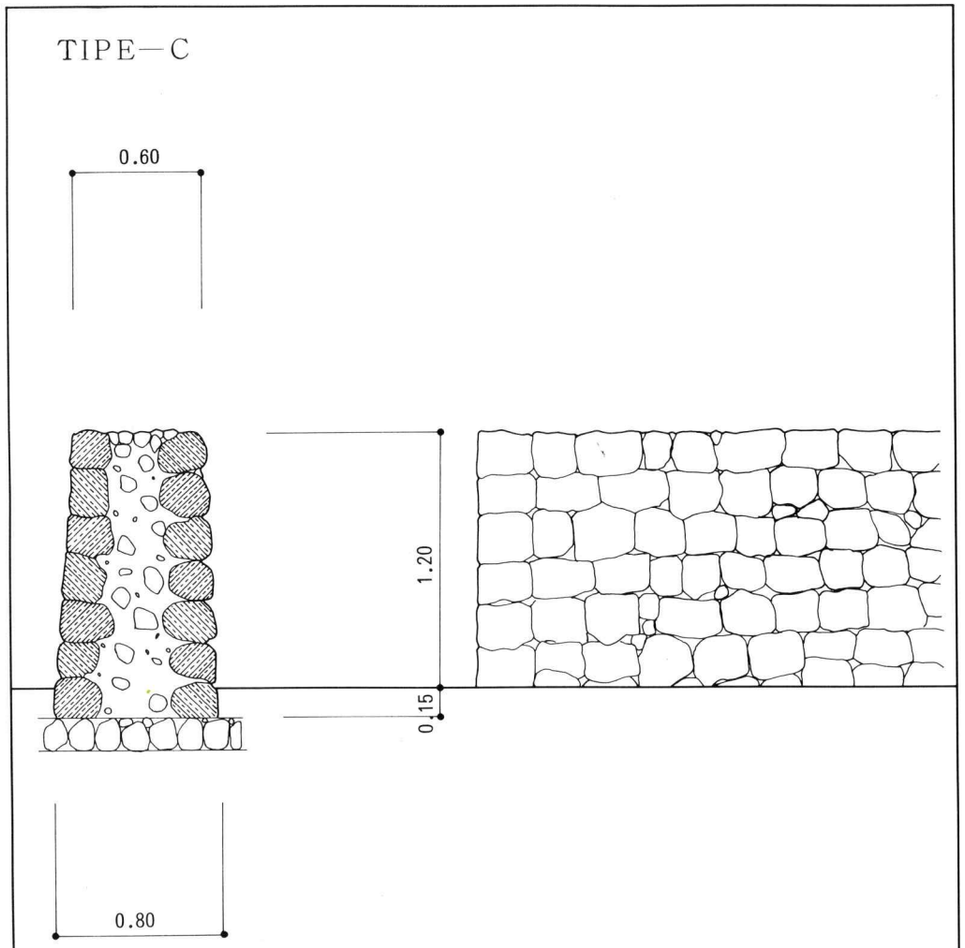


断面図　　姿図

石の積み方	構造性
道路側　間知平積み 敷地側　野面積み	安定性中
石の種類	**石の大きさ**
黒雲母角セン石安山岩	道路側　高さ　30cm　幅　35cm 敷地側　⌀20cm

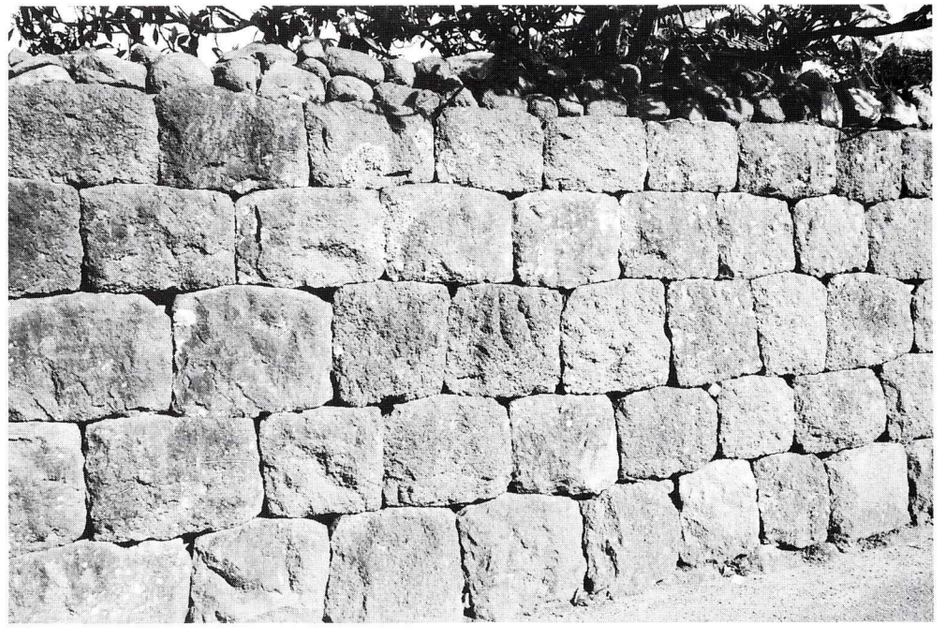


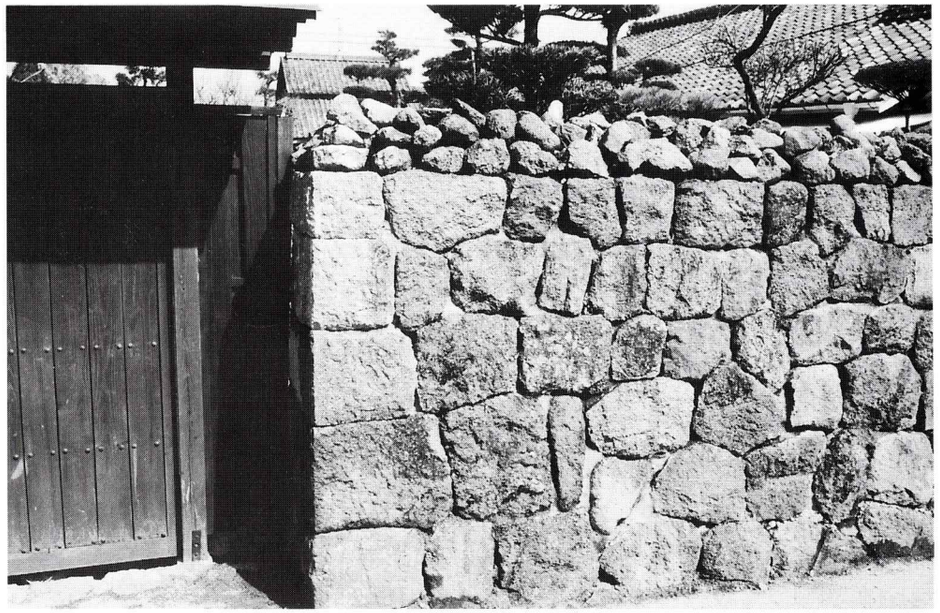
TIPE—C



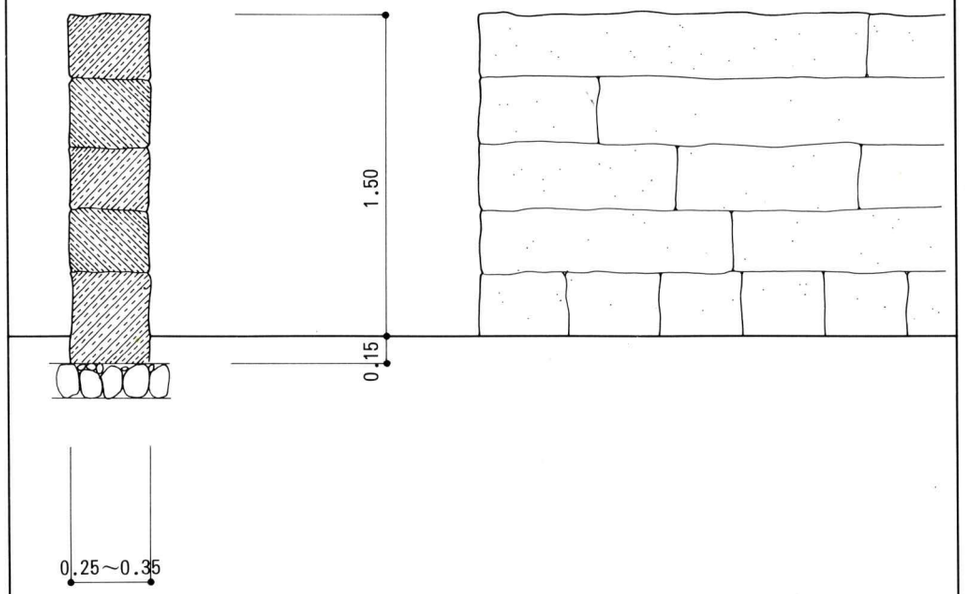
断面図　　姿図

石の積み方	構造性
道路側　乱積み 敷地側　丸ごろ積み	安定性小
石の種類	**石の大きさ**
黒雲母角セン石安山岩	道路側　高さ 20cm　幅 30cm 敷地側　高さ 20cm　幅 30cm





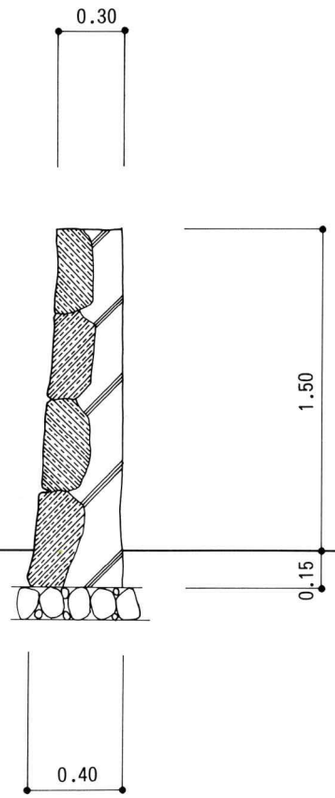
TIPE—D



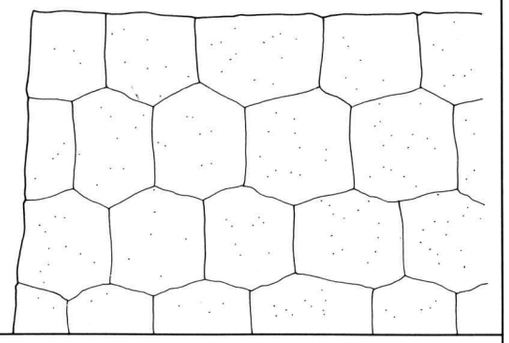
断面図　　姿図

石の積み方	構造性
道路側　こぶ出し切石積み 敷地側　こぶ出し切石積み	衝撃に弱く不安定
石の種類	**石の大きさ**
黒雲母角セン石安山岩	道路側　高さ 30cm　幅 1.0m～1.5m 敷地側　同　上

改　良　型



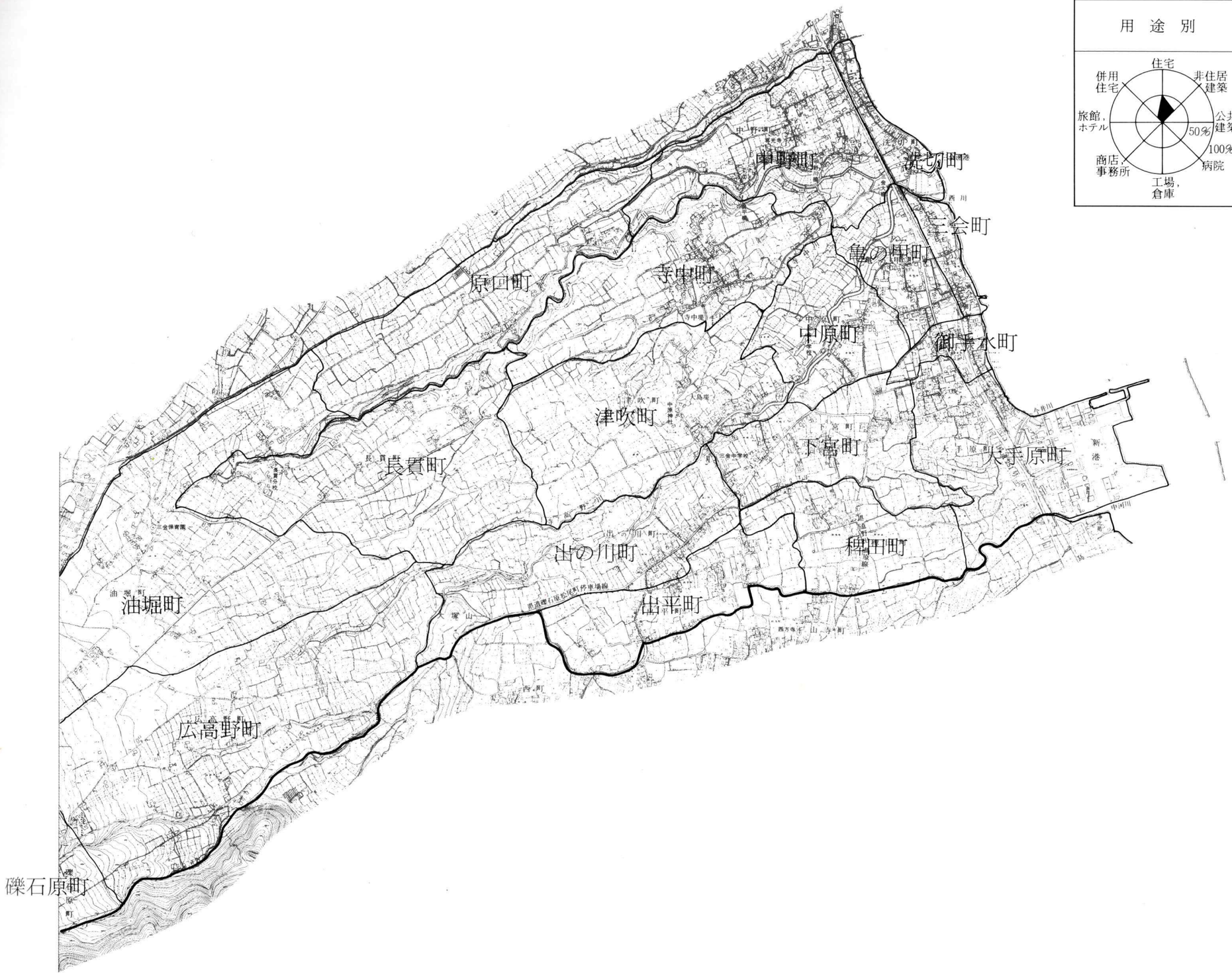
断　面　図

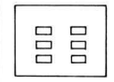


姿　　図

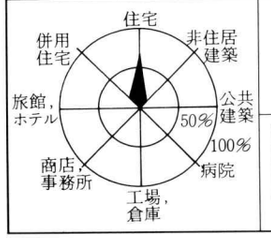
石の積み方	構造性
道路側　亀甲積み 敷地側　コンクリート壁	不安定
石の種類	**石の大きさ**
黒雲母角セン石安山岩	道路側　高さ　30cm　幅　40cm 敷地側　コンクリートア　10cm

三会地区　1/20000



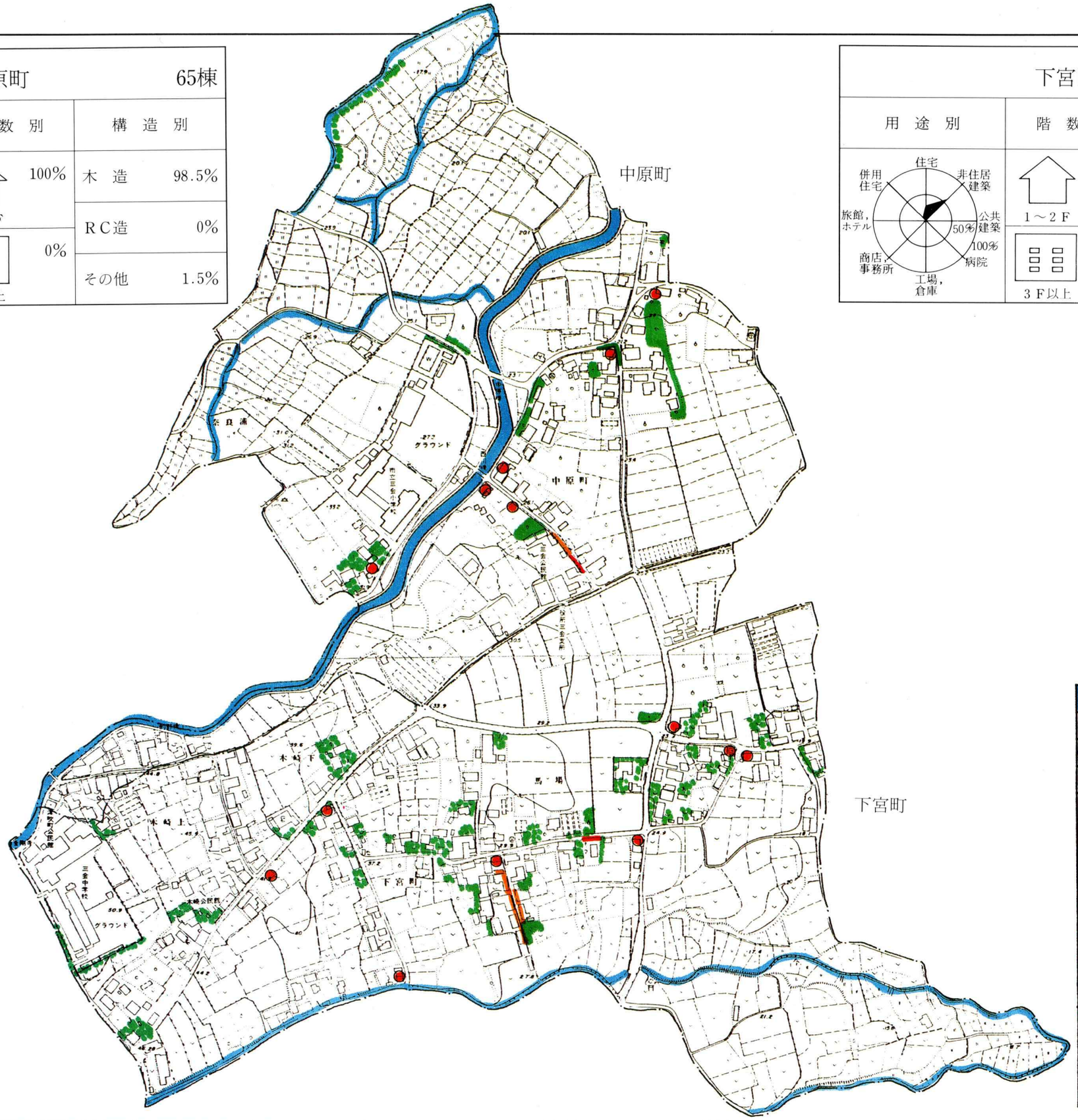
三会地区		2,019棟
用途別	階数別	構造別
	99.9% 1～2F	木造 91.1%
		RC造 0.5%
	 0.1% 3F以上	その他 8.4%

中原町　65棟

用途別	階数別	構造別
	1～2F　100% 3F以上　0%	木造　98.5% RC造　0% その他　1.5%

下宮町　140棟

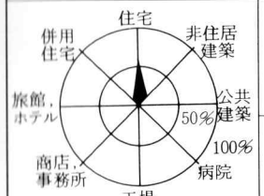
用途別	階数別	構造別
	1～2F　100% 3F以上　0%	木造　94.3% RC造　0% その他　5.7%



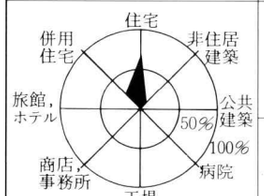
凡例

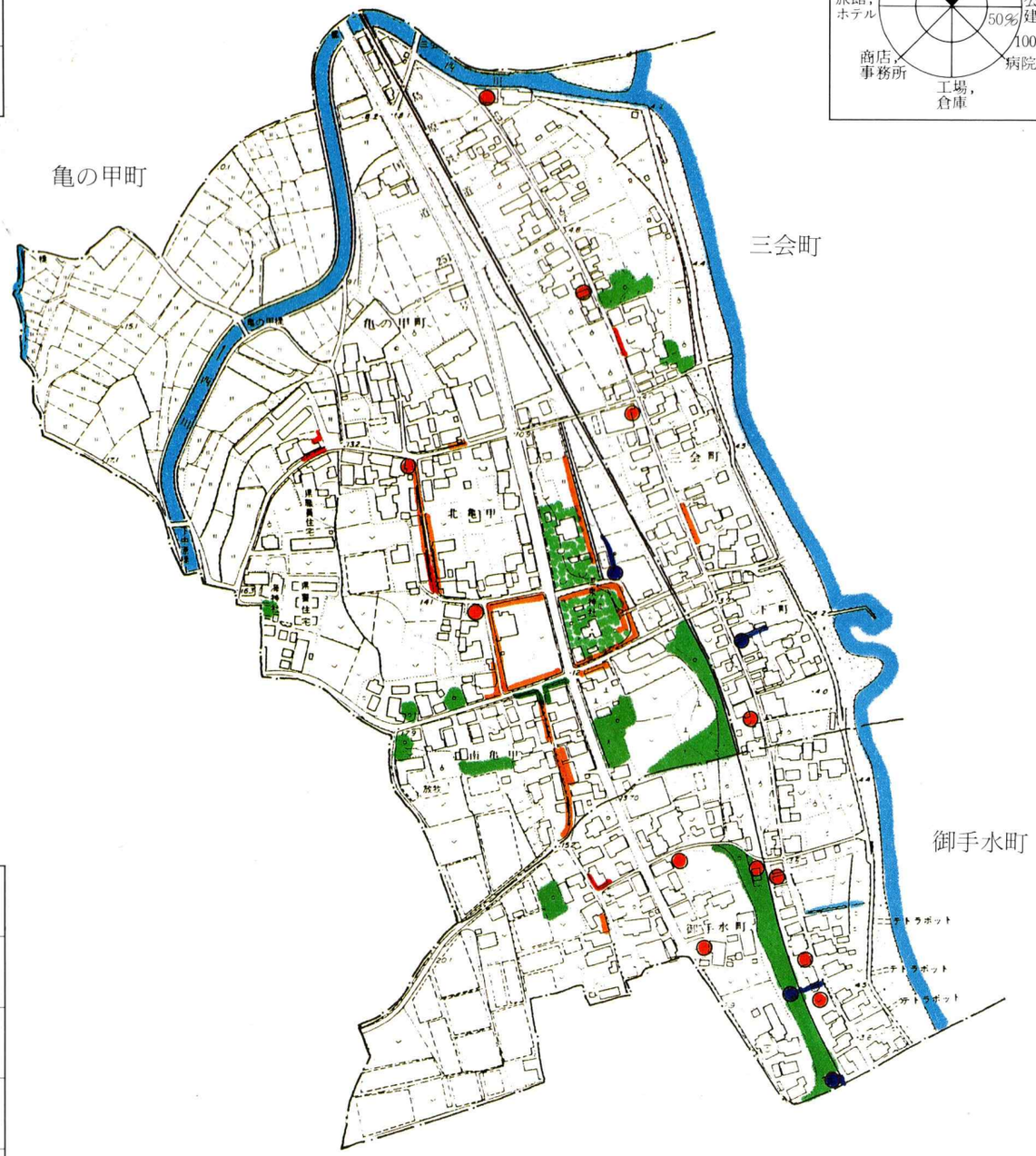
	海，河川，池等
●	湧水地点
	湧水路
●	洗い場
●	浅井戸
●	ボーリング
	屋敷林，社寺林 自然樹林等
	石垣　A
	〃　B
	〃　C
	〃　D
	レンガ
●	道祖神
■	文化財
▲	史跡，観光資源

亀の甲町　149棟

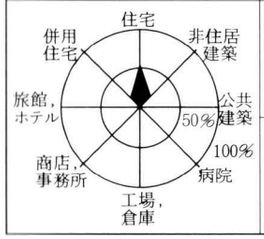
用途別	階数別	構造別
	1～2F 100% 3F以上 0%	木造 82.5% RC造 2.0% その他 10.5%

三会町　110棟

用途別	階数別	構造別
	1～2F 100% 3F以上 0%	木造 96.4% RC造 0% その他 3.6%

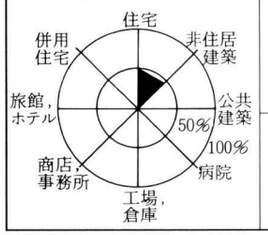


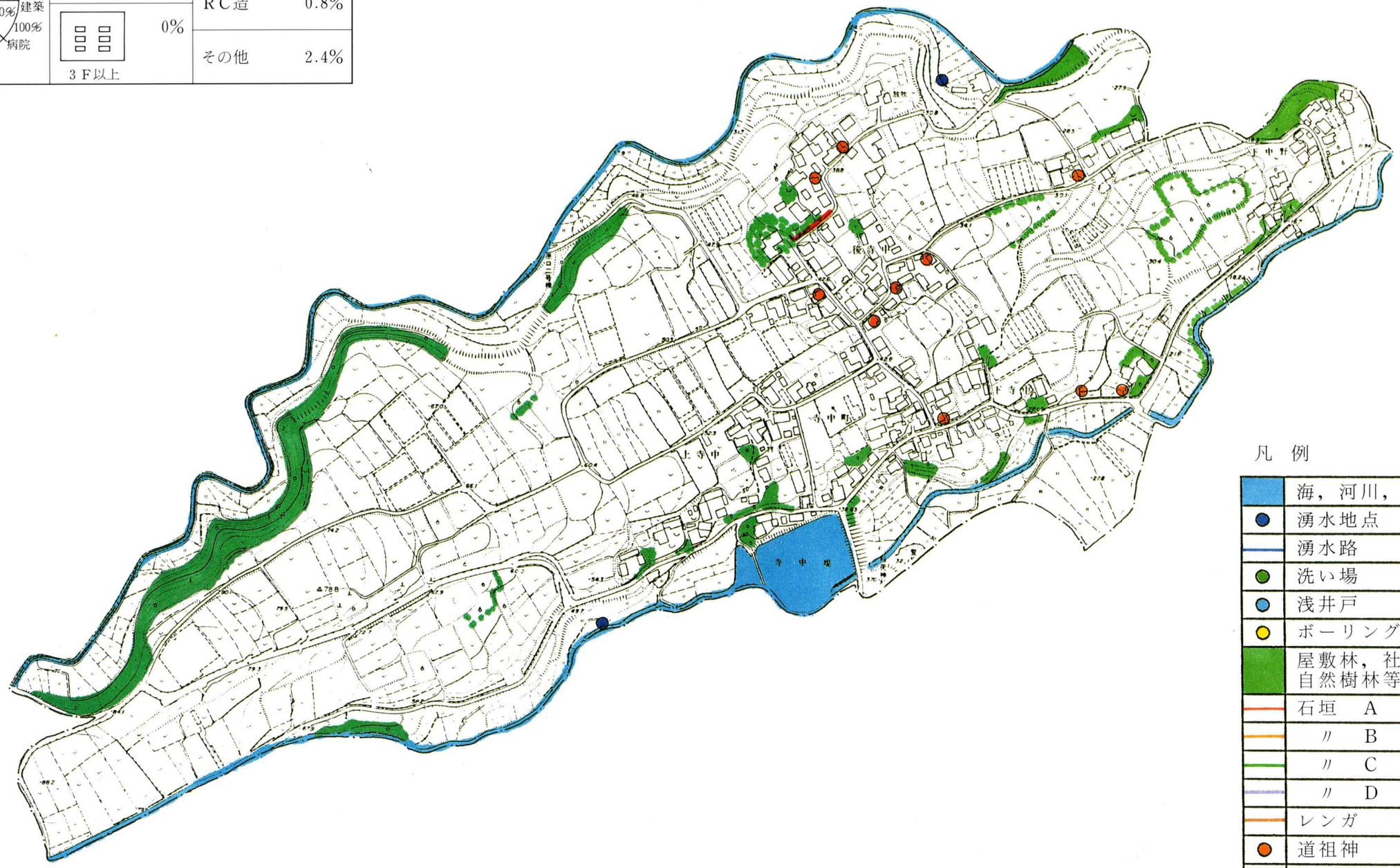
御手水町　112棟

用途別	階数別	構造別
	1～2F 100% 3F以上 0%	木造 89.3% RC造 2.7% その他 8.0%

凡例

	海，河川，池等
●	湧水地点
	湧水路
●	洗い場
●	浅井戸
●	ボーリング
	屋敷林，社寺林 自然樹林等
	石垣　A
	〃　B
	〃　C
	〃　D
	レンガ
●	道祖神
■	文化財
▲	史跡，観光資源

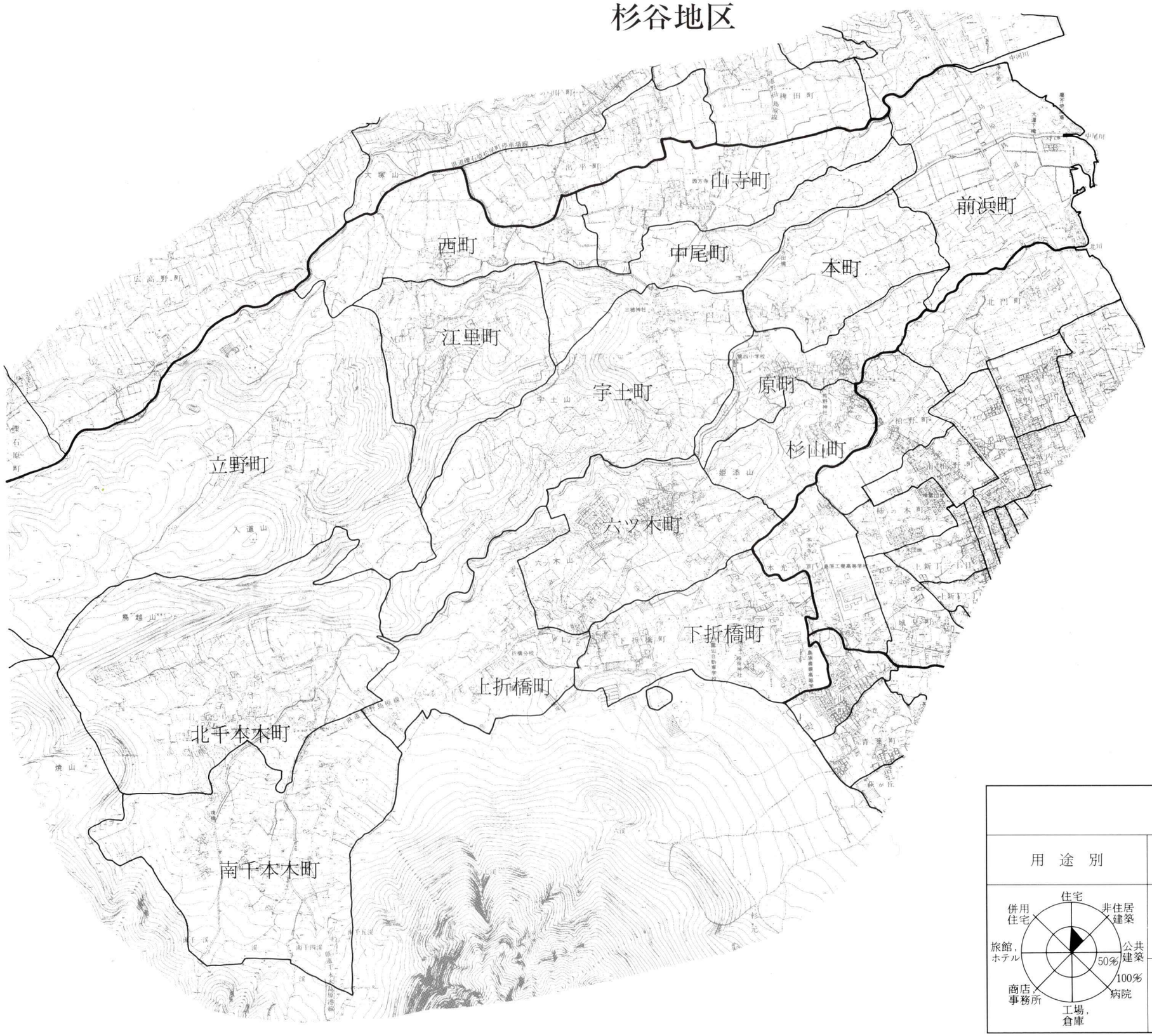
寺中町		126棟
用途別	階数別	構造別
	100% 1～2F	木造 96.8%
	0% 3F以上	RC造 0.8%
		その他 2.4%



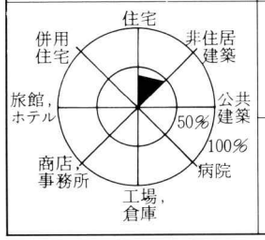
凡例

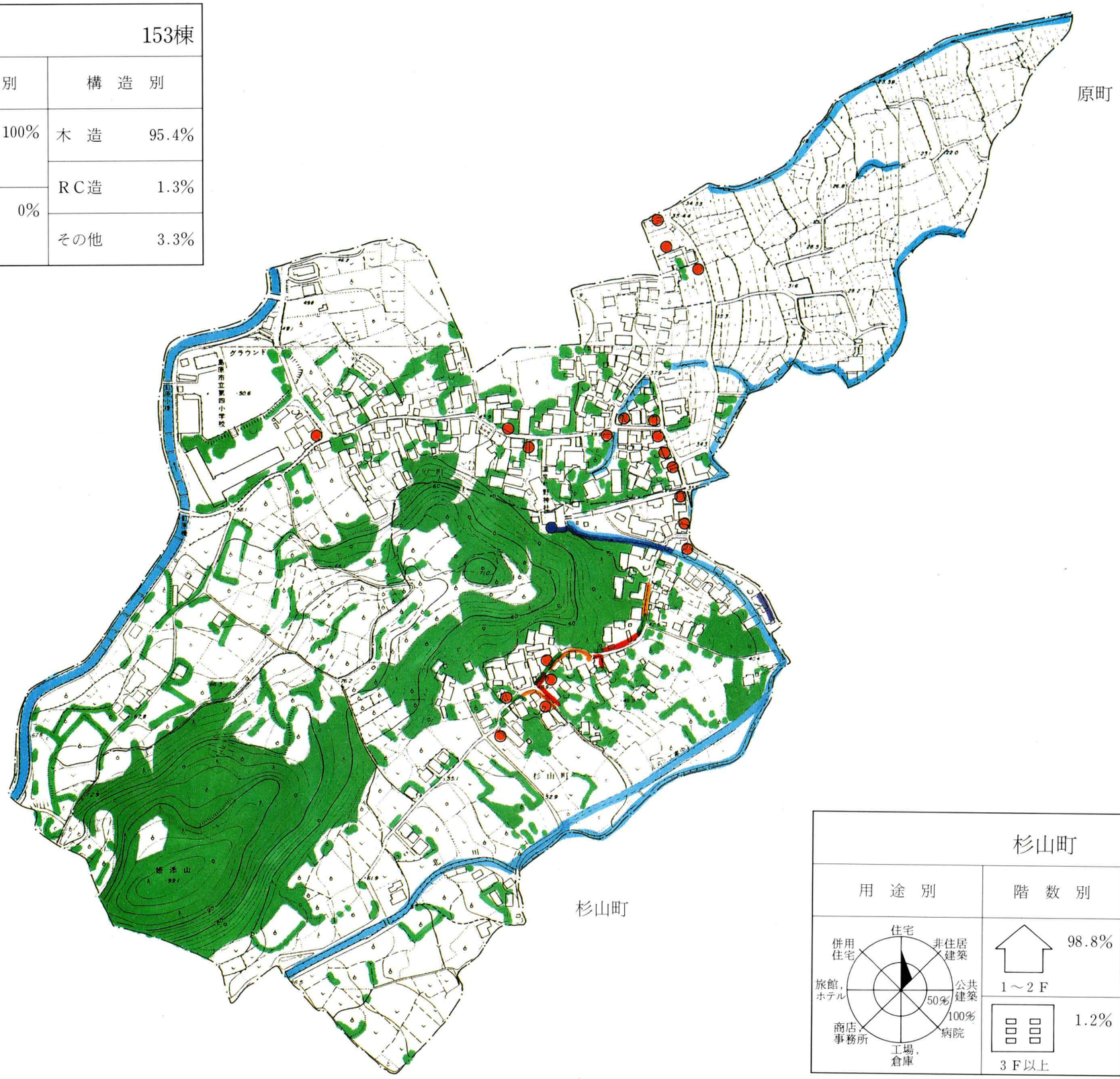
	海，河川，池等
	湧水地点
	湧水路
	洗い場
	浅井戸
	ボーリング
	屋敷林，社寺林 自然樹林等
	石垣 A
	〃 B
	〃 C
	〃 D
	レンガ
	道祖神
	文化財
	史跡，観光資源

杉谷地区



杉谷地区		1,996棟
用途別	階数別	構造別
	1～2F 99.1% 3F以上 0.9%	木造 90.5% RC造 1.2% その他 8.3%

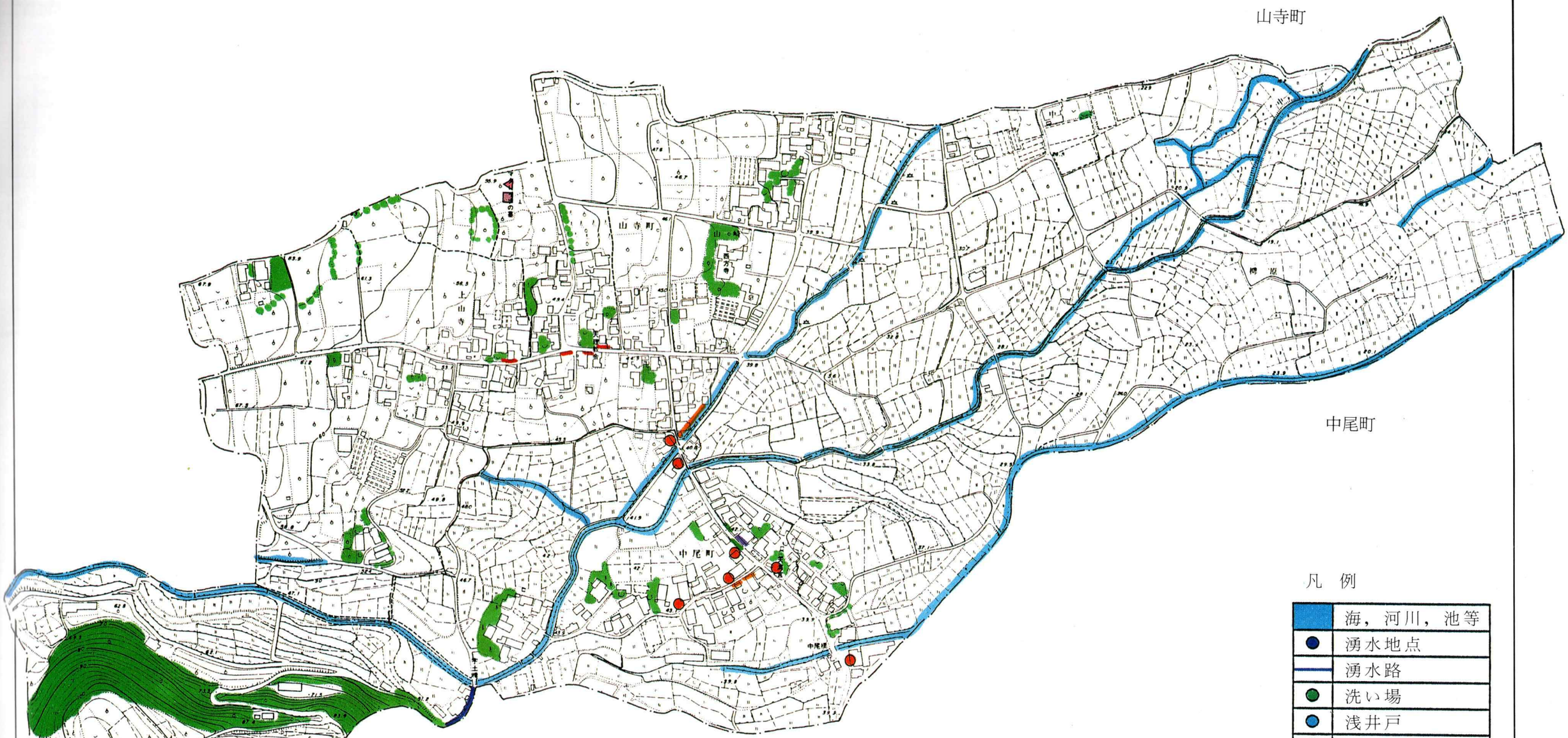
原町		153棟
用途別	階数別	構造別
	1～2F 100% 3F以上 0%	木造 95.4% RC造 1.3% その他 3.3%



凡例

	海，河川，池等
●	湧水地点
	湧水路
●	洗い場
●	浅井戸
●	ボーリング
	屋敷林，社寺林 自然樹林等
	石垣 A
	〃 B
	〃 C
	〃 D
	レンガ
●	道祖神
■	文化財
▲	史跡，観光資源

杉山町		83棟
用途別	階数別	構造別
	1～2F 98.8% 3F以上 1.2%	木造 95.2% RC造 0.0% その他 4.8%



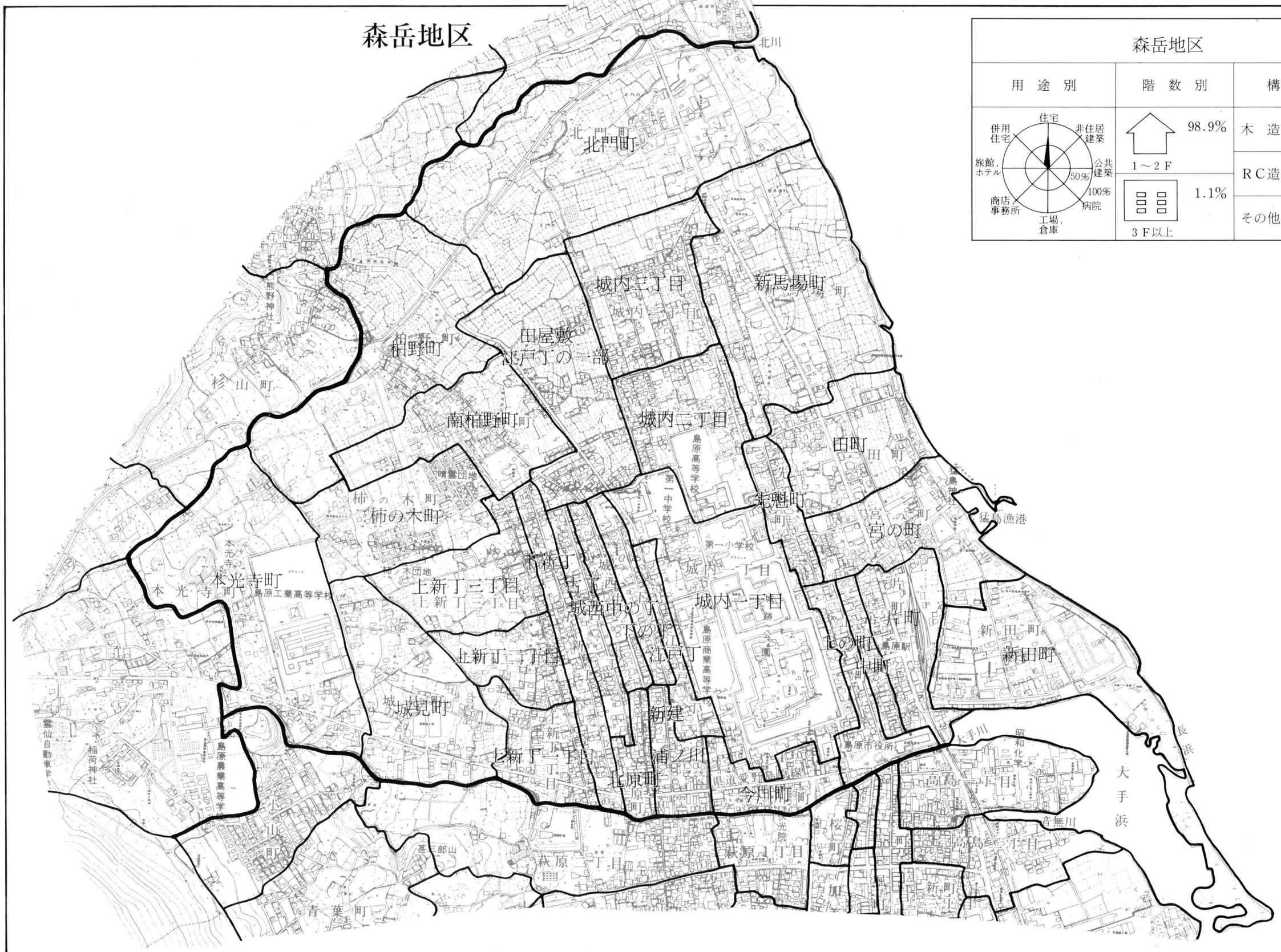
山寺町	133棟
用途別	住宅／非住居建築／公共建築／病院／工場，倉庫／商店，事務所／旅館，ホテル／併用住宅（50%／100%）
階数別	1～2F 100%／3F以上 0%
構造別	木造 97.1%／RC造 0.7%／その他 2.2%

中尾町	101棟
用途別	住宅／非住居建築／公共建築／病院／工場，倉庫／商店，事務所／旅館，ホテル／併用住宅（50%／100%）
階数別	1～2F 100%／3F以上 0%
構造別	木造 94.1%／RC造 0%／その他 5.9%

凡例

- 海，河川，池等
- 湧水地点
- 湧水路
- 洗い場
- 浅井戸
- ボーリング
- 屋敷林，社寺林 自然樹林等
- 石垣 A
- 〃 B
- 〃 C
- 〃 D
- レンガ
- 道祖神
- 文化財
- 史跡，観光資源

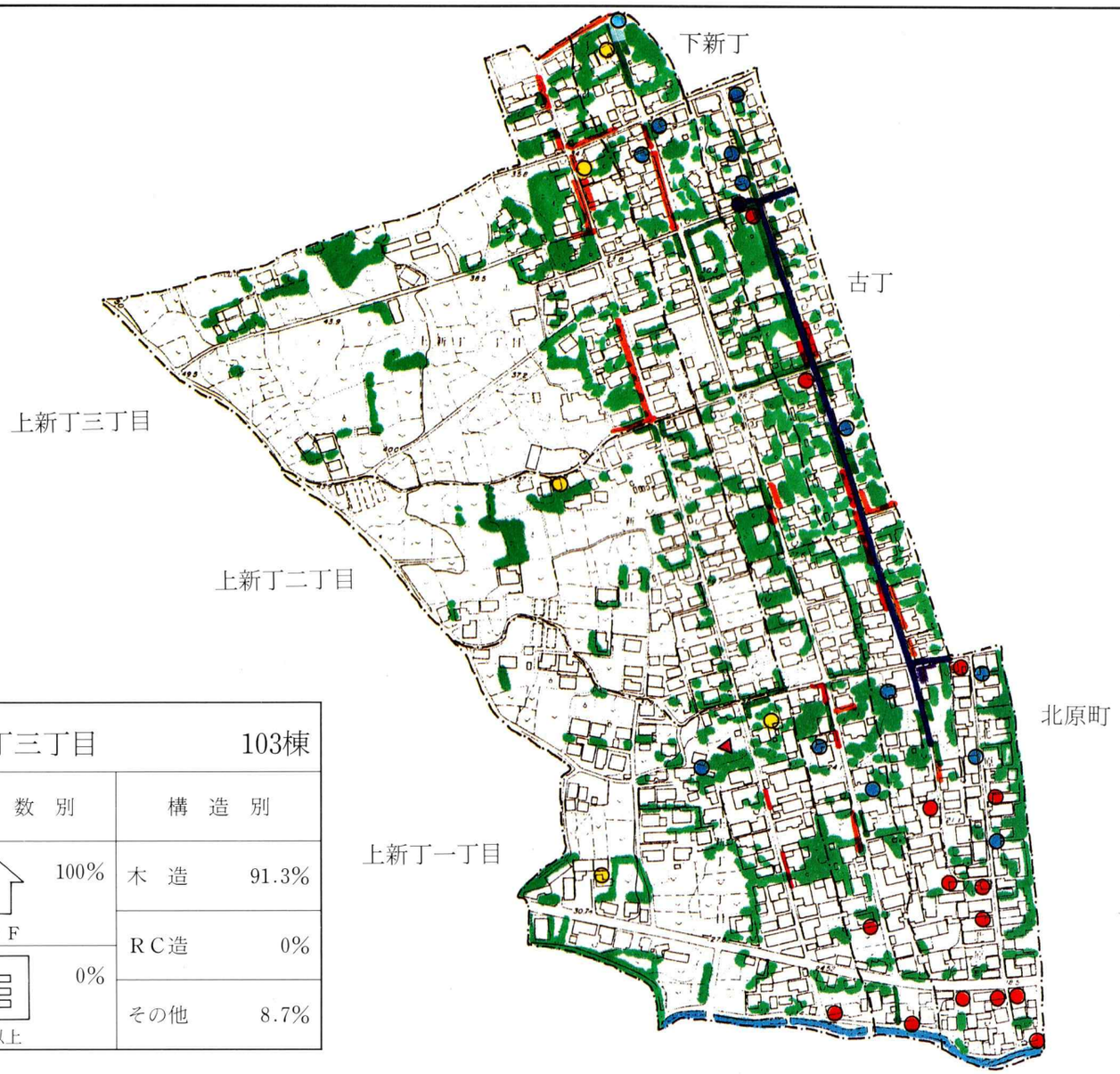
森岳地区



森岳地区		4,054棟
用途別	階数別	構造別
住宅 / 非住居建築 / 公共建築 / 病院 / 工場，倉庫 / 商店，事務所 / 旅館，ホテル / 併用住宅 (50%, 100%)	1～2F 98.9% 3F以上 1.1%	木造 90.9% RC造 1.9% その他 7.2%

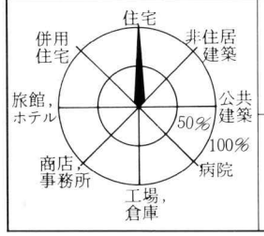
凡　例

	海，河川，池等
●	湧水地点
	湧水路
●	洗い場
●	浅井戸
○	ボーリング
	屋敷林，社寺林 自然樹林等
	石垣　A
	〃　B
	〃　C
	〃　D
	レンガ
●	道祖神
■	文化財
▲	史跡，観光資源



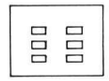
下新丁　219棟

用途別



階数別

1～2F



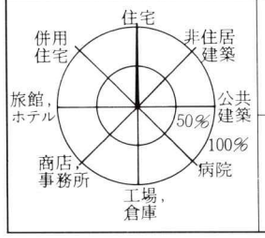
3F以上

構造別

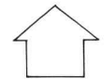
木造	97.4%
RC造	0%
その他	2.6%

古丁　133棟

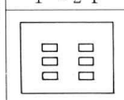
用途別



階数別



1～2F



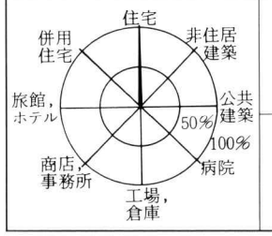
3F以上

構造別

木造	97.8%
RC造	1.5%
その他	0.7%

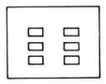
上新丁三丁目　103棟

用途別



階数別

1～2F



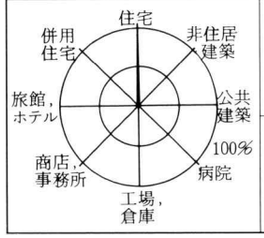
3F以上

構造別

木造	91.3%
RC造	0%
その他	8.7%

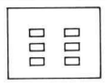
上新丁二丁目　100棟

用途別



階数別

1～2F



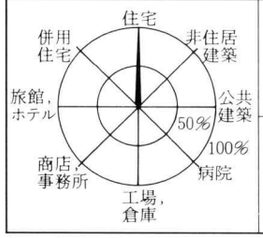
3F以上

構造別

木造	95.0%
RC造	1.0%
その他	4.0%

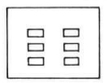
上新丁一丁目　122棟

用途別



階数別

1～2F



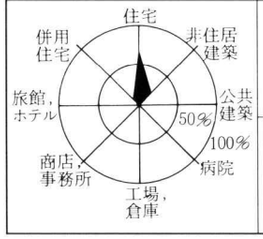
3F以上

構造別

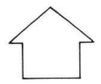
木造	95.1%
RC造	0%
その他	4.9%

北原町　79棟

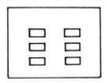
用途別



階数別



1～2F

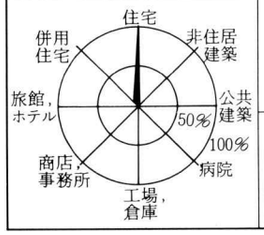


3F以上

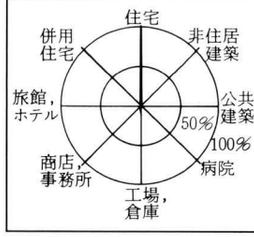
構造別

木造	97.4%
RC造	1.3%
その他	1.3%

城内二丁目　195棟

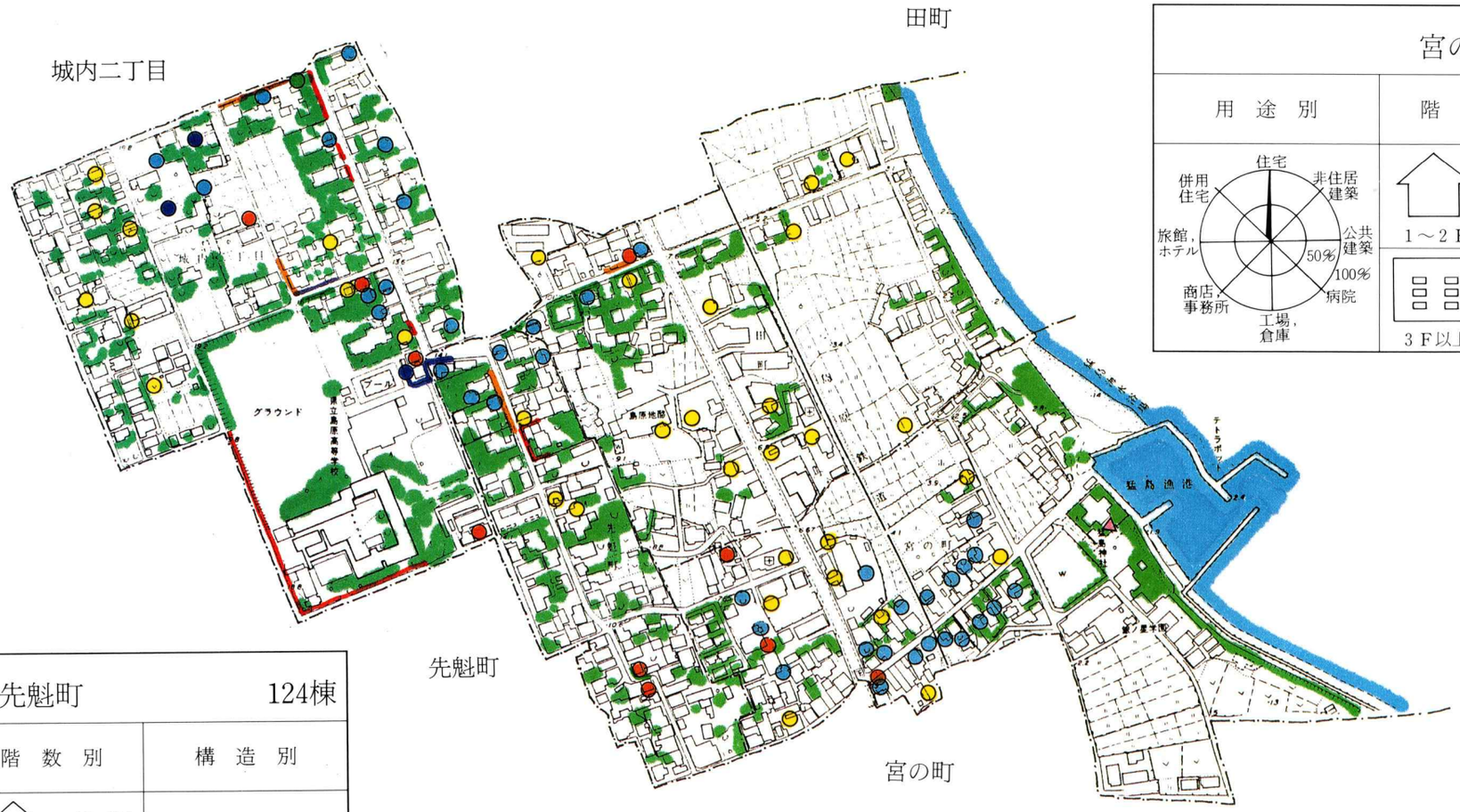
用途別	階数別	構造別
	1～2F 98.5%	木造 92.3%
	3F以上 1.5%	RC造 4.1%
		その他 3.6%

田町　131棟

用途別	階数別	構造別
	1～2F 97.7%	木造 74.8%
	3F以上 2.3%	RC造 3.8%
		その他 21.4%

宮の町　176棟

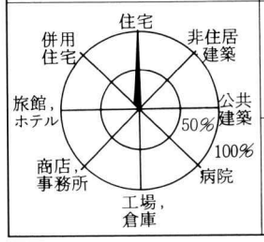
用途別	階数別	構造別
	1～2F 98.9%	木造 93.2%
	3F以上 1.1%	RC造 1.1%
		その他 5.7%



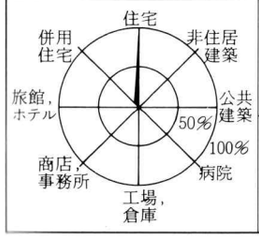
凡例

	海，河川，池等
●	湧水地点
	湧水路
●	洗い場
●	浅井戸
●	ボーリング
	屋敷林，社寺林 自然樹林等
	石垣　A
	〃　B
	〃　C
	〃　D
	レンガ
●	道祖神
■	文化財
▲	史跡，観光資源

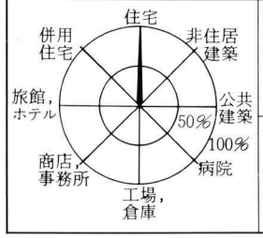
先魁町　124棟

用途別	階数別	構造別
	1～2F 98.4%	木造 95.2%
	3F以上 1.6%	RC造 2.4%
		その他 2.4%

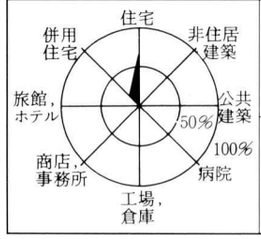
城西中の丁　64棟

用途別	階数別	構造別
	1～2F 100% 3F以上 0%	木造 95.3% RC造 1.6% その他 3.1%

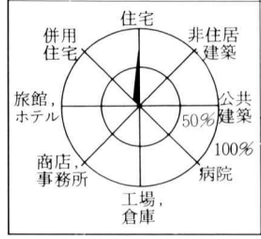
下の丁　97棟

用途別	階数別	構造別
	1～2F 100% 3F以上 0%	木造 96.9% RC造 0% その他 3.1%

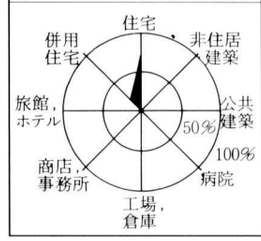
江戸丁　247棟

用途別	階数別	構造別
	1～2F 99.2% 3F以上 0.8%	木造 92.7% RC造 3.7% その他 3.6%

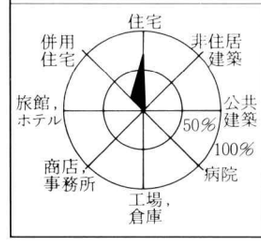
城内一丁目　126棟

用途別	階数別	構造別
	1～2F 98.4% 3F以上 1.6%	木造 84.9% RC造 6.3% その他 8.2%

今川町　172棟

用途別	階数別	構造別
	1～2F 97.7% 3F以上 2.3%	木造 93.6% RC造 2.3% その他 4.1%

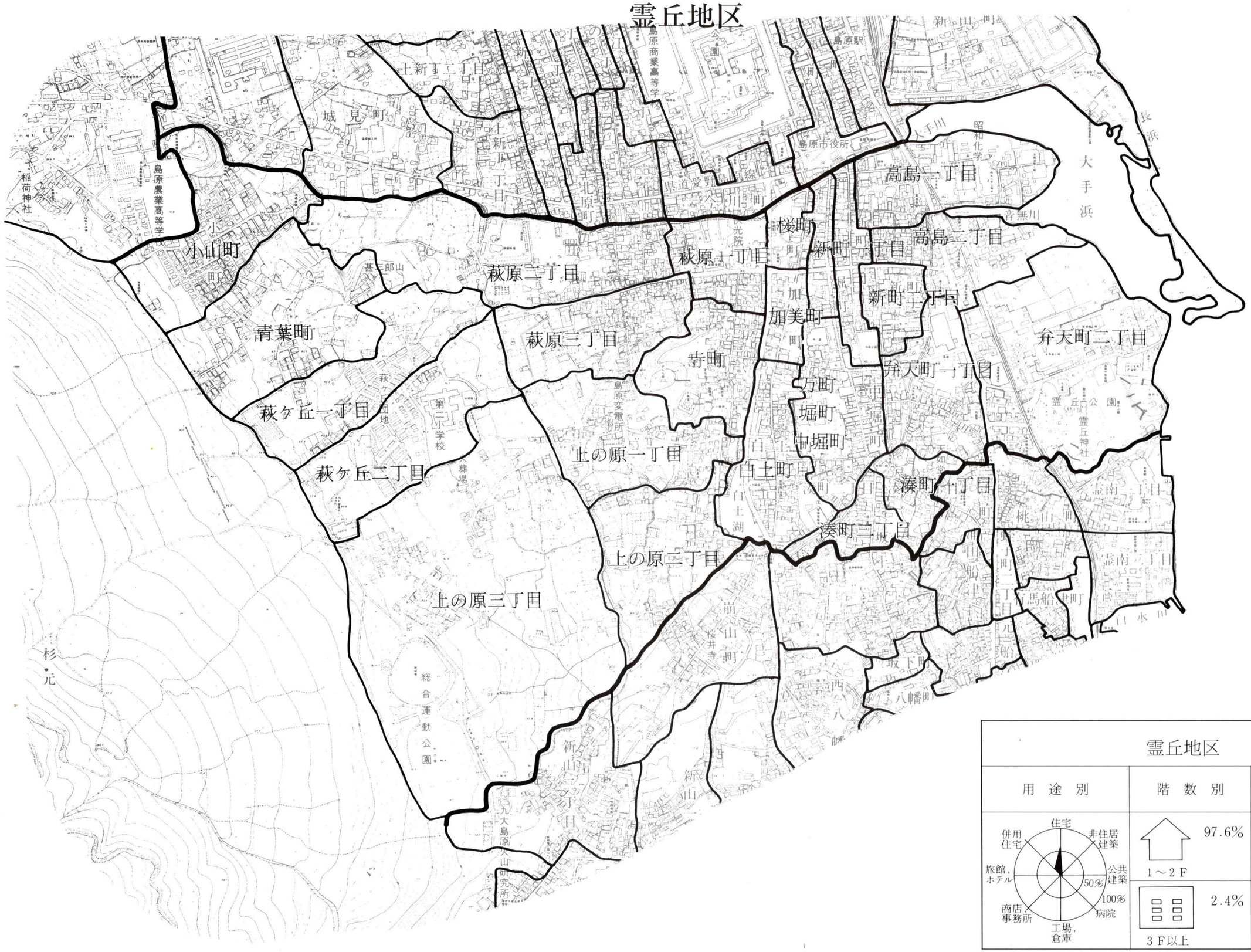
浦ノ川・新建　166棟

用途別	階数別	構造別
	1～2F 99.4% 3F以上 0.6%	木造 95.8% RC造 1.2% その他 3.0%

凡例

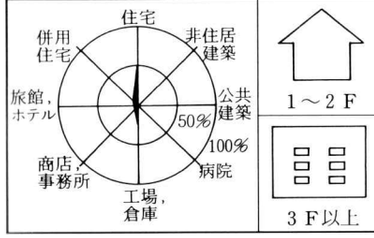
	海，河川，池等
●	湧水地点
	湧水路
●	洗い場
●	浅井戸
●	ボーリング
	屋敷林，社寺林 自然樹林等
	石垣　A
	〃　B
	〃　C
	〃　D
	レンガ
●	道祖神
■	文化財
▲	史跡，観光資源

霊丘地区

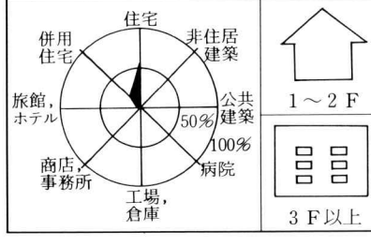


霊丘地区		3,586棟
用途別	階数別	構造別
住宅 / 非住居建築 / 公共建築 / 病院 / 工場，倉庫 / 商店，事務所 / 旅館，ホテル / 併用住宅 (50%, 100%)	1～2F 97.6% 3F以上 2.4%	木造 89.3% RC造 2.1% その他 8.6%

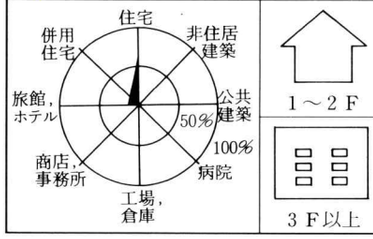
高島一丁目　259棟

用途別	階数別	構造別
	1～2F 98.4% 3F以上 1.6%	木造 83.0% RC造 1.1% その他 15.9%

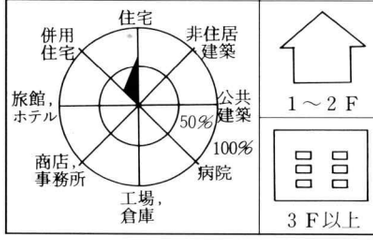
高島二丁目　157棟

用途別	階数別	構造別
	1～2F 98.1% 3F以上 1.9%	木造 86.6% RC造 2.6% その他 10.8%

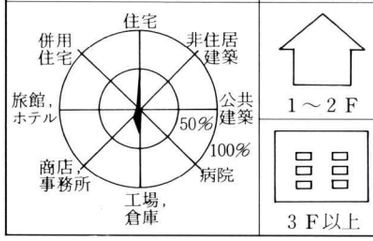
新町二丁目　88棟

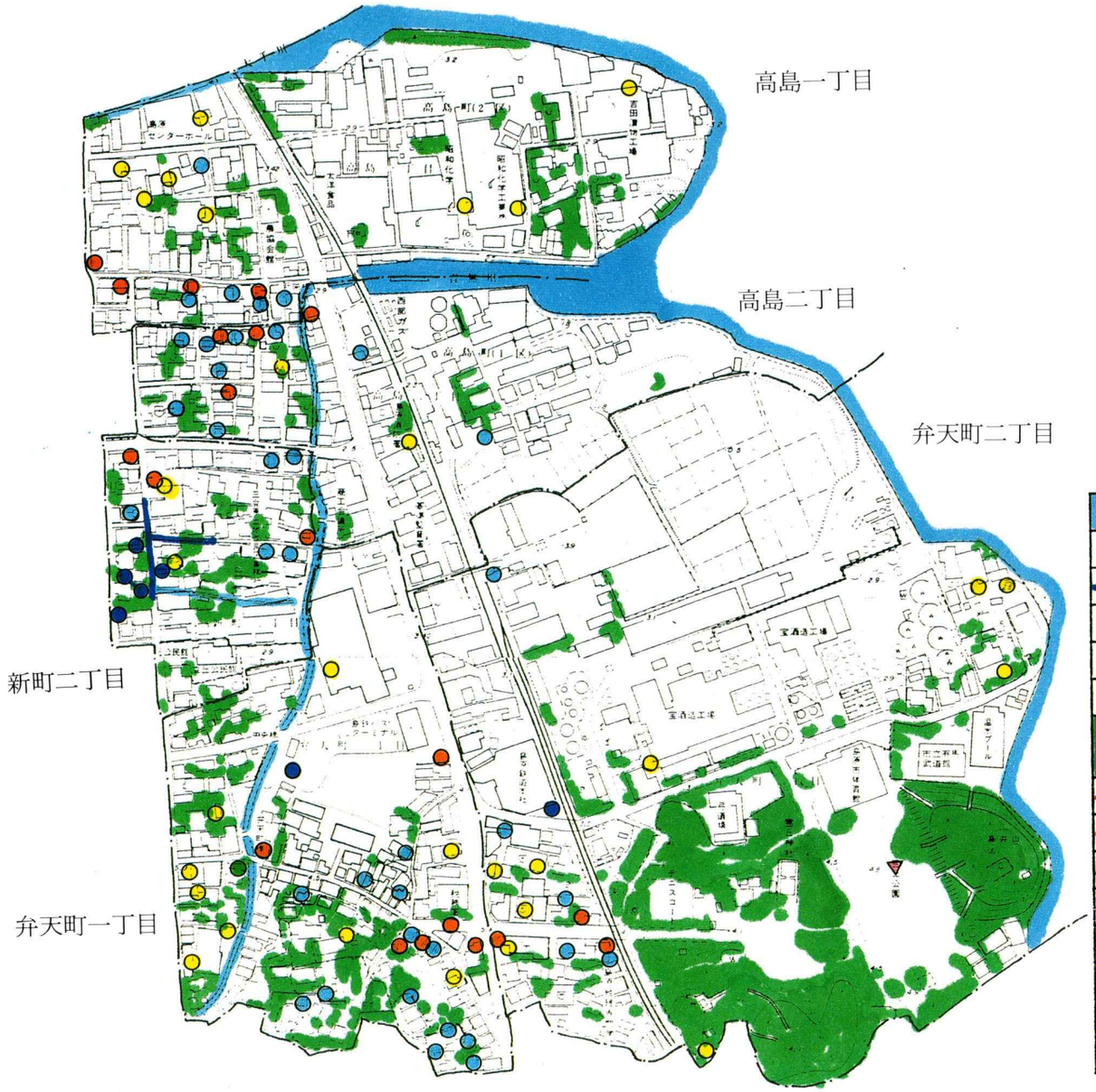
用途別	階数別	構造別
	1～2F 86.3% 3F以上 13.7%	木造 84.1% RC造 6.8% その他 9.1%

弁天町一丁目　240棟

用途別	階数別	構造別
	1～2F 99.2% 3F以上 0.8%	木造 90.4% RC造 1.7% その他 7.9%

弁天町二丁目　158棟

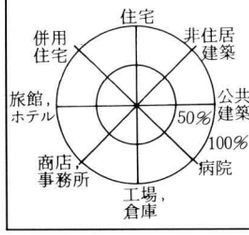
用途別	階数別	構造別
	1～2F 91.8% 3F以上 8.2%	木造 62.7% RC造 10.1% その他 27.2%



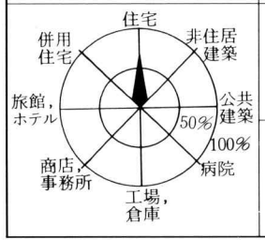
凡例

	海，河川，池等
●	湧水地点
	湧水路
●	洗い場
●	浅井戸
●	ボーリング
	屋敷林，社寺林 自然樹林等
	石垣　A
	〃　B
	〃　C
	〃　D
	レンガ
●	道祖神
■	文化財
▲	史跡，観光資源

上の原一丁目　142棟

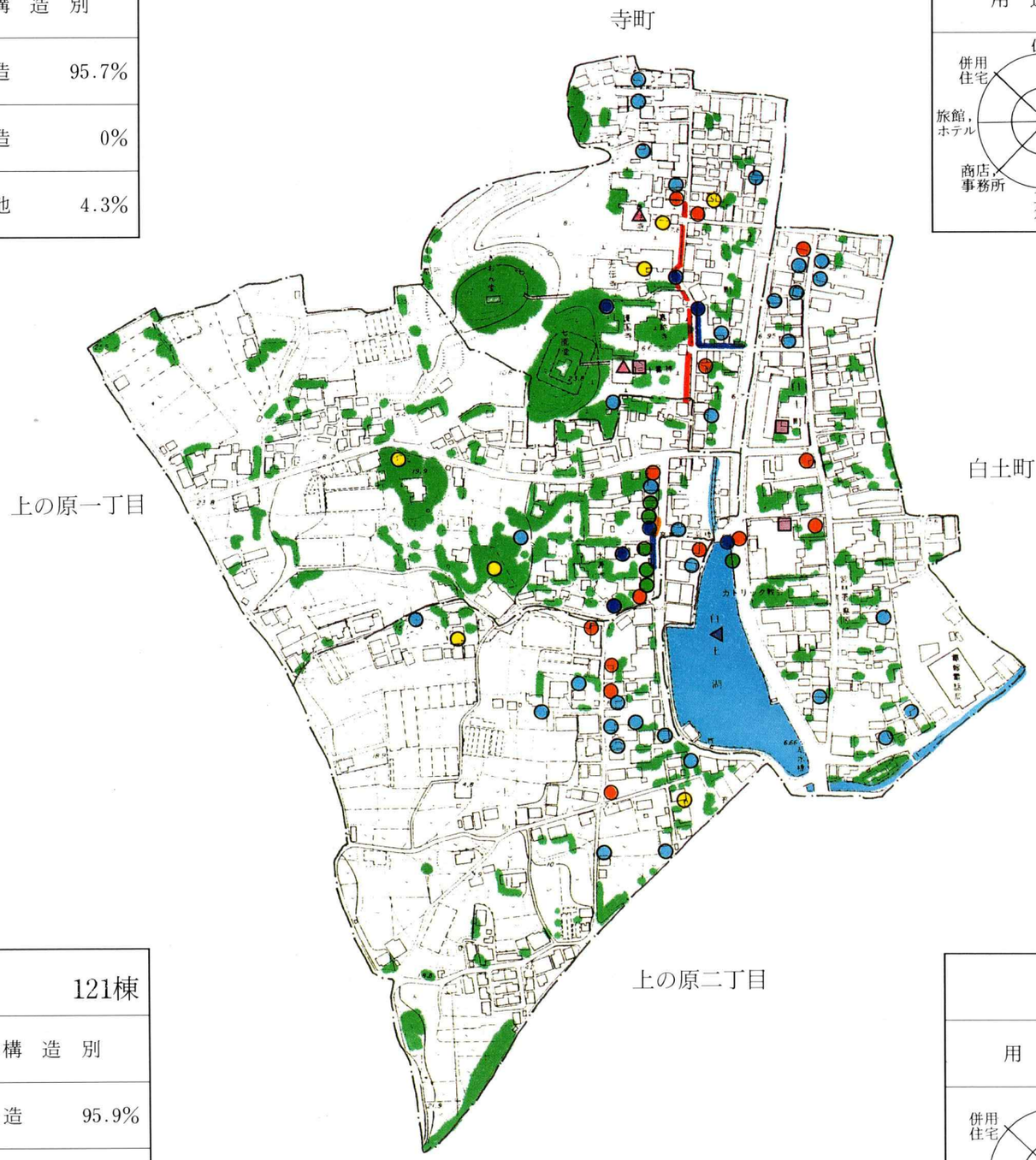
用途別	階数別	構造別
	1～2F 100% 3F以上 0%	木造 95.7% RC造 0% その他 4.3%

寺町　123棟

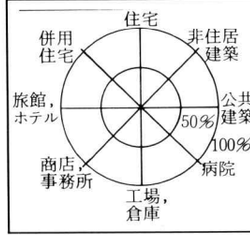
用途別	階数別	構造別
	1～2F 100% 3F以上 0%	木造 95.1% RC造 0.8% その他 4.1%

凡例

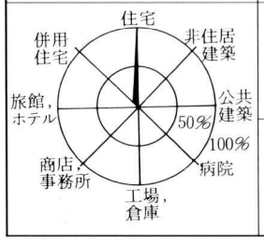
	海，河川，池等
●	湧水地点
	湧水路
●	洗い場
●	浅井戸
●	ボーリング
	屋敷林，社寺林 自然樹林等
	石垣　A
	〃　B
	〃　C
	〃　D
	レンガ
●	道祖神
■	文化財
▲	史跡，観光資源



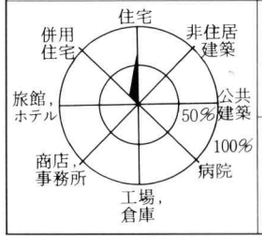
上の原二丁目　121棟

用途別	階数別	構造別
	1～2F 100% 3F以上 0%	木造 95.9% RC造 0% その他 4.1%

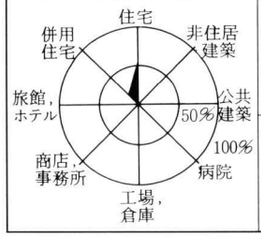
白土町　212棟

用途別	階数別	構造別
	1～2F 98.6% 3F以上 1.4%	木造 94.3% RC造 0% その他 39.7%

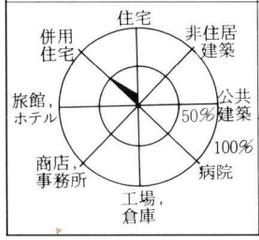
桜町　53棟

用途別	階数別	構造別
	1～2F 96.2%	木造 88.6%
	3F以上 3.8%	RC造 1.9%
		その他 9.5%

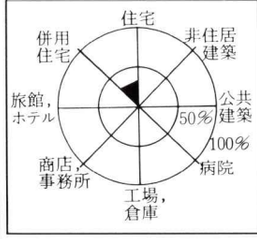
加美町　92棟

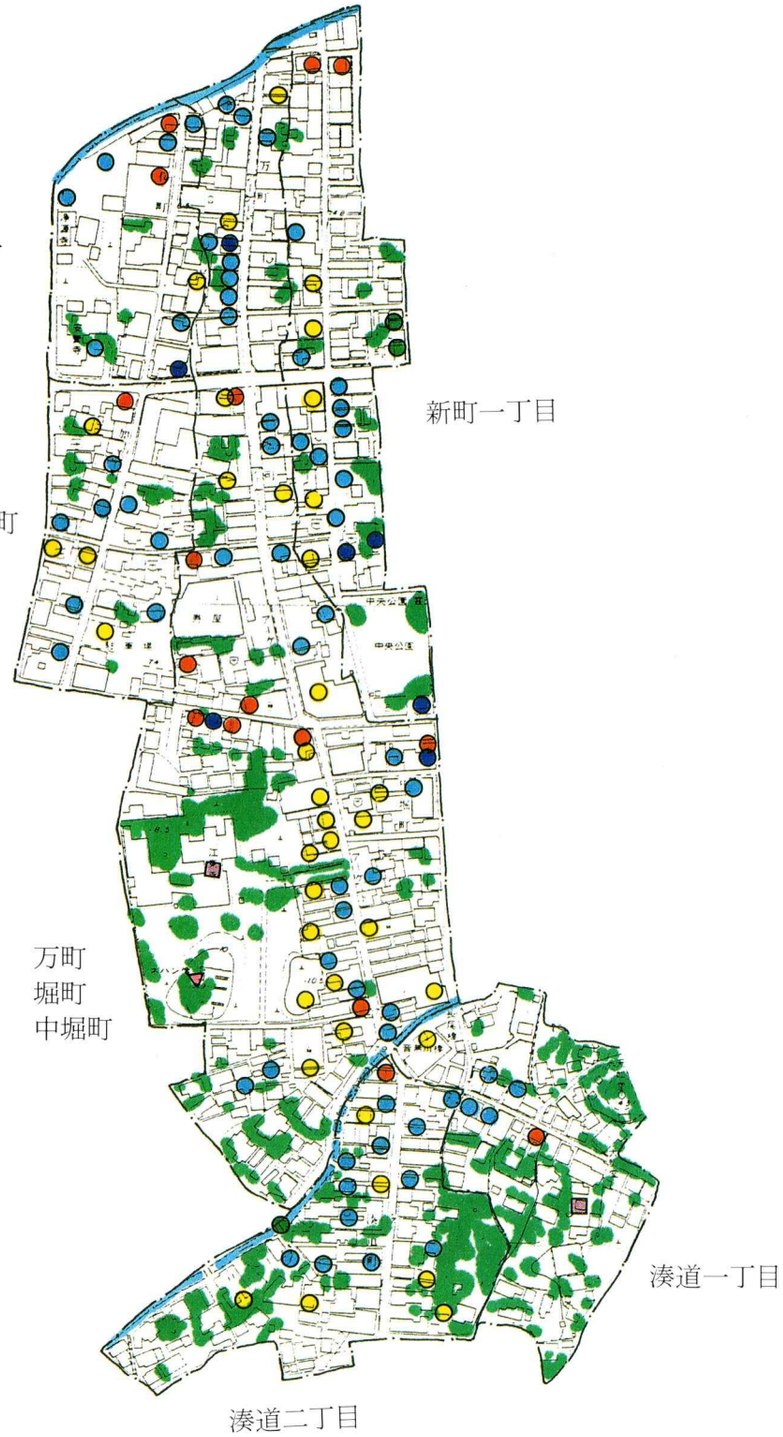
用途別	階数別	構造別
	1～2F 92.4%	木造 82.6%
	3F以上 7.6%	RC造 7.6%
		その他 8.8%

万町　96棟

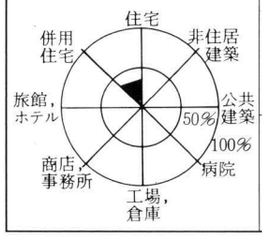
用途別	階数別	構造別
	1～2F 91.7%	木造 80.3%
	3F以上 8.3%	RC造 0%
		その他 19.7%

堀町　107棟

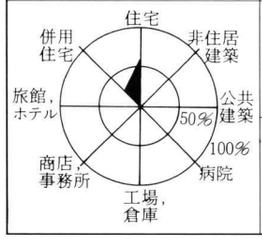
用途別	階数別	構造別
	1～2F 91.6%	木造 86.9%
	3F以上 8.4%	RC造 5.6%
		その他 7.5%



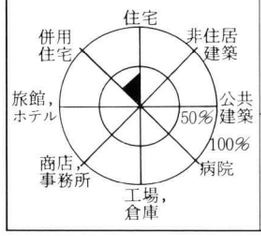
新町一丁目　156棟

用途別	階数別	構造別
	1～2F 96.2%	木造 87.8%
	3F以上 3.8%	RC造 3.8%
		その他 8.4%

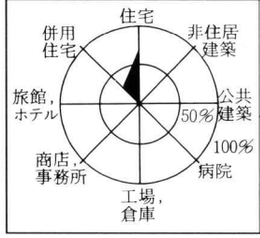
湊道一丁目　99棟

用途別	階数別	構造別
	1～2F 100%	木造 94.9%
	3F以上 0%	RC造 1.0%
		その他 4.1%

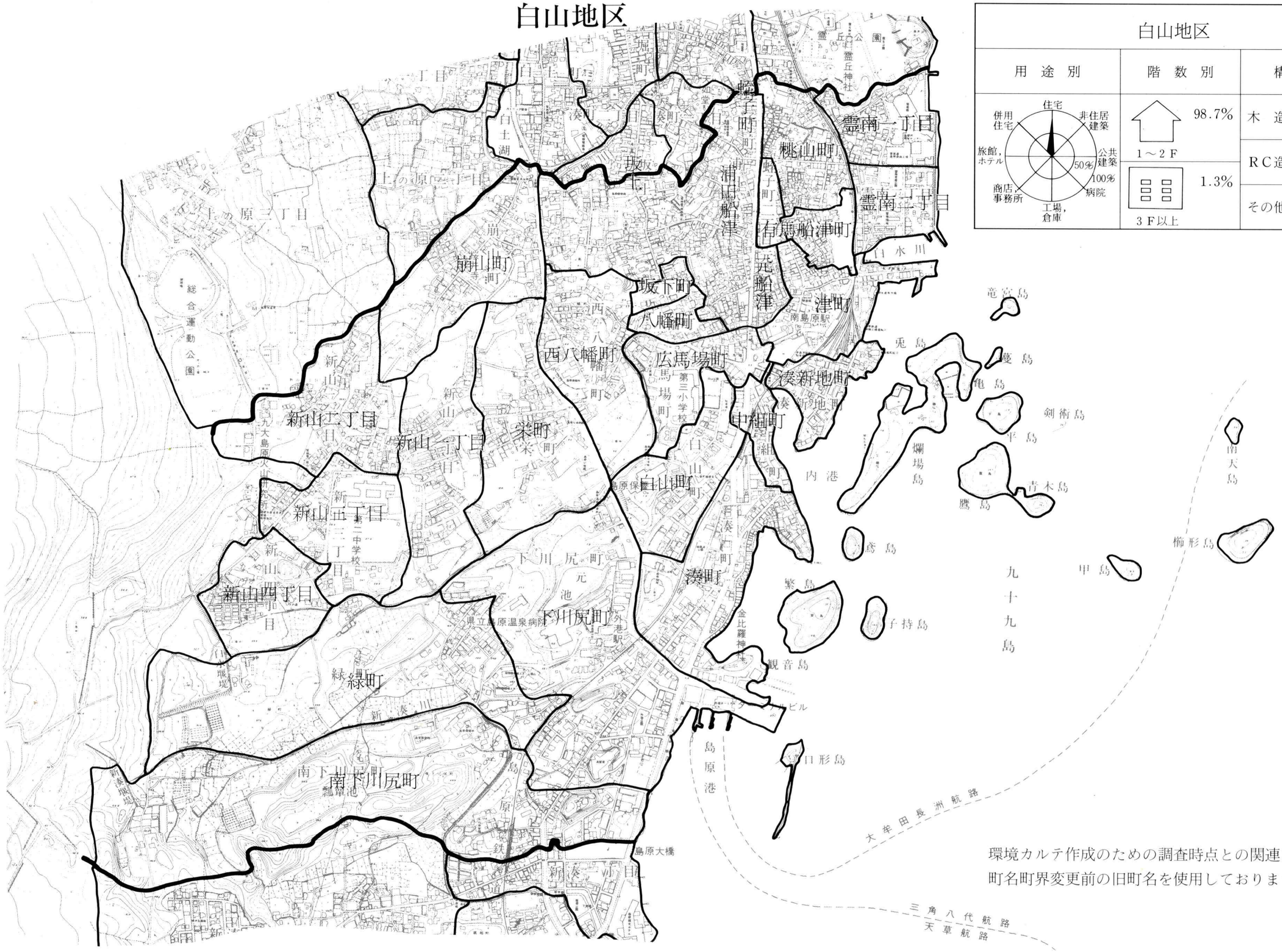
中堀町　262棟

用途別	階数別	構造別
	1～2F 96.6%	木造 87.4%
	3F以上 3.4%	RC造 3.4%
		その他 9.2%

湊道二丁目　159棟

用途別	階数別	構造別
	1～2F 97.5%	木造 96.2%
	3F以上 2.5%	RC造 0%
		その他 3.8%

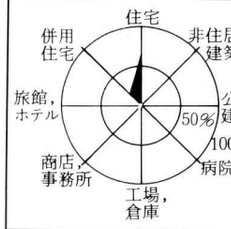
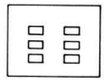
白山地区



白山地区		4,359棟
用途別	階数別	構造別
住宅 / 非住居建築 / 公共建築 / 病院 / 工場，倉庫 / 商店，事務所 / 旅館，ホテル / 併用住宅	1～2F 98.7%	木造 92.2%
		RC造 1.2%
	3F以上 1.3%	その他 6.6%

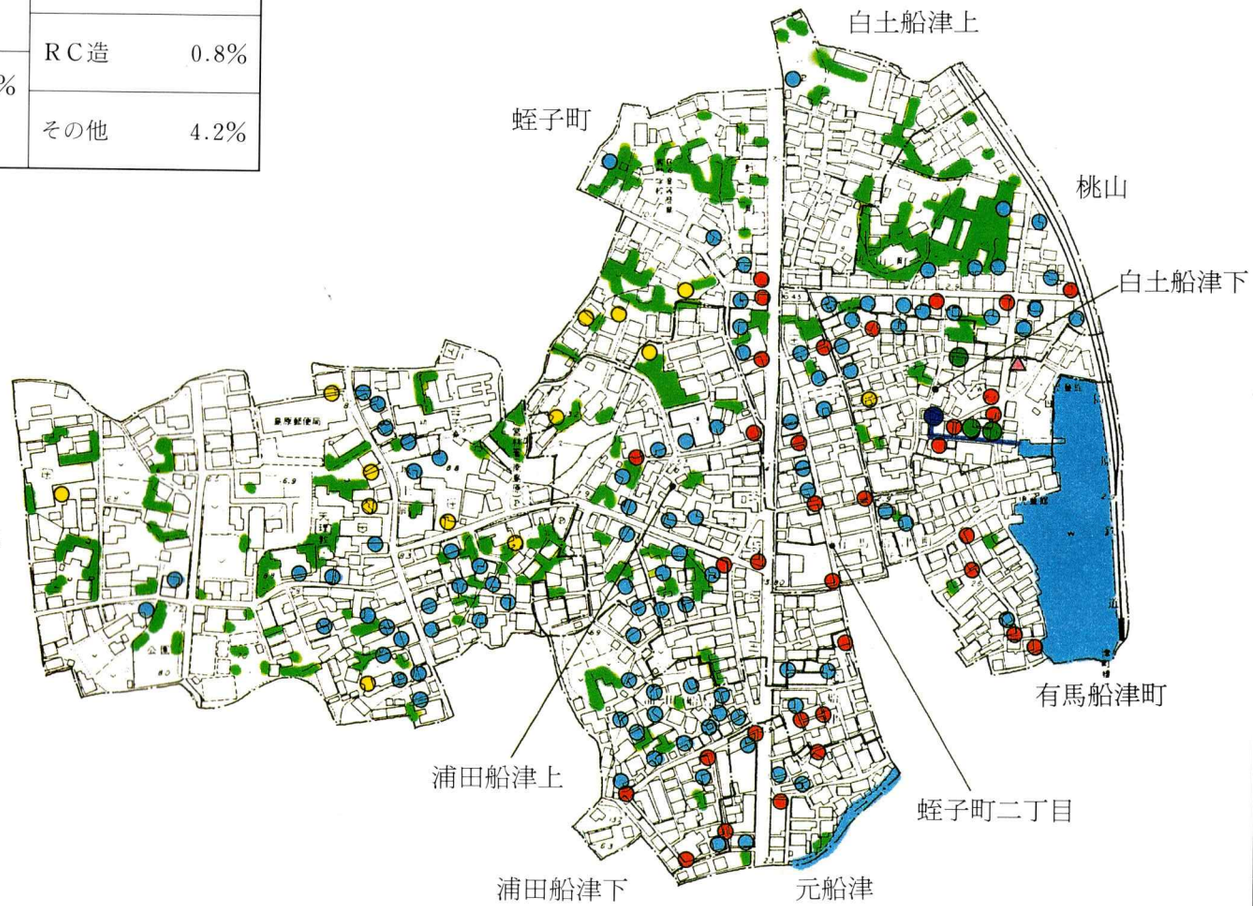
環境カルテ作成のための調査時点との関連で，一部に町名町界変更前の旧町名を使用しております。

坂上　238棟

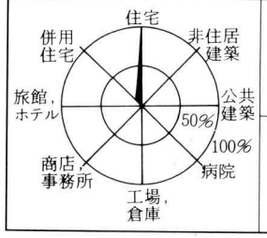
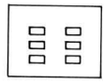
用途別	階数別	構造別
	1～2F 99.2%	木造 95.0%
	 3F以上 0.8%	RC造 0.8%
		その他 4.2%

凡例

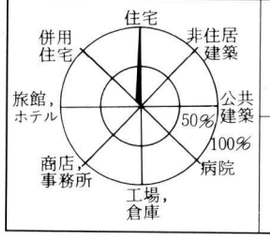
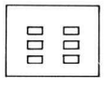
	海，河川，池等
●	湧水地点
	湧水路
●	洗い場
●	浅井戸
●	ボーリング
	屋敷林，社寺林 自然樹林等
	石垣　A
	〃　B
	〃　C
	〃　D
	レンガ
●	道祖神
■	文化財
▲	史跡，観光資源



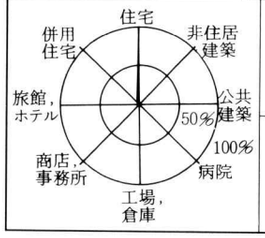
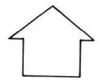
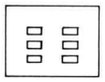
白土船津上・下　214棟

用途別	階数別	構造別
	1～2F 100%	木造 99.1%
	 3F以上 0%	RC造 0%
		その他 0.9%

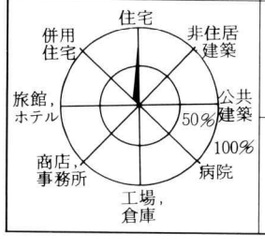
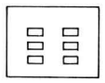
桃山　78棟

用途別	階数別	構造別
	1～2F 100%	木造 98.7%
	 3F以上 0%	RC造 0%
		その他 1.3%

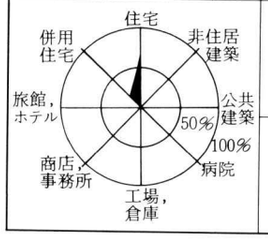
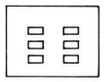
有馬船津町　116棟

用途別	階数別	構造別
	 1～2F 99.1%	木造 99.1%
	 3F以上 0.9%	RC造 0%
		その他 0.9%

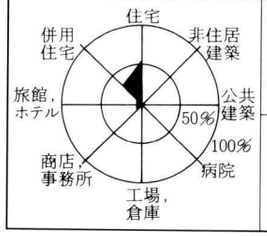
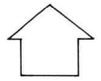
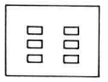
浦田船津上・下　318棟

用途別	階数別	構造別
	1～2F 100%	木造 97.8%
	 3F以上 0%	RC造 0.6%
		その他 1.6%

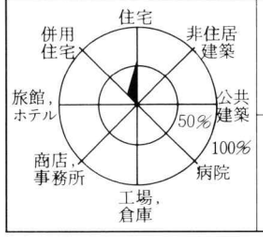
元船津　117棟

用途別	階数別	構造別
	1～2F 98.3%	木造 95.7%
	 3F以上 1.7%	RC造 0%
		その他 0.9%

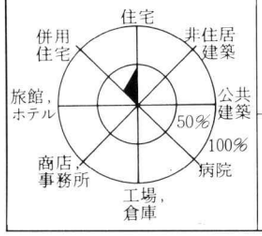
蛭子町・蛭子町二丁目　208棟

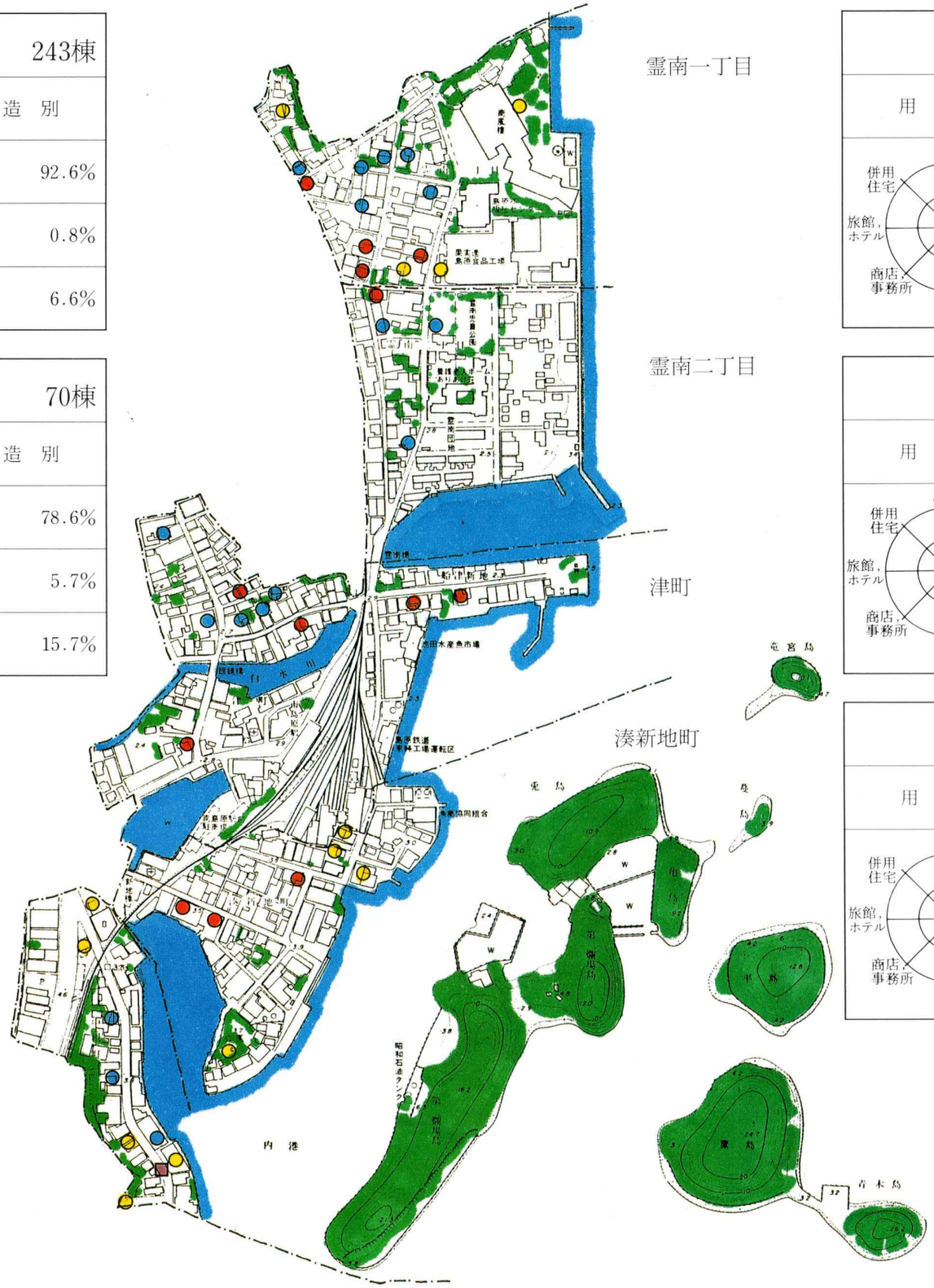
用途別	階数別	構造別
	 1～2F 99.5%	木造 93.8%
	 3F以上 0.5%	RC造 1.4%
		その他 4.8%

津町　243棟

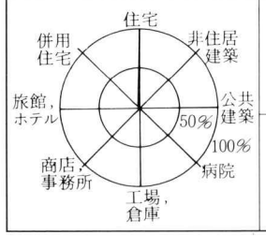
用途別	階数別	構造別
	1～2F 99.6% 3F以上 0.4%	木造 92.6% RC造 0.8% その他 6.6%

中組町　70棟

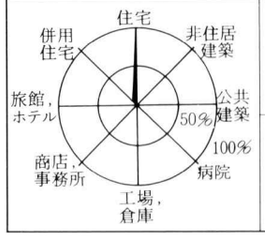
用途別	階数別	構造別
	1～2F 91.5% 3F以上 8.5%	木造 78.6% RC造 5.7% その他 15.7%



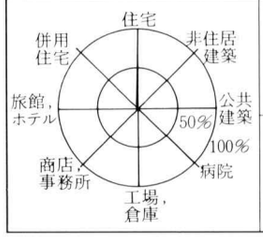
霊南二丁目　54棟

用途別	階数別	構造別
	1～2F 98.2% 3F以上 1.8%	木造 98.2% RC造 1.8% その他 0%

湊新地町　139棟

用途別	階数別	構造別
	1～2F 99.3% 3F以上 0.7%	木造 92.8% RC造 1.4% その他 5.8%

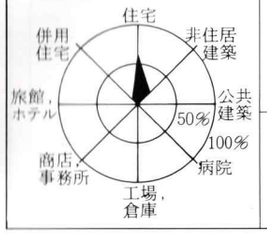
霊南一丁目　119棟

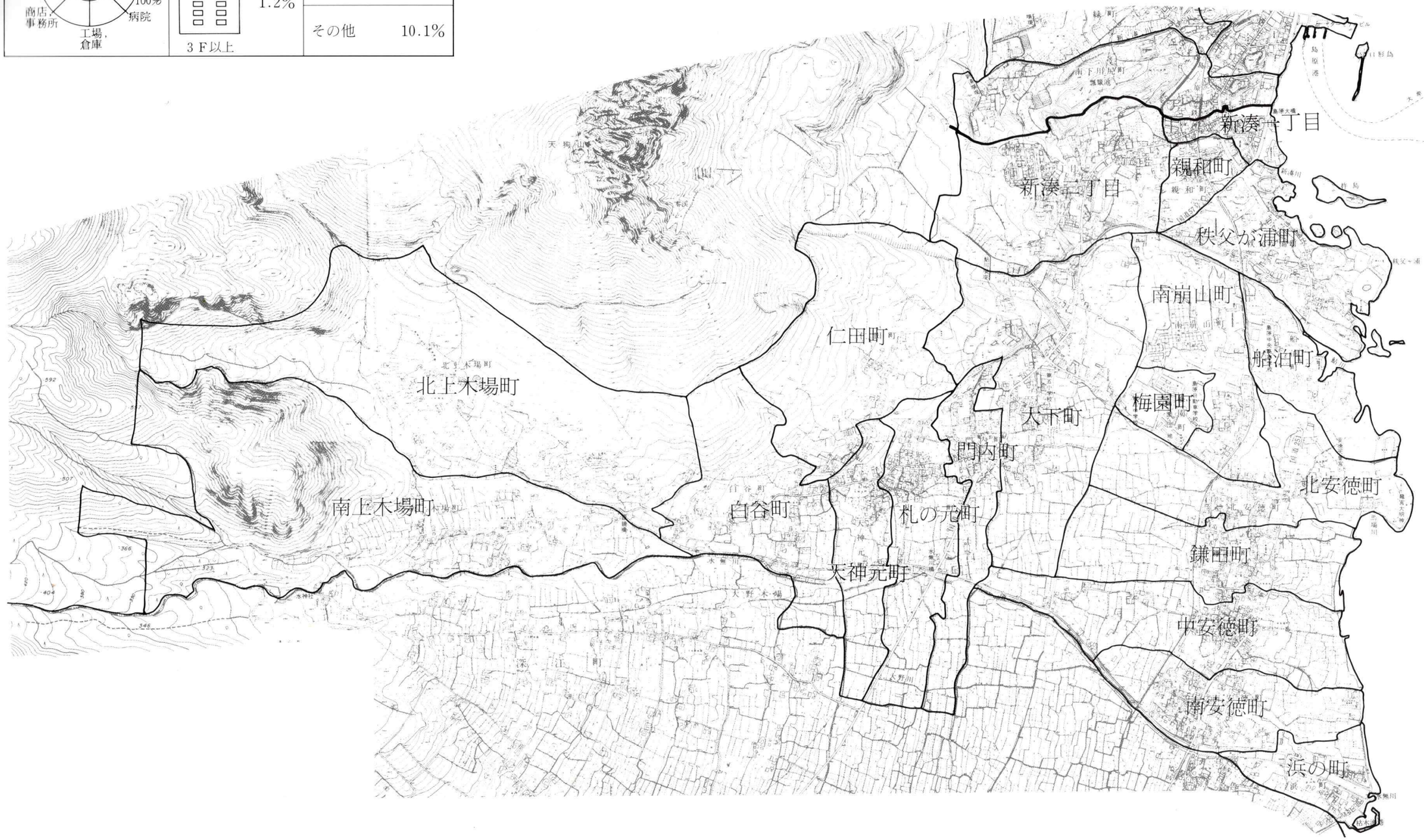
用途別	階数別	構造別
	1～2F 97.5% 3F以上 2.5%	木造 93.3% RC造 1.7% その他 5.0%

凡例

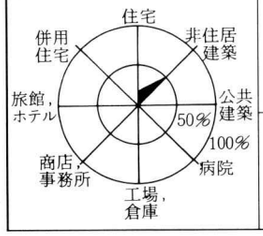
	海，河川，池等
●	湧水地点
	湧水路
●	洗い場
●	浅井戸
●	ボーリング
	屋敷林，社寺林 自然樹林等
	石垣　A
	〃　B
	〃　C
	〃　D
	レンガ
●	道祖神
■	文化財
▲	史跡，観光資源

安中地区

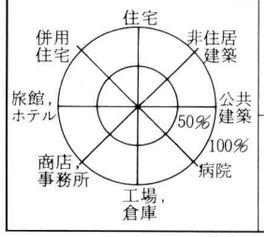
安中地区		2,511棟
用途別	階数別	構造別
	1～2F 98.8%	木造 88.4%
	3F以上 1.2%	RC造 1.5%
		その他 10.1%

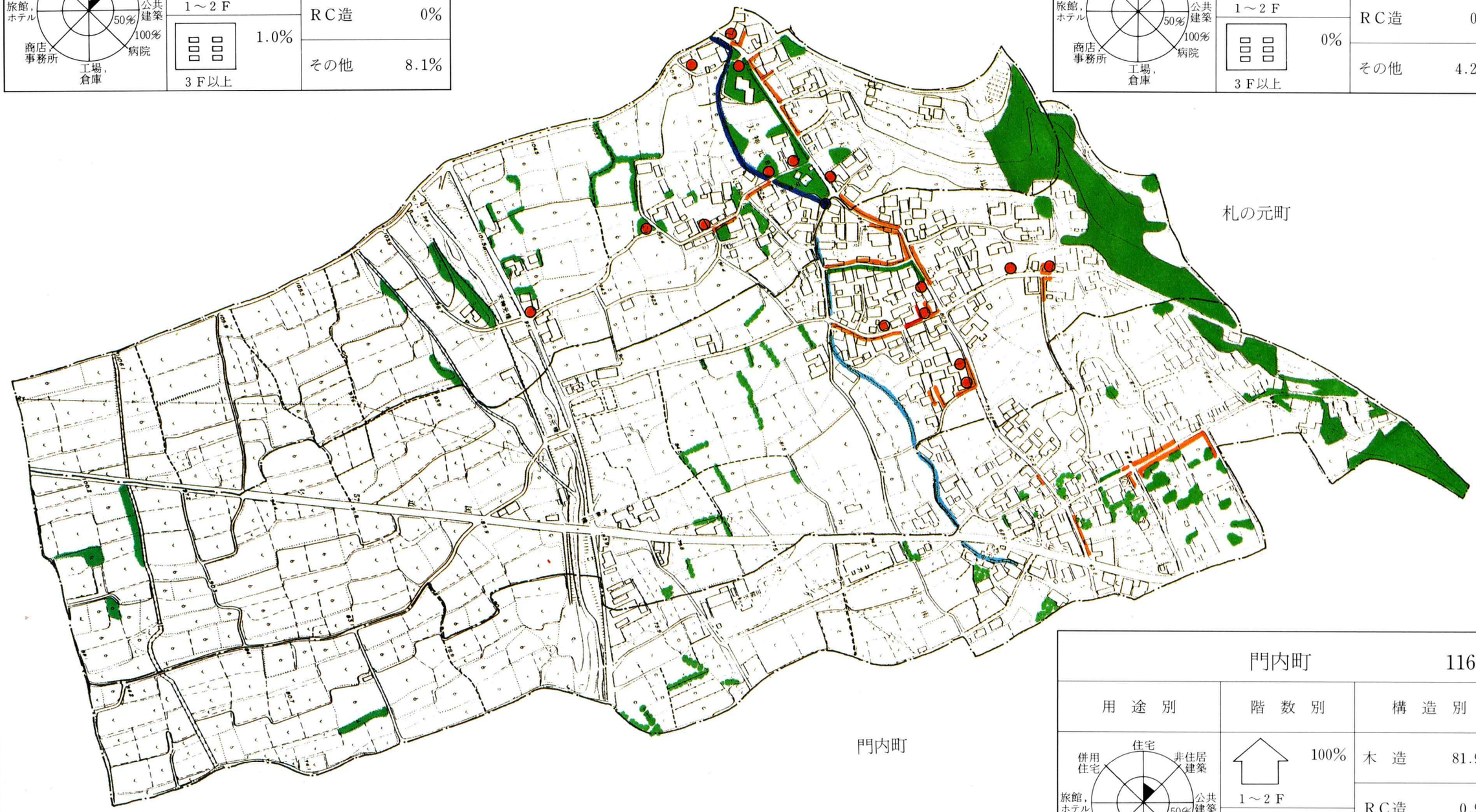


札の元町　111棟

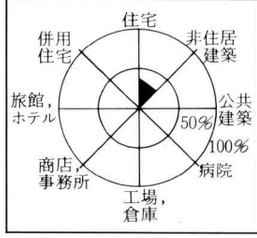
用途別	階数別	構造別
	1～2F 99.0%	木造 91.9%
	3F以上 1.0%	RC造 0%
		その他 8.1%

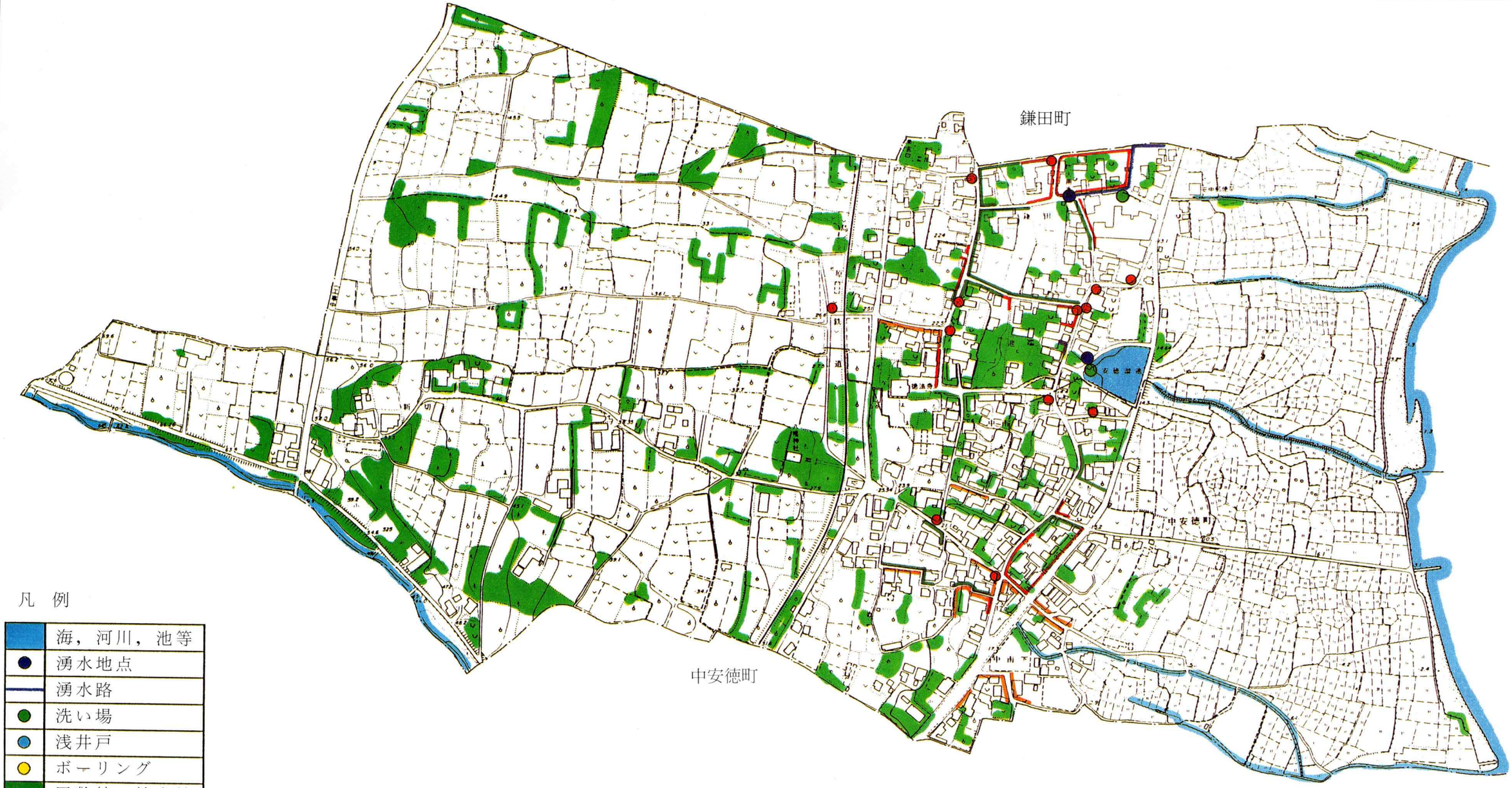
天神元町　48棟

用途別	階数別	構造別
	1～2F 100%	木造 95.8%
	3F以上 0%	RC造 0%
		その他 4.2%



門内町　116棟

用途別	階数別	構造別
	1～2F 100%	木造 81.9%
	3F以上 0%	RC造 0.9%
		その他 17.2%

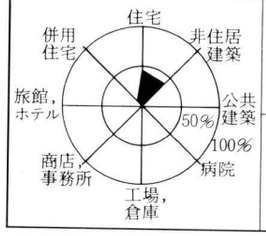


凡　例

	海，河川，池等
●	湧水地点
	湧水路
●	洗い場
●	浅井戸
●	ボーリング
	屋敷林，社寺林 自然樹林等
	石垣　A
	〃　B
	〃　C
	〃　D
	レンガ
●	道祖神
■	文化財
▲	史跡，観光資源

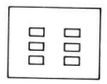
鎌田町　129棟

用途別



階数別

100%
1～2F

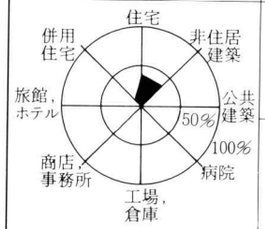

0%
3F以上

構造別

木造	95.3%
RC造	0%
その他	4.7%

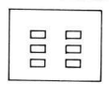
中安徳町　157棟

用途別



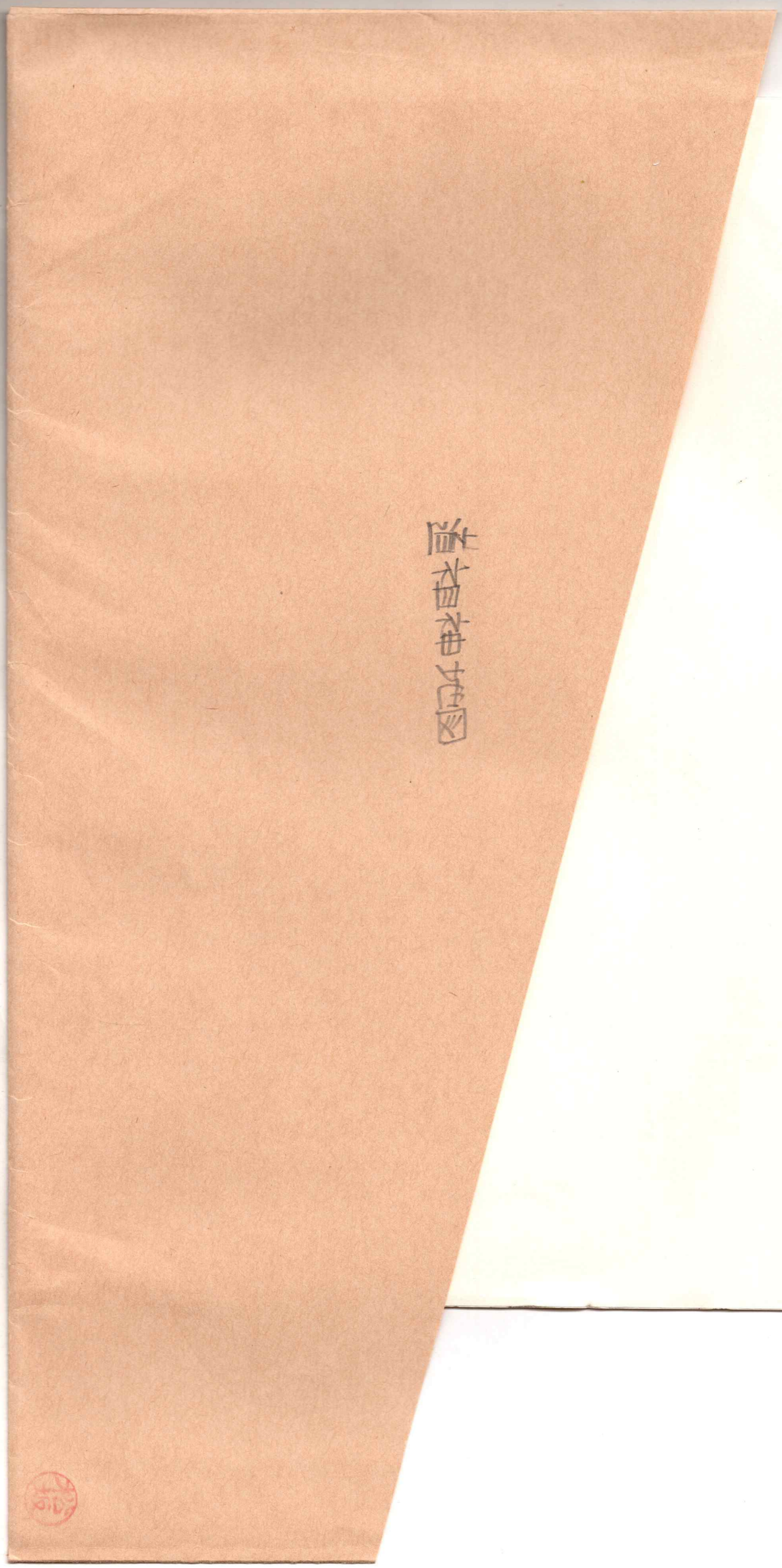
階数別

99.4%
1～2F


0.6%
3F以上

構造別

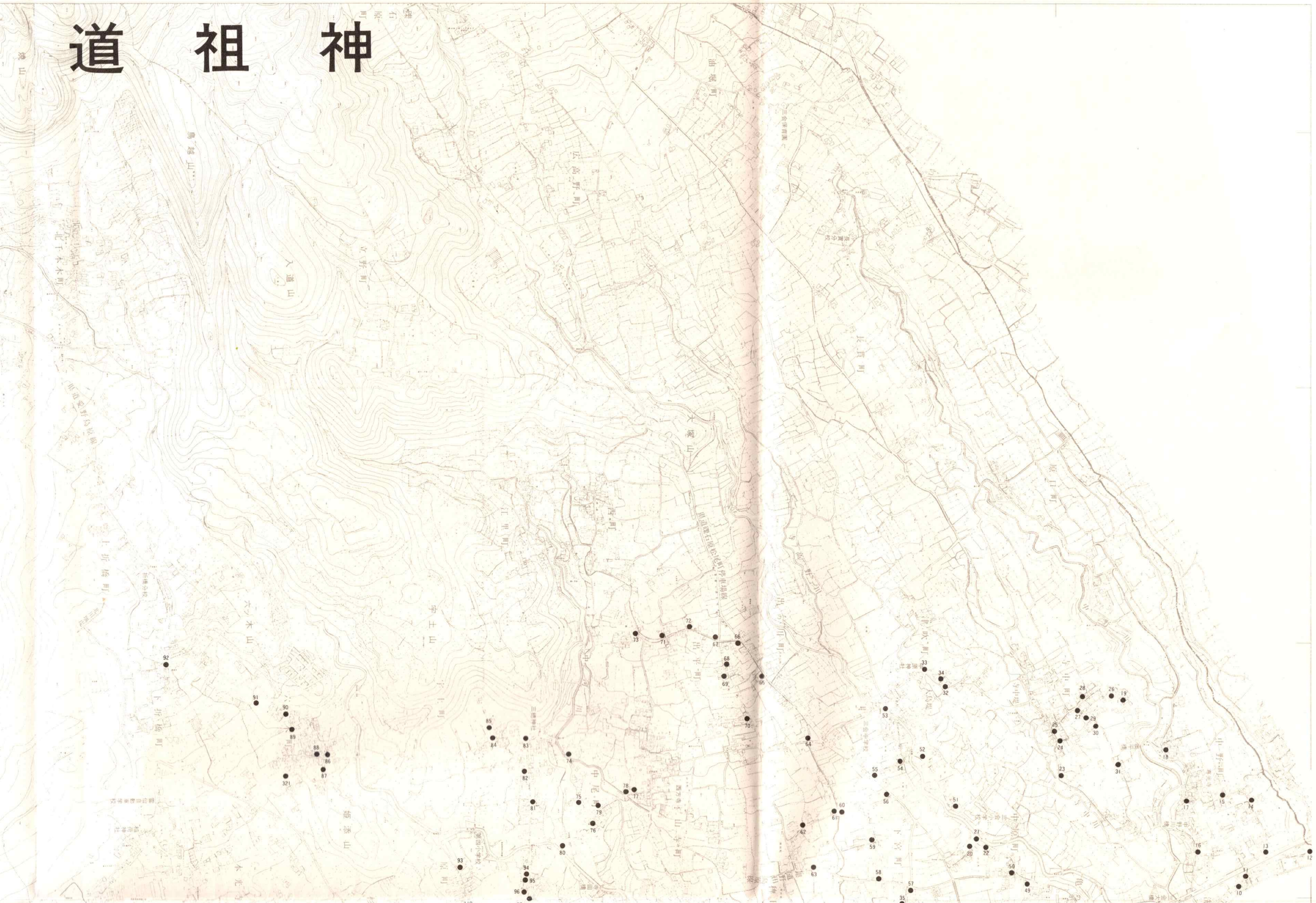
木造	94.9%
RC造	0%
その他	5.1%

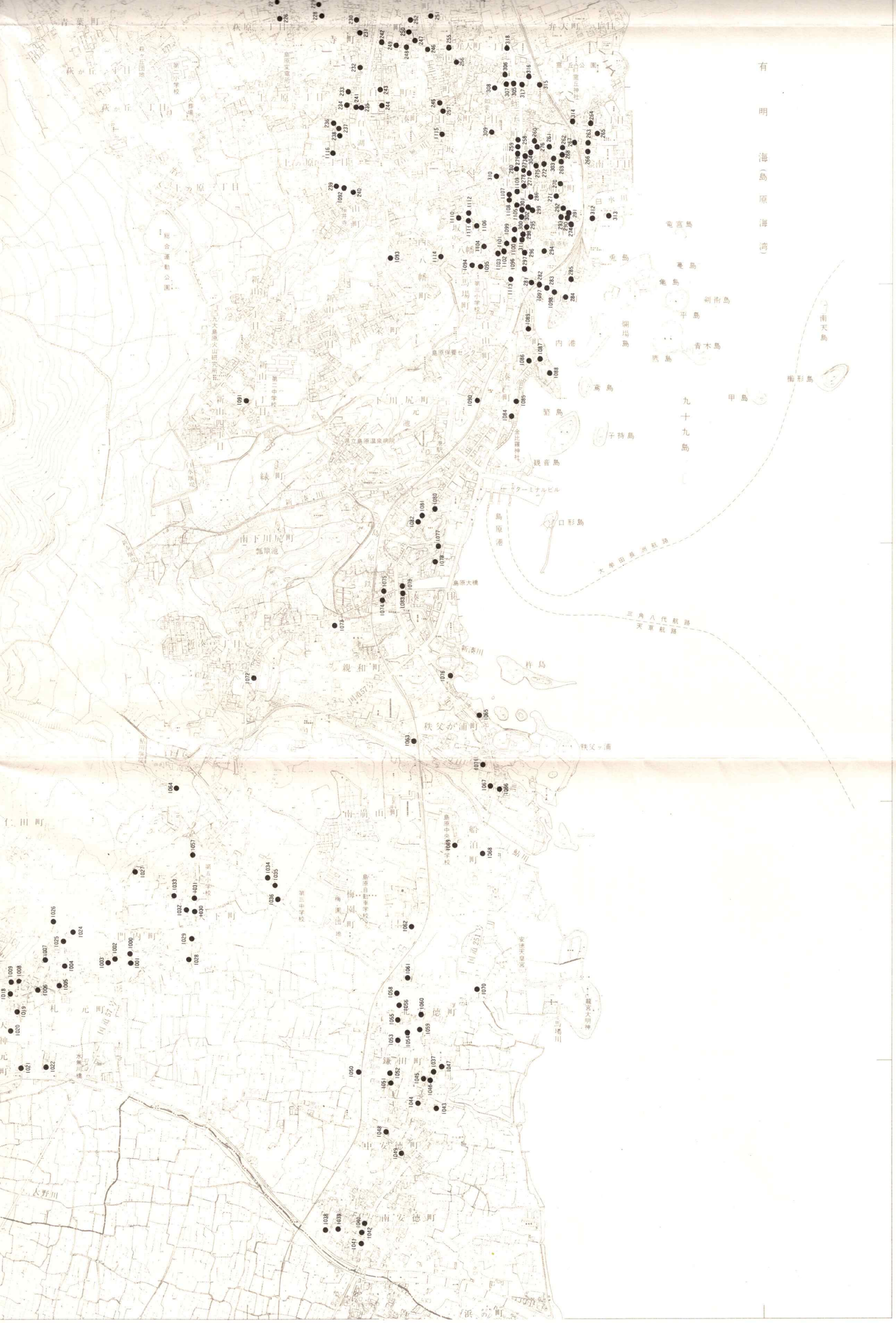


島原の

420
404
380
369
350
346
323
307
592
597
792
水神社
深江町
北千本木町
南千本木町
本町
中町
1016
1017
1015
1014
1013
1011
1010
1012
1023

道　祖　神


焼山
鳥越山
入道山
立野町
広高野町
由堀町
三宝寺
尼寺町
南口町
中
西町
中尼町
三十七
六ッ木
北千木町
上折橋町
下折橋町
研究所
三宝寺
三宝寺
三宝寺


有明海（島原海湾）
九十九島
竜宮島
亀島
平島
青木島
高島
竪島
子持島
観音島
口形島
甲島
南天島
楕形島
内港
島原港
ターミナルビル
島原大橋
新川
新田川
大牟田長洲航路
三角八代航路
天草航路
総合運動公園
九大島原火山研究所
第二中学校
第一中学校
第三中学校
第四中学校
第五中学校
第六中学校
第七中学校
第八中学校
第九中学校
第十中学校
第十一中学校
第十二中学校
第十三中学校
第十四中学校
第十五中学校
第十六中学校
第十七中学校
第十八中学校
第十九中学校
第二十中学校
第二十一中学校
第二十二中学校
第二十三中学校
第二十四中学校
第二十五中学校
第二十六中学校
第二十七中学校
第二十八中学校
第二十九中学校
第三十中学校
第三十一中学校
第三十二中学校
第三十三中学校
第三十四中学校
第三十五中学校
第三十六中学校
第三十七中学校
第三十八中学校
第三十九中学校
第四十中学校
第四十一中学校
第四十二中学校
第四十三中学校
第四十四中学校
第四十五中学校
第四十六中学校
第四十七中学校
第四十八中学校
第四十九中学校
第五十中学校
第五十一中学校
第五十二中学校
第五十三中学校
第五十四中学校
第五十五中学校
第五十六中学校
第五十七中学校
第五十八中学校
第五十九中学校
第六十中学校
第六十一中学校
第六十二中学校
第六十三中学校
第六十四中学校
第六十五中学校
第六十六中学校
第六十七中学校
第六十八中学校
第六十九中学校
第七十中学校
第七十一中学校
第七十二中学校
第七十三中学校
第七十四中学校
第七十五中学校
第七十六中学校
第七十七中学校
第七十八中学校
第七十九中学校
第八十中学校
第八十一中学校
第八十二中学校
第八十三中学校
第八十四中学校
第八十五中学校
第八十六中学校
第八十七中学校
第八十八中学校
第八十九中学校
第九十中学校
第九十一中学校
第九十二中学校
第九十三中学校
第九十四中学校
第九十五中学校
第九十六中学校
第九十七中学校
第九十八中学校
第九十九中学校
第百中学校
第百一中学校
第百二中学校
第百三中学校
第百四中学校
第百五中学校
第百六中学校
第百七中学校
第百八中学校
第百九中学校
第百十中学校
第百十一中学校
第百十二中学校
第百十三中学校
第百十四中学校
第百十五中学校
第百十六中学校
第百十七中学校
第百十八中学校
第百十九中学校
第百二十中学校
第百二十一中学校
第百二十二中学校
第百二十三中学校
第百二十四中学校
第百二十五中学校
第百二十六中学校
第百二十七中学校
第百二十八中学校
第百二十九中学校
第百三十中学校
第百三十一中学校
第百三十二中学校
第百三十三中学校
第百三十四中学校
第百三十五中学校
第百三十六中学校
第百三十七中学校
第百三十八中学校
第百三十九中学校
第百四十中学校
第百四十一中学校
第百四十二中学校
第百四十三中学校
第百四十四中学校
第百四十五中学校
第百四十六中学校
第百四十七中学校
第百四十八中学校
第百四十九中学校
第百五十中学校
第百五十一中学校
第百五十二中学校
第百五十三中学校
第百五十四中学校
第百五十五中学校
第百五十六中学校
第百五十七中学校
第百五十八中学校
第百五十九中学校
第百六十中学校
第百六十一中学校
第百六十二中学校
第百六十三中学校
第百六十四中学校
第百六十五中学校
第百六十六中学校
第百六十七中学校
第百六十八中学校
第百六十九中学校
第百七十中学校
第百七十一中学校
第百七十二中学校
第百七十三中学校
第百七十四中学校
第百七十五中学校
第百七十六中学校
第百七十七中学校
第百七十八中学校
第百七十九中学校
第百八十中学校
第百八十一中学校
第百八十二中学校
第百八十三中学校
第百八十四中学校
第百八十五中学校
第百八十六中学校
第百八十七中学校
第百八十八中学校
第百八十九中学校
第百九十中学校
第百九十一中学校
第百九十二中学校
第百九十三中学校
第百九十四中学校
第百九十五中学校
第百九十六中学校
第百九十七中学校
第百九十八中学校
第百九十九中学校
第二百中学校
第二百一中学校
第二百二中学校
第二百三中学校
第二百四中学校
第二百五中学校
第二百六中学校
第二百七中学校
第二百八中学校
第二百九中学校
第二百十中学校
第二百十一中学校
第二百十二中学校
第二百十三中学校
第二百十四中学校
第二百十五中学校
第二百十六中学校
第二百十七中学校
第二百十八中学校
第二百十九中学校
第二百二十中学校
第二百二十一中学校
第二百二十二中学校
第二百二十三中学校
第二百二十四中学校
第二百二十五中学校
第二百二十六中学校
第二百二十七中学校
第二百二十八中学校
第二百二十九中学校
第二百三十中学校
第二百三十一中学校
第二百三十二中学校
第二百三十三中学校
第二百三十四中学校
第二百三十五中学校
第二百三十六中学校
第二百三十七中学校
第二百三十八中学校
第二百三十九中学校
第二百四十中学校
第二百四十一中学校
第二百四十二中学校
第二百四十三中学校
第二百四十四中学校
第二百四十五中学校
第二百四十六中学校
第二百四十七中学校
第二百四十八中学校
第二百四十九中学校
第二百五十中学校
第二百五十一中学校
第二百五十二中学校
第二百五十三中学校
第二百五十四中学校
第二百五十五中学校
第二百五十六中学校
第二百五十七中学校
第二百五十八中学校
第二百五十九中学校
第二百六十中学校
第二百六十一中学校
第二百六十二中学校
第二百六十三中学校
第二百六十四中学校
第二百六十五中学校
第二百六十六中学校
第二百六十七中学校
第二百六十八中学校
第二百六十九中学校
第二百七十中学校
第二百七十一中学校
第二百七十二中学校
第二百七十三中学校
第二百七十四中学校
第二百七十五中学校
第二百七十六中学校
第二百七十七中学校
第二百七十八中学校
第二百七十九中学校
第二百八十中学校
第二百八十一中学校
第二百八十二中学校
第二百八十三中学校
第二百八十四中学校
第二百八十五中学校
第二百八十六中学校
第二百八十七中学校
第二百八十八中学校
第二百八十九中学校
第二百九十中学校
第二百九十一中学校
第二百九十二中学校
第二百九十三中学校
第二百九十四中学校
第二百九十五中学校
第二百九十六中学校
第二百九十七中学校
第二百九十八中学校
第二百九十九中学校
第三百中学校
第三百一中学校
第三百二中学校
第三百三中学校
第三百四中学校
第三百五中学校
第三百六中学校
第三百七中学校
第三百八中学校
第三百九中学校
第三百十中学校
第三百十一中学校
第三百十二中学校
第三百十三中学校
第三百十四中学校
第三百十五中学校
第三百十六中学校
第三百十七中学校
第三百十八中学校
第三百十九中学校
第三百二十中学校
第三百二十一中学校
第三百二十二中学校
第三百二十三中学校
第三百二十四中学校
第三百二十五中学校
第三百二十六中学校
第三百二十七中学校
第三百二十八中学校
第三百二十九中学校
第三百三十中学校
第三百三十一中学校
第三百三十二中学校
第三百三十三中学校
第三百三十四中学校
第三百三十五中学校
第三百三十六中学校
第三百三十七中学校
第三百三十八中学校
第三百三十九中学校
第三百四十中学校
第三百四十一中学校
第三百四十二中学校
第三百四十三中学校
第三百四十四中学校
第三百四十五中学校
第三百四十六中学校
第三百四十七中学校
第三百四十八中学校
第三百四十九中学校
第三百五十中学校
第三百五十一中学校
第三百五十二中学校
第三百五十三中学校
第三百五十四中学校
第三百五十五中学校
第三百五十六中学校
第三百五十七中学校
第三百五十八中学校
第三百五十九中学校
第三百六十中学校
第三百六十一中学校
第三百六十二中学校
第三百六十三中学校
第三百六十四中学校
第三百六十五中学校
第三百六十六中学校
第三百六十七中学校
第三百六十八中学校
第三百六十九中学校
第三百七十中学校
第三百七十一中学校
第三百七十二中学校
第三百七十三中学校
第三百七十四中学校
第三百七十五中学校
第三百七十六中学校
第三百七十七中学校
第三百七十八中学校
第三百七十九中学校
第三百八十中学校
第三百八十一中学校
第三百八十二中学校
第三百八十三中学校
第三百八十四中学校
第三百八十五中学校
第三百八十六中学校
第三百八十七中学校
第三百八十八中学校
第三百八十九中学校
第三百九十中学校
第三百九十一中学校
第三百九十二中学校
第三百九十三中学校
第三百九十四中学校
第三百九十五中学校
第三百九十六中学校
第三百九十七中学校
第三百九十八中学校
第三百九十九中学校
第四百中学校
第四百一中学校
第四百二中学校
第四百三中学校
第四百四中学校
第四百五中学校
第四百六中学校
第四百七中学校
第四百八中学校
第四百九中学校
第四百十中学校
第四百十一中学校
第四百十二中学校
第四百十三中学校
第四百十四中学校
第四百十五中学校
第四百十六中学校
第四百十七中学校
第四百十八中学校
第四百十九中学校
第四百二十中学校
第四百二十一中学校
第四百二十二中学校
第四百二十三中学校
第四百二十四中学校
第四百二十五中学校
第四百二十六中学校
第四百二十七中学校
第四百二十八中学校
第四百二十九中学校
第四百三十中学校
第四百三十一中学校
第四百三十二中学校
第四百三十三中学校
第四百三十四中学校
第四百三十五中学校
第四百三十六中学校
第四百三十七中学校
第四百三十八中学校
第四百三十九中学校
第四百四十中学校
第四百四十一中学校
第四百四十二中学校
第四百四十三中学校
第四百四十四中学校
第四百四十五中学校
第四百四十六中学校
第四百四十七中学校
第四百四十八中学校
第四百四十九中学校
第四百五十中学校
第四百五十一中学校
第四百五十二中学校
第四百五十三中学校
第四百五十四中学校
第四百五十五中学校
第四百五十六中学校
第四百五十七中学校
第四百五十八中学校
第四百五十九中学校
第四百六十中学校
第四百六十一中学校
第四百六十二中学校
第四百六十三中学校
第四百六十四中学校
第四百六十五中学校
第四百六十六中学校
第四百六十七中学校
第四百六十八中学校
第四百六十九中学校
第四百七十中学校
第四百七十一中学校
第四百七十二中学校
第四百七十三中学校
第四百七十四中学校
第四百七十五中学校
第四百七十六中学校
第四百七十七中学校
第四百七十八中学校
第四百七十九中学校
第四百八十中学校
第四百八十一中学校
第四百八十二中学校
第四百八十三中学校
第四百八十四中学校
第四百八十五中学校
第四百八十六中学校
第四百八十七中学校
第四百八十八中学校
第四百八十九中学校
第四百九十中学校
第四百九十一中学校
第四百九十二中学校
第四百九十三中学校
第四百九十四中学校
第四百九十五中学校
第四百九十六中学校
第四百九十七中学校
第四百九十八中学校
第四百九十九中学校
第五百中学校
第五百一中学校
第五百二中学校
第五百三中学校
第五百四中学校
第五百五中学校
第五百六中学校
第五百七中学校
第五百八中学校
第五百九中学校
第五百十中学校
第五百十一中学校
第五百十二中学校
第五百十三中学校
第五百十四中学校
第五百十五中学校
第五百十六中学校
第五百十七中学校
第五百十八中学校
第五百十九中学校
第五百二十中学校
第五百二十一中学校
第五百二十二中学校
第五百二十三中学校
第五百二十四中学校
第五百二十五中学校
第五百二十六中学校
第五百二十七中学校
第五百二十八中学校
第五百二十九中学校
第五百三十中学校
第五百三十一中学校
第五百三十二中学校
第五百三十三中学校
第五百三十四中学校
第五百三十五中学校
第五百三十六中学校
第五百三十七中学校
第五百三十八中学校
第五百三十九中学校
第五百四十中学校
第五百四十一中学校
第五百四十二中学校
第五百四十三中学校
第五百四十四中学校
第五百四十五中学校
第五百四十六中学校
第五百四十七中学校
第五百四十八中学校
第五百四十九中学校
第五百五十中学校
第五百五十一中学校
第五百五十二中学校
第五百五十三中学校
第五百五十四中学校
第五百五十五中学校
第五百五十六中学校
第五百五十七中学校
第五百五十八中学校
第五百五十九中学校
第五百六十中学校
第五百六十一中学校
第五百六十二中学校
第五百六十三中学校
第五百六十四中学校
第五百六十五中学校
第五百六十六中学校
第五百六十七中学校
第五百六十八中学校
第五百六十九中学校
第五百七十中学校
第五百七十一中学校
第五百七十二中学校
第五百七十三中学校
第五百七十四中学校
第五百七十五中学校
第五百七十六中学校
第五百七十七中学校
第五百七十八中学校
第五百七十九中学校
第五百八十中学校
第五百八十一中学校
第五百八十二中学校
第五百八十三中学校
第五百八十四中学校
第五百八十五中学校
第五百八十六中学校
第五百八十七中学校
第五百八十八中学校
第五百八十九中学校
第五百九十中学校
第五百九十一中学校
第五百九十二中学校
第五百九十三中学校
第五百九十四中学校
第五百九十五中学校
第五百九十六中学校
第五百九十七中学校
第五百九十八中学校
第五百九十九中学校
第六百中学校
第六百一中学校
第六百二中学校
第六百三中学校
第六百四中学校
第六百五中学校
第六百六中学校
第六百七中学校
第六百八中学校
第六百九中学校
第六百十中学校
第六百十一中学校
第六百十二中学校
第六百十三中学校
第六百十四中学校
第六百十五中学校
第六百十六中学校
第六百十七中学校
第六百十八中学校
第六百十九中学校
第六百二十中学校
第六百二十一中学校
第六百二十二中学校
第六百二十三中学校
第六百二十四中学校
第六百二十五中学校
第六百二十六中学校
第六百二十七中学校
第六百二十八中学校
第六百二十九中学校
第六百三十中学校
第六百三十一中学校
第六百三十二中学校
第六百三十三中学校
第六百三十四中学校
第六百三十五中学校
第六百三十六中学校
第六百三十七中学校
第六百三十八中学校
第六百三十九中学校
第六百四十中学校
第六百四十一中学校
第六百四十二中学校
第六百四十三中学校
第六百四十四中学校
第六百四十五中学校
第六百四十六中学校
第六百四十七中学校
第六百四十八中学校
第六百四十九中学校
第六百五十中学校
第六百五十一中学校
第六百五十二中学校
第六百五十三中学校
第六百五十四中学校
第六百五十五中学校
第六百五十六中学校
第六百五十七中学校
第六百五十八中学校
第六百五十九中学校
第六百六十中学校
第六百六十一中学校
第六百六十二中学校
第六百六十三中学校
第六百六十四中学校
第六百六十五中学校
第六百六十六中学校
第六百六十七中学校
第六百六十八中学校
第六百六十九中学校
第六百七十中学校
第六百七十一中学校
第六百七十二中学校
第六百七十三中学校
第六百七十四中学校
第六百七十五中学校
第六百七十六中学校
第六百七十七中学校
第六百七十八中学校
第六百七十九中学校
第六百八十中学校
第六百八十一中学校
第六百八十二中学校
第六百八十三中学校
第六百八十四中学校
第六百八十五中学校
第六百八十六中学校
第六百八十七中学校
第六百八十八中学校
第六百八十九中学校
第六百九十中学校
第六百九十一中学校
第六百九十二中学校
第六百九十三中学校
第六百九十四中学校
第六百九十五中学校
第六百九十六中学校
第六百九十七中学校
第六百九十八中学校
第六百九十九中学校
第七百中学校
第七百一中学校
第七百二中学校
第七百三中学校
第七百四中学校
第七百五中学校
第七百六中学校
第七百七中学校
第七百八中学校
第七百九中学校
第七百十中学校
第七百十一中学校
第七百十二中学校
第七百十三中学校
第七百十四中学校
第七百十五中学校
第七百十六中学校
第七百十七中学校
第七百十八中学校
第七百十九中学校
第七百二十中学校
第七百二十一中学校
第七百二十二中学校
第七百二十三中学校
第七百二十四中学校
第七百二十五中学校
第七百二十六中学校
第七百二十七中学校
第七百二十八中学校
第七百二十九中学校
第七百三十中学校
第七百三十一中学校
第七百三十二中学校
第七百三十三中学校
第七百三十四中学校
第七百三十五中学校
第七百三十六中学校
第七百三十七中学校
第七百三十八中学校
第七百三十九中学校
第七百四十中学校
第七百四十一中学校
第七百四十二中学校
第七百四十三中学校
第七百四十四中学校
第七百四十五中学校
第七百四十六中学校
第七百四十七中学校
第七百四十八中学校
第七百四十九中学校
第七百五十中学校
第七百五十一中学校
第七百五十二中学校
第七百五十三中学校
第七百五十四中学校
第七百五十五中学校
第七百五十六中学校
第七百五十七中学校
第七百五十八中学校
第七百五十九中学校
第七百六十中学校
第七百六十一中学校
第七百六十二中学校
第七百六十三中学校
第七百六十四中学校
第七百六十五中学校
第七百六十六中学校
第七百六十七中学校
第七百六十八中学校
第七百六十九中学校
第七百七十中学校
第七百七十一中学校
第七百七十二中学校
第七百七十三中学校
第七百七十四中学校
第七百七十五中学校
第七百七十六中学校
第七百七十七中学校
第七百七十八中学校
第七百七十九中学校
第七百八十中学校
第七百八十一中学校
第七百八十二中学校
第七百八十三中学校
第七百八十四中学校
第七百八十五中学校
第七百八十六中学校
第七百八十七中学校
第七百八十八中学校
第七百八十九中学校
第七百九十中学校
第七百九十一中学校
第七百九十二中学校
第七百九十三中学校
第七百九十四中学校
第七百九十五中学校
第七百九十六中学校
第七百九十七中学校
第七百九十八中学校
第七百九十九中学校
第八百中学校
第八百一中学校
第八百二中学校
第八百三中学校
第八百四中学校
第八百五中学校
第八百六中学校
第八百七中学校
第八百八中学校
第八百九中学校
第八百十中学校
第八百十一中学校
第八百十二中学校
第八百十三中学校
第八百十四中学校
第八百十五中学校
第八百十六中学校
第八百十七中学校
第八百十八中学校
第八百十九中学校
第八百二十中学校
第八百二十一中学校
第八百二十二中学校
第八百二十三中学校
第八百二十四中学校
第八百二十五中学校
第八百二十六中学校
第八百二十七中学校
第八百二十八中学校
第八百二十九中学校
第八百三十中学校
第八百三十一中学校
第八百三十二中学校
第八百三十三中学校
第八百三十四中学校
第八百三十五中学校
第八百三十六中学校
第八百三十七中学校
第八百三十八中学校
第八百三十九中学校
第八百四十中学校
第八百四十一中学校
第八百四十二中学校
第八百四十三中学校
第八百四十四中学校
第八百四十五中学校
第八百四十六中学校
第八百四十七中学校
第八百四十八中学校
第八百四十九中学校
第八百五十中学校
第八百五十一中学校
第八百五十二中学校
第八百五十三中学校
第八百五十四中学校
第八百五十五中学校
第八百五十六中学校
第八百五十七中学校
第八百五十八中学校
第八百五十九中学校
第八百六十中学校
第八百六十一中学校
第八百六十二中学校
第八百六十三中学校
第八百六十四中学校
第八百六十五中学校
第八百六十六中学校
第八百六十七中学校
第八百六十八中学校
第八百六十九中学校
第八百七十中学校
第八百七十一中学校
第八百七十二中学校
第八百七十三中学校
第八百七十四中学校
第八百七十五中学校
第八百七十六中学校
第八百七十七中学校
第八百七十八中学校
第八百七十九中学校
第八百八十中学校
第八百八十一中学校
第八百八十二中学校
第八百八十三中学校
第八百八十四中学校
第八百八十五中学校
第八百八十六中学校
第八百八十七中学校
第八百八十八中学校
第八百八十九中学校
第八百九十中学校
第八百九十一中学校
第八百九十二中学校
第八百九十三中学校
第八百九十四中学校
第八百九十五中学校
第八百九十六中学校
第八百九十七中学校
第八百九十八中学校
第八百九十九中学校
第九百中学校
第九百一中学校
第九百二中学校
第九百三中学校
第九百四中学校
第九百五中学校
第九百六中学校
第九百七中学校
第九百八中学校
第九百九中学校
第九百十中学校
第九百十一中学校
第九百十二中学校
第九百十三中学校
第九百十四中学校
第九百十五中学校
第九百十六中学校
第九百十七中学校
第九百十八中学校
第九百十九中学校
第九百二十中学校
第九百二十一中学校
第九百二十二中学校
第九百二十三中学校
第九百二十四中学校
第九百二十五中学校
第九百二十六中学校
第九百二十七中学校
第九百二十八中学校
第九百二十九中学校
第九百三十中学校
第九百三十一中学校
第九百三十二中学校
第九百三十三中学校
第九百三十四中学校
第九百三十五中学校
第九百三十六中学校
第九百三十七中学校
第九百三十八中学校
第九百三十九中学校
第九百四十中学校
第九百四十一中学校
第九百四十二中学校
第九百四十三中学校
第九百四十四中学校
第九百四十五中学校
第九百四十六中学校
第九百四十七中学校
第九百四十八中学校
第九百四十九中学校
第九百五十中学校
第九百五十一中学校
第九百五十二中学校
第九百五十三中学校
第九百五十四中学校
第九百五十五中学校
第九百五十六中学校
第九百五十七中学校
第九百五十八中学校
第九百五十九中学校
第九百六十中学校
第九百六十一中学校
第九百六十二中学校
第九百六十三中学校
第九百六十四中学校
第九百六十五中学校
第九百六十六中学校
第九百六十七中学校
第九百六十八中学校
第九百六十九中学校
第九百七十中学校
第九百七十一中学校
第九百七十二中学校
第九百七十三中学校
第九百七十四中学校
第九百七十五中学校
第九百七十六中学校
第九百七十七中学校
第九百七十八中学校
第九百七十九中学校
第九百八十中学校
第九百八十一中学校
第九百八十二中学校
第九百八十三中学校
第九百八十四中学校
第九百八十五中学校
第九百八十六中学校
第九百八十七中学校
第九百八十八中学校
第九百八十九中学校
第九百九十中学校
第九百九十一中学校
第九百九十二中学校
第九百九十三中学校
第九百九十四中学校
第九百九十五中学校
第九百九十六中学校
第九百九十七中学校
第九百九十八中学校
第九百九十九中学校
第千中学校
第千一中学校
第千二中学校
第千三中学校
第千四中学校
第千五中学校
第千六中学校
第千七中学校
第千八中学校
第千九中学校
第千十中学校
第千十一中学校
第千十二中学校
第千十三中学校
第千十四中学校
第千十五中学校
第千十六中学校
第千十七中学校
第千十八中学校
第千十九中学校
第千二十中学校
第千二十一中学校
第千二十二中学校
第千二十三中学校
第千二十四中学校
第千二十五中学校
第千二十六中学校
第千二十七中学校
第千二十八中学校
第千二十九中学校
第千三十中学校
第千三十一中学校
第千三十二中学校
第千三十三中学校
第千三十四中学校
第千三十五中学校
第千三十六中学校
第千三十七中学校
第千三十八中学校
第千三十九中学校
第千四十中学校
第千四十一中学校
第千四十二中学校
第千四十三中学校
第千四十四中学校
第千四十五中学校
第千四十六中学校
第千四十七中学校
第千四十八中学校
第千四十九中学校
第千五十中学校
第千五十一中学校
第千五十二中学校
第千五十三中学校
第千五十四中学校
第千五十五中学校
第千五十六中学校
第千五十七中学校
第千五十八中学校
第千五十九中学校
第千六十中学校
第千六十一中学校
第千六十二中学校
第千六十三中学校
第千六十四中学校
第千六十五中学校
第千六十六中学校
第千六十七中学校
第千六十八中学校
第千六十九中学校
第千七十中学校
第千七十一中学校
第千七十二中学校
第千七十三中学校
第千七十四中学校
第千七十五中学校
第千七十六中学校
第千七十七中学校
第千七十八中学校
第千七十九中学校
第千八十中学校
第千八十一中学校
第千八十二中学校
第千八十三中学校
第千八十四中学校
第千八十五中学校
第千八十六中学校
第千八十七中学校
第千八十八中学校
第千八十九中学校
第千九十中学校
第千九十一中学校
第千九十二中学校
第千九十三中学校
第千九十四中学校
第千九十五中学校
第千九十六中学校
第千九十七中学校
第千九十八中学校
第千九十九中学校
第二千中学校
第二千一中学校
第二千二中学校
第二千三中学校
第二千四中学校
第二千五中学校
第二千六中学校
第二千七中学校
第二千八中学校
第二千九中学校
第二千十中学校
第二千十一中学校
第二千十二中学校
第二千十三中学校
第二千十四中学校
第二千十五中学校
第二千十六中学校
第二千十七中学校
第二千十八中学校
第二千十九中学校
第二千二十中学校
第二千二十一中学校
第二千二十二中学校
第二千二十三中学校
第二千二十四中学校
第二千二十五中学校
第二千二十六中学校
第二千二十七中学校
第二千二十八中学校
第二千二十九中学校
第二千三十中学校
第二千三十一中学校
第二千三十二中学校
第二千三十三中学校
第二千三十四中学校
第二千三十五中学校
第二千三十六中学校
第二千三十七中学校
第二千三十八中学校
第二千三十九中学校
第二千四十中学校
第二千四十一中学校
第二千四十二中学校
第二千四十三中学校
第二千四十四中学校
第二千四十五中学校
第二千四十六中学校
第二千四十七中学校
第二千四十八中学校
第二千四十九中学校
第二千五十中学校
第二千五十一中学校
第二千五十二中学校
第二千五十三中学校
第二千五十四中学校
第二千五十五中学校
第二千五十六中学校
第二千五十七中学校
第二千五十八中学校
第二千五十九中学校
第二千六十中学校
第二千六十一中学校
第二千六十二中学校
第二千六十三中学校
第二千六十四中学校
第二千六十五中学校
第二千六十六中学校
第二千六十七中学校
第二千六十八中学校
第二千六十九中学校
第二千七十中学校
第二千七十一中学校
第二千七十二中学校
第二千七十三中学校
第二千七十四中学校
第二千七十五中学校
第二千七十六中学校
第二千七十七中学校
第二千七十八中学校
第二千七十九中学校
第二千八十中学校
第二千八十一中学校
第二千八十二中学校
第二千八十三中学校
第二千八十四中学校
第二千八十五中学校
第二千八十六中学校
第二千八十七中学校
第二千八十八中学校
第二千八十九中学校
第二千九十中学校
第二千九十一中学校
第二千九十二中学校
第二千九十三中学校
第二千九十四中学校
第二千九十五中学校
第二千九十六中学校
第二千九十七中学校
第二千九十八中学校
第二千九十九中学校
第三千中学校
第三千一中学校
第三千二中学校
第三千三中学校
第三千四中学校
第三千五中学校
第三千六中学校
第三千七中学校
第三千八中学校
第三千九中学校
第三千十中学校
第三千十一中学校
第三千十二中学校
第三千十三中学校
第三千十四中学校
第三千十五中学校
第三千十六中学校
第三千十七中学校
第三千十八中学校
第三千十九中学校
第三千二十中学校
第三千二十一中学校
第三千二十二中学校
第三千二十三中学校
第三千二十四中学校
第三千二十五中学校
第三千二十六中学校
第三千二十七中学校
第三千二十八中学校
第三千二十九中学校
第三千三十中学校
第三千三十一中学校
第三千三十二中学校
第三千三十三中学校
第三千三十四中学校
第三千三十五中学校
第三千三十六中学校
第三千三十七中学校
第三千三十八中学校
第三千三十九中学校
第三千四十中学校
第三千四十一中学校
第三千四十二中学校
第三千四十三中学校
第三千四十四中学校
第三千四十五中学校
第三千四十六中学校
第三千四十七中学校
第三千四十八中学校
第三千四十九中学校
第三千五十中学校
第三千五十一中学校
第三千五十二中学校
第三千五十三中学校
第三千五十四中学校
第三千五十五中学校
第三千五十六中学校
第三千五十七中学校
第三千五十八中学校
第三千五十九中学校
第三千六十中学校
第三千六十一中学校
第三千六十二中学校
第三千六十三中学校
第三千六十四中学校
第三千六十五中学校
第三千六十六中学校
第三千六十七中学校
第三千六十八中学校
第三千六十九中学校
第三千七十中学校
第三千七十一中学校
第三千七十二中学校
第三千七十三中学校
第三千七十四中学校
第三千七十五中学校
第三千七十六中学校
第三千七十七中学校
第三千七十八中学校
第三千七十九中学校
第三千八十中学校
第三千八十一中学校
第三千八十二中学校
第三千八十三中学校
第三千八十四中学校
第三千八十五中学校
第三千八十六中学校
第三千八十七中学校
第三千八十八中学校
第三千八十九中学校
第三千九十中学校
第三千九十一中学校
第三千九十二中学校
第三千九十三中学校
第三千九十四中学校
第三千九十五中学校
第三千九十六中学校
第三千九十七中学校
第三千九十八中学校
第三千九十九中学校
第四千中学校
第四千一中学校
第四千二中学校
第四千三中学校
第四千四中学校
第四千五中学校
第四千六中学校
第四千七中学校
第四千八中学校
第四千九中学校
第四千十中学校
第四千十一中学校
第四千十二中学校
第四千十三中学校
第四千十四中学校
第四千十五中学校
第四千十六中学校
第四千十七中学校
第四千十八中学校
第四千十九中学校
第四千二十中学校
第四千二十一中学校
第四千二十二中学校
第四千二十三中学校
第四千二十四中学校
第四千二十五中学校
第四千二十六中学校
第四千二十七中学校
第四千二十八中学校
第四千二十九中学校
第四千三十中学校
第四千三十一中学校
第四千三十二中学校
第四千三十三中学校
第四千三十四中学校
第四千三十五中学校
第四千三十六中学校
第四千三十七中学校
第四千三十八中学校
第四千三十九中学校
第四千四十中学校
第四千四十一中学校
第四千四十二中学校
第四千四十三中学校
第四千四十四中学校
第四千四十五中学校
第四千四十六中学校
第四千四十七中学校
第四千四十八中学校
第四千四十九中学校
第四千五十中学校
第四千五十一中学校
第四千五十二中学校
第四千五十三中学校
第四千五十四中学校
第四千五十五中学校
第四千五十六中学校
第四千五十七中学校
第四千五十八中学校
第四千五十九中学校
第四千六十中学校
第四千六十一中学校
第四千六十二中学校
第四千六十三中学校
第四千六十四中学校
第四千六十五中学校
第四千六十六中学校
第四千六十七中学校
第四千六十八中学校
第四千六十九中学校
第四千七十中学校
第四千七十一中学校
第四千七十二中学校
第四千七十三中学校
第四千七十四中学校
第四千七十五中学校
第四千七十六中学校
第四千七十七中学校
第四千七十八中学校
第四千七十九中学校
第四千八十中学校
第四千八十一中学校
第四千八十二中学校
第四千八十三中学校
第四千八十四中学校
第四千八十五中学校
第四千八十六中学校
第四千八十七中学校
第四千八十八中学校
第四千八十九中学校
第四千九十中学校
第四千九十一中学校
第四千九十二中学校
第四千九十三中学校
第四千九十四中学校
第四千九十五中学校
第四千九十六中学校
第四千九十七中学校
第四千九十八中学校
第四千九十九中学校
第五千中学校
第五千一中学校
第五千二中学校
第五千三中学校
第五千四中学校
第五千五中学校
第五千六中学校
第五千七中学校
第五千八中学校
第五千九中学校
第五千十中学校
第五千十一中学校
第五千十二中学校
第五千十三中学校
第五千十四中学校
第五千十五中学校
第五千十六中学校
第五千十七中学校
第五千十八中学校
第五千十九中学校
第五千二十中学校
第五千二十一中学校
第五千二十二中学校
第五千二十三中学校
第五千二十四中学校
第五千二十五中学校
第五千二十六中学校
第五千二十七中学校
第五千二十八中学校
第五千二十九中学校
第五千三十中学校
第五千三十一中学校
第五千三十二中学校
第五千三十三中学校
第五千三十四中学校
第五千三十五中学校
第五千三十六中学校
第五千三十七中学校
第五千三十八中学校
第五千三十九中学校
第五千四十中学校
第五千四十一中学校
第五千四十二中学校
第五千四十三中学校
第五千四十四中学校
第五千四十五中学校
第五千四十六中学校
第五千四十七中学校
第五千四十八中学校
第五千四十九中学校
第五千五十中学校
第五千五十一中学校
第五千五十二中学校
第五千五十三中学校
第五千五十四中学校
第五千五十五中学校
第五千五十六中学校
第五千五十七中学校
第五千五十八中学校
第五千五十九中学校
第五千六十中学校
第五千六十一中学校
第五千六十二中学校
第五千六十三中学校
第五千六十四中学校
第五千六十五中学校
第五千六十六中学校
第五千六十七中学校
第五千六十八中学校
第五千六十九中学校
第五千七十中学校
第五千七十一中学校
第五千七十二中学校
第五千七十三中学校
第五千七十四中学校
第五千七十五中学校
第五千七十六中学校
第五千七十七中学校
第五千七十八中学校
第五千七十九中学校
第五千八十中学校
第五千八十一中学校
第五千八十二中学校
第五千八十三中学校
第五千八十四中学校
第五千八十五中学校
第五千八十六中学校
第五千八十七中学校
第五千八十八中学校
第五千八十九中学校
第五千九十中学校
第五千九十一中学校
第五千九十二中学校
第五千九十三中学校
第五千九十四中学校
第五千九十五中学校
第五千九十六中学校
第五千九十七中学校
第五千九十八中学校
第五千九十九中学校
第六千中学校
第六千一中学校
第六千二中学校
第六千三中学校
第六千四中学校
第六千五中学校
第六千六中学校
第六千七中学校
第六千八中学校
第六千九中学校
第六千十中学校
第六千十一中学校
第六千十二中学校
第六千十三中学校
第六千十四中学校
第六千十五中学校
第六千十六中学校
第六千十七中学校
第六千十八中学校
第六千十九中学校
第六千二十中学校
第六千二十一中学校
第六千二十二中学校
第六千二十三中学校
第六千二十四中学校
第六千二十五中学校
第六千二十六中学校
第六千二十七中学校
第六千二十八中学校
第六千二十九中学校
第六千三十中学校
第六千三十一中学校
第六千三十二中学校
第六千三十三中学校
第六千三十四中学校
第六千三十五中学校
第六千三十六中学校
第六千三十七中学校
第六千三十八中学校
第六千三十九中学校
第六千四十中学校
第六千四十一中学校
第六千四十二中学校
第六千四十三中学校
第六千四十四中学校
第六千四十五中学校
第六千四十六中学校
第六千四十七中学校
第六千四十八中学校
第六千四十九中学校
第六千五十中学校
第六千五十一中学校
第六千五十二中学校
第六千五十三中学校
第六千五十四中学校
第六千五十五中学校
第六千五十六中学校
第六千五十七中学校
第六千五十八中学校
第六千五十九中学校
第六千六十中学校
第六千六十一中学校
第六千六十二中学校
第六千六十三中学校
第六千六十四中学校
第六千六十五中学校
第六千六十六中学校
第六千六十七中学校
第六千六十八中学校
第六千六十九中学校
第六千七十中学校
第六千七十一中学校
第六千七十二中学校
第六千七十三中学校
第六千七十四中学校
第六千七十五中学校
第六千七十六中学校
第六千七十七中学校
第六千七十八中学校
第六千七十九中学校
第六千八十中学校
第六千八十一中学校
第六千八十二中学校
第六千八十三中学校
第六千八十四中学校
第六千八十五中学校
第六千八十六中学校
第六千八十七中学校
第六千八十八中学校
第六千八十九中学校
第六千九十中学校
第六千九十一中学校
第六千九十二中学校
第六千九十三中学校
第六千九十四中学校
第六千九十五中学校
第六千九十六中学校
第六千九十七中学校
第六千九十八中学校
第六千九十九中学校
第七千中学校
第七千一中学校
第七千二中学校
第七千三中学校
第七千四中学校
第七千五中学校
第七千六中学校
第七千七中学校
第七千八中学校
第七千九中学校
第七千十中学校
第七千十一中学校
第七千十二中学校
第七千十三中学校
第七千十四中学校
第七千十五中学校
第七千十六中学校
第七千十七中学校
第七千十八中学校
第七千十九中学校
第七千二十中学校
第七千二十一中学校
第七千二十二中学校
第七千二十三中学校
第七千二十四中学校
第七千二十五中学校
第七千二十六中学校
第七千二十七中学校
第七千二十八中学校
第七千二十九中学校
第七千三十中学校
第七千三十一中学校
第七千三十二中学校
第七千三十三中学校
第七千三十四中学校
第七千三十五中学校
第七千三十六中学校
第七千三十七中学校
第七千三十八中学校
第七千三十九中学校
第七千四十中学校
第七千四十一中学校
第七千四十二中学校
第七千四十三中学校
第七千四十四中学校
第七千四十五中学校
第七千四十六中学校
第七千四十七中学校
第七千四十八中学校
第七千四十九中学校
第七千五十中学校
第七千五十一中学校
第七千五十二中学校
第七千五十三中学校
第七千五十四中学校
第七千五十五中学校
第七千五十六中学校
第七千五十七中学校
第七千五十八中学校
第七千五十九中学校
第七千六十中学校
第七千六十一中学校
第七千六十二中学校
第七千六十三中学校
第七千六十四中学校
第七千六十五中学校
第七千六十六中学校
第七千六十七中学校
第七千六十八中学校
第七千六十九中学校
第七千七十中学校
第七千七十一中学校
第七千七十二中学校
第七千七十三中学校
第七千七十四中学校
第七千七十五中学校
第七千七十六中学校
第七千七十七中学校
第七千七十八中学校
第七千七十九中学校
第七千八十中学校
第七千八十一中学校
第七千八十二中学校
第七千八十三中学校
第七千八十四中学校
第七千八十五中学校
第七千八十六中学校
第七千八十七中

三会漁港
西川
大手原町
新港
中河川
中尾川
前浜町
北川
北門町
本町
柏野町
城内
新馬場町
田町
猛島漁港
新田町
大手浜
萩原
吉英町
弁天町
島原工業高等学校
結雲団地
柿木団地
第一小学校
島原市役所
甚三郎山